狙われた学園（制服女子高生レイプ）

ｎｏｎ．ｎｏ

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

このＰＤＦファイルは小説家になろうグループサイトで掲載中の作品をＰＤＦ化したものです。
このＰＤＦファイルおよび作品の取り扱いについては、小説家になろう利用規約が適用されます。そのため、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止いたします。作品の紹介や個人用途での印刷および保存にはご自由にお使いください。

【作品タイトル】
狙われた学園（制服女子高生レイプ）

【Ｎコード】
Ｎ０９４０ＢＬ

【作者名】
ｎｏｎ．ｎｏ

【あらすじ】
アクセス数２００万超え有り難うございます。
男達はただ興奮の為だけに、純潔な少女達の白い素肌を求めて、セーラー服の少女達の身体を犯したい♪
次々と男達の手により、処女膜をぶち破られて、子宮内に精液を放出されて、孕ませられる…少女達

評価やレビュー、感想に提案を心よりお待ちしています。
頂いたらお礼に伺いますね宜しくお願いいたします。

昨日のアクセス数４２０００
沢山の方に観覧して頂きありがとうございます。

まだ男達により少女強姦は続きます女子高生レイプから更に処女の若い少女達を求めて…

ｎｏｎ・ｎｏはエブリで執筆中の作家

ｍｉｙｕｋｉ－石川さんを応援しています

代表作品
この空の下で（完全版）
応援宜しくお願いいたします。

狙われた女子高生

男達の名前は、マキトに羽山
2人の男はワンボックス車の中で、朝の通学路を学校に向かって歩いている少女達を見つめていた。

マキトは少女趣味である、まだ純潔の処女膜を持った女の子にしか興味を示さない…少女達の白い素肌に触りたい、処女膜をぶち破り子宮内に精液をたっぷりと流し入れて孕ませる事だけにしか頭の中にない男だ。
羽山はセーラー服レイプが趣味の男だ、セーラー服着た少女達しか狙わない！強姦レイプして、処女膜を自分のペニスで破り子宮内に精液を放出されて、孕ませる事にだけにしか興奮を覚えない異常な性欲者だ！！

2人の男は、

車の脇を通り過ぎて学校に向かって歩いている少女をひたすら物色していた♪

今目の前を歩いている少女3人を眼にしてマキトは、微笑み出した。

「今日はあの3人にしょうぜ♪」

羽山も「良いね！俺は真ん中の娘にするからな…」

「俺は両端の２人を頂く！！」

３人の少女達は、白いセーラー服にミニでヒダのあるプリッツスカートを履いた可愛らしい女の子３人だった。

左の女の子は、ダブルティールの髪が可愛らしい、目が大きく、バストはＤカップぐらいだ、セーラー服越しには大きさは分かりにくい…身長は１５５センチと少し小柄であるが、バストやお尻の形は良い感じで発育している。

真ん中の娘は、身長１６５センチ位でメガネっ娘だ、バストは、Ｃカップより少し大きな感じで発育途中見たいな女の子、お尻は少し小さな感じである。スカートから覗いている、素足に視線が注がれる…早く触りたい♪

隣の娘は、ロングヘアーのサラサラの黒い髪の毛が眼をひく女の子だ、身長は１６０センチ位で、バストもＤカップ以上に見える、目が大きく可愛らしタイプの女の子だった。

早く触りたい、セーラー服越しに乳房に触りたい！！

男達は、ゆっくりと車を動かして少女達の後ろから近づいて行った…

セーラー服レイプ（前書き）

セーラー服や制服女子高生達は男達に強姦レイプされる…少女達の白い素肌が男達やクラスメイトの前に曝される。

セーラー服レイプ

セーラー服や制服女子生徒を次々と強姦レイプして、処女膜をぶち破り子宮に精液を放出して、孕ませる!!嫌がる処女の女の子達は…女子高生達や女子中学生達の白い素肌か男達やクラスメイトの前に曝される。男達はただ、処女の少女達の身体だけが目的に次々と強姦し続ける、学校や自宅など少女達の居る場所を捜しだし可愛らし少女達を見つけは、犯し続けて行く・・・男達の犯したい少女達は全てまだ純潔な処女膜を持った女の子だった。

男達はゆっくりと少女達の後ろから近づいて、車を停めた！

「すみません！道を尋ねたいのですが？マリネ学園に行きたいのですが、教えて貰えませんでしょうか？」

女の子３人は「私達マリネ学園の生徒ですよ」

「なら一緒に車に乗って教えて下さい、私達は学園長に逢いに往くところなんですよ！丁度良かった、君達がマリネ学園の生徒でラッキーだっよ♪」

助手席の羽山は、ドアを開けて車から降りて、女の子３人を後ろのドアを開けて車に載せた！

「どうぞ、学園までゆっくりして、お礼にジュースやコーヒーでもどうぞお飲み下さいね」

羽山は女の子３人に睡眠薬入りのジュースやコーヒーを渡した！

女の子の１人が「私達の学園は、次の交差点を右折したら、２００メートル先に見えて来ますよ。」

「ありがとう♪助かります。」

女の子3人は飲み物を口にした、交差点を右折したころには、3人供に睡眠薬がききはじめて、うとうとし初めた。

車はマリネ学園の前を3人の少女を載せたまま通過してしまった！

「あっ・・・ここ…学校ですよ…」

女の子のか弱い声が車内に聞こえたが、男は気にしないで車を走らせた！

女の子3人は、睡眠薬が完全に身体の精神状態を麻痺させ初めて、深い睡眠に入っていった…

曝される

男達は女子高生3人を近くにある無人の建物に抱え込んで入れた！

3人供にまだ眠っている、白いセーラー服の胸元には、緑色のスカーフがある！3人は一年生だ、マリネ学園の女性徒は、一年生のスカーフは緑色と決まって要るから直ぐに判った！二年は、黄色で三年が赤に成っている。

マキトと羽山は女の子を抱き上げて、部屋の中へ運び込んだ！

マキトは車に戻り3人目の女の子を抱えて部屋の中へ運び込んで来た。

3人供に仰向けにして、全身を見渡した！

スタイルも良く、まだ幼さが見える女の子だった。

ひとりづつ眼を覚まして強姦しょうか？

3人一緒に起こしてヤルかをマキトと羽山は相談していた。

マキトは「3人を起こす前に処女検査が必要だよな♪」

「確かに俺も其れには賛成だ処女膜を破り、泣き叫ぶ姿が最高に興奮するからな！！」

じゃあひとりづつ、眼を覚ましてヤル事にするか？

羽山は、３人のスクールバッグの中から身分証を探しだした。

名前を知るために身分証の写真を見詰めながら…

左から、
安斎加奈
並木希望
柳沢さゆり

名前が判った、勿論住所や電話番号もメモをした。

最初は柳沢さゆりから、レイプすることにした。処女膜を破り子宮に精液を放出するのはマキトに決めた！

マキトは柳沢さゆりの白いセーラー服の左右の胸にゆっくりと両手を添えて揉み初めた！肌触りがとても良い感じである、このセーラー服は良い生地で出来て要るんだろと。

羽山はさゆりの両手を頭の上で確りと抑えている、暴れないように両手で手首を強く握ってマキトの強姦する仕草を見詰めている。

マキトは、さゆりの柔らかい唇にそっと指で触れた！

女子高生の柔らかな唇が指の先を伝って感じられる、マキトは自分の唇をさゆりの唇にそっと合わせた…

セーラー服姿の女子高生と甘いキスをした、

それだけでも…

全身から、汗が染みだしてくる、興奮が収まらない！更に激しい興奮が込み上げてくる、

マキトの下半身は膨らみ続けていた…

さゆりの黒くてサラサラのロングヘアーに目が大きく胸もDカップ以上ある、セーラー服越しに触ってみても十分に育った乳房をしていた♪まだまだ発育はするだろう～。

マキトはさゆりに唇付けしながら、舌を唇の中に押し込んでいった…

無理やりさゆりの唇を押し開いて眼を覚ます様に激しくキスをした！

右手では、乳房の真ん中の蕾を探しだして、セーラー服越しに、親指と人差し指で軽く摘まんで刺激を与えた♪

破瓜2

うっっ～っ・・・

さゆりちゃんがうめき声を出し初めた！

意識が回復し出してきていた～

マキトはセーラー服越しに乳首を少し強く摘まんだ！

セーラー服の裾が少し捲られて白いスクールキャミソールが眼に止まった！

左手でキャミソールに触れてみた、すべすべしている…セーラー服と同じように触り心地が素晴らしい♪

うっ～っ・・・？

マキトは更に激しくさゆりの唇をこじ開けて舌を口内に入れて、舌を絡めた～。

さゆりちゃんは何が何だか解らない！？自分の口内に何かが入っている、口内を激しく荒らされている感覚で意識が少しずつハッキリとしてきた。

息がしずらい？なぜかおっぱいを触られている感じがしている…？

マキトは、さゆりちゃんが意識を取り戻しつつある事に気が付いて、口内を激しくキスをしていた舌を口内より出してさゆりちゃんの眼を覗き込むように見詰めた！

右手はセーラー服越しにまだ乳房を揉んでいる！！

「おはよう…さゆりちゃんお目覚めしましたか？」

「えっ…何をしているんですか？貴方は誰…此処は…どこですか？」

さゆりはまだ意識がハッキリしていなかった…両手が動かない！？なんで…両手が頭の上で何かに掴まれている感じが・・・する？

次第に意識がハッキリとしてきて、おっぱいを触られて要るのがハッキリと判った！

「イャ～ッ…ッツ～ッ触らないで！！」

「さゆりちゃんが可愛から、唇はもう奪っちゃったよ♪」

「イャ～ッツ…ヤメテ～お願いします、乱暴な事はしないで下さい…」

破瓜3

さゆりは目覚めと同時に自分の今の立場を認識しはじめていた!?

「貴方は誰ですか…此処は…何処なの?」

「俺達は、今から君達3人を強姦するんだよ、いくら喚いても、泣き叫んでも良いぞ~俺が興奮するための素材にして貰うからな♪」

「お願いいたします~酷い事はしないで、私達を解放して下さい…学校に行かせて…下さい…お願いいたします。」

無理な事は言わない!

「俺がさゆりと1つに成りたいだけなんだ♪君は処女なんだろう♪」

「・・・お願いいたします!!酷い事はしないで下さい」

「ダメだ!覚悟をしろ!!此れからさゆりちゃんが泣こうが、叫び出そうが手加減しないからな…」

マキトは、右手でさゆりちゃんの左の乳房をセーラー服越しに強く揉み初めた♪

「イャ～ッッ…触らないで！！」

更に激しい興奮を覚えて、さゆりのセーラー服胸当てに手を掛けて、引きちぎった！

「イャーァァァッッ～！！」

セーラー服の胸元が裂けて乳房の下まで白いスクールキャミソールが露に成った！

マキトは、キャミソールの上に手を添えて二つの乳房をゆっくりと触りもみだした♪

キャミソールの触り心地が素晴らしい！！

両手が滑る要に二つの乳房に被さってゆく♪

破瓜4

マキトはさゆりに囁いた！
「君の乳房を見せて貰うからな♪」

セーラー服の緑色のスカーフを右手でむしり取った！

「イャーッッ～ァァァッッ…！」

セーラー服は胸元まで引き千切られ要るのを更に両手でお腹まで引きちぎった！
イャーッッ…ヤメテ～酷いよ！！
マキトは白いスクールキャミソールの肩紐の左右を両手で掴んで引きちぎった！
「ヤメテ～ッッ～イャァァ―ッッ…！」
「イャダ～ヨオッッ…
止めて下さい…」

さゆりは泣き叫んで、許しをお願いした！

「大きな声で泣き叫ぶと、お友達が眼を覚ますぜ、君の犯されてゆく姿を見せたいなら、もっと激しく騒ぎなさい♪」

さゆりは、隣に眼を向けると仰向けに寝ている、加奈と希望が眼に入った…

マキトは白いスクールキャミソールの肩紐を引きちぎ手でキャミソールを胸元から左右に引き裂いた！

白い二つのブラジャーに包まれた乳房が露に成った！

白い素肌の上にふっくらとした二つの乳房の先には蕾がブラジャーに透けて見えている。

破瓜5

マキトはさゆりの乳房をブラジャー越しに触って女子高生の乳房の感触を堪能している。

「フロントホックのブラジャーなんだね」

さゆりは唇にキスをされてしまった…ヤメテ～ッッ！！

ファーストキスを見ず知らずの男に奪われてしまった…

涙が頬を伝って留まらなく流れ出した～

胸を触られながら、男の舌が無理やりに口内に侵入してきて、舌をからめられたり吸われたり、唇や歯茎の裏側まで舌で汚されてしまった…

マキトは、さゆりの涙を見ながら～唇を離した…

「やはりさゆりちゃんはまだ男を知らない処女なんだね♪可愛らしい乳房を見せて貰うよ♪」

「イヤです～もう勘弁して下さい…　」

マキトはブラジャーの中に右手を入れた…

「ヤメテ～酷いヨ…ッッ！！」

直接乳首に触った瞬間にさゆりの肩から腰に掛けて

ビクッ～ビクッ！

と身体が震えた

親指と人差し指で蕾を軽く摘まんでみた♪

ヤメテ～ッッ！！　ビック・・・ビック

身体中がビックビックと痙攣しだした！

乳首を触られたダケなのにこの興奮状態だ・・・

さゆりの大切な秘密の場所を触ったら一体どうなるんだろ♪楽しみだ～

先ずは、ブラジャーが邪魔だから取り外そう、生の乳房や乳首が見たい！！

フロントホックのブラジャーのホックに指を掛けて外した！

ブラジャーを左右に開いた！白い素肌が素晴らしい♪二つの乳房の上にはピンク色をした乳首が露になっている。

「イヤ～ッッ！見ないで…！！」

モウダメだ、早く犯したい！！
初々しい女子高生の生の乳房や乳首を目の前にして、マキトは我慢出来なく成ってきた。

左の乳首にいきなりむしゃぶり付いた♪

左手で右の乳房を揉み、唇では左の乳房や乳首をしゃぶって女子高生の初々しい胸を堪能しはじめた♪

「イヤダ～ヨォォ…タスケテ～！」
さゆりは初めて男に乳首を吸われたり舐められて、恥ずかしい気持ちの中に、頭から足の先まで電気が通るような感覚を覚え初めていた。

嫌なのに…ホントに嫌なのに…乳首を噛まれたり吸われる度に…何かが全身を襲ってくる…

処女膜喪失

マキトは、乳房を激しく揉んだり、乳首を口の中で転がしたり、歯で噛んだりして弄んだ！

「イャダョ～ォオーッッ！！」
頭が！？オカシク成りそうだ…

マキトは、さゆりちゃんがだいぶ興奮してきたのを感じて、右手を乳房から、お腹へとゆっくりと下げて、おへそを触り初めた♪

さゆりは、くすぐったい感じを我慢して身体をクネクネしだした。

右手をおへそから離して、制服のスカートを捲って、白いパンティーを露にした！

「イャダ～ッッ！！見ないで…」

もう我慢出来ない！！

パンティーの上から右手をさゆりのワレメに触れた！
右手がパンティーに触れた瞬間に腰がビックと震えた！

パンティーはすでに濡れ始めていた…

「イャ～ッッ触らないで！！」

「もうこんなに濡れているじゃあないか？さゆりちゃんは、毎日オナニーしているんじゃあないのかな？」

初めて男に大切な秘部をパンティーの上から触られたダケなのにこの感じは…

（イャダ～ッッ！！

犯されるのかな！？

初めてを知らない男に奪われてしまうのかな…

此れから出逢う彼氏に捧げるはずだったのに…）

さゆりは、男にパンティーを触られたショックと恥ずかしさや、此れから犯されるであろうと覚悟を決めなければ成らなくなる…

マキトはパンティーの上からワレメやクリトリスの辺りをゆっくりと中指で触ったり、パンティーを摘まんでさゆりの顔を覗き込んだ！

さゆりはマキトに見つめられ顔を赤く染めて、涙を流していた。

マキトはおへその辺りから、パンティーの中にゆっくりと右手を入れた、うっすらと茂みを掻き分けて右手は、さゆりの処女の秘密の泉へと向かっていった…

処女膜喪失2

知らない男の手が、指が私の秘密の泉に入ってくるよ…

さゆりは犯されてしまう恐怖が次第に現実的に成ってきた…

身体が小刻みに震えている足の先まで震えている。

男の指が直接私のまだ誰にも触れられたことの無い…

「イャ～ッッ！！」

両手は別の男に頭の上から押さえつけられている！

身体は動かない…

叫び声を出して抵抗するしか私には出来ないのかな…

イャダ～ッッ！！ヤメテ～ッッ！！

見ないで！

触らないで！！

マキトは、パンティーに手を掛けて、腰から引きずり下ろし始めた！

マキトの目の前に女子高生の茂みが少しずつ表れてきた。

初々しい胸の膨らみよりも恥丘の膨らみや茂みの奥の泉はマキトに

より一層の興奮と刺激を与えるには十分だった。

イャダ～ッッ！！脱がさないで！！ヤメテ～ッッ！！

しかしマキトの手は更にパンティーを脱がして膝から足元までずらされて、右足からパンティーは引き抜かれてしまった。

さゆりの下半身の処女の生殖器が露に曝された瞬間だった！

マキトは、さゆりに
「今から犯すから覚悟しろ！」

羽山に「確りと足を使って、さゆりちゃんが暴れないように押さえつけていろ！」

と言った！

（いよいよ犯されてしまうのか…）イャダ～ッッ！！

マキトは右手の中指をさゆりの大陰唇に充てた！

さゆりは腰をビックッとさせて震えている。

処女膜喪失3

マキトはさゆりの足をゆっくりと開いて処女の泉を見つめた！

ピンク色をした大陰唇を両手で拡げた…

イャダ～ッッ触らないで！！ヤメテ！！

泣き叫ぶさゆりちゃん

処女の女子高生の綺麗な生殖器を眼にしてマキトは全身を奮い起たせた！！

小陰唇の綺麗はビラビラを左右に拡げたら、キラキラと光った可愛らしい皮を被っている突起や尿道唇に閉じて異物の侵入を阻止しているピンク色をした膣唇が露に曝された！

さすがに処女の女子高生の生殖器は素晴らしい♪

まだ男を知らない処女のクリトリス♪

人差し指で突起の先を刺激したら、ビックッッビックとクリトリスが痙攣した！

イャーッッ！！ヤメテ～ッッ！！ヤメテ！！

クリトリスの皮を少しずつ剥いて中身を唇で吸出した
チュッパ～ッッ

チュッ！

舌をクリトリスに絡めて皮を剥いたり、戻したりすると、さゆりちゃんが暴れだした。

ビクビクと腰を激しく揺らしはじめて、ハアハア～ッッ！！

息を切らしながら全身を痙攣しだした。

初めての

ピチャッピチャッとイヤらしい音をたてて処女のクリトリスや尿道口唇に膣唇に舌を絡ませてしゃぶりついている♪

美味しい

美味しい！

美味しい！！

「イャーッッ！！見ないで！
そんな処を舐めちゃあイヤダョ～ッッ！！」

さゆりは陰部を舐められて初めての絶頂を迎えようとしていた…まだこの快感に馴染めない身体を…クネクネさせながら…

男の舌や指が大事な部位に触れる度に…

全身がピクピクと痙攣している…

「イヤダョ～ッッ！！見ないで！
触っちゃダメ～ッッ！！」

マキトは舌をクリトリスや尿道唇を愛撫してから膣唇の入り口を舌を使いこじ開けた、膣唇から膣壁のヒダの中に舌を這わせながら、ゆっくりと挿入してゆくと～

アゥ～ッッ！！
ヒィ～ィッッ！！

今まで出さなかった用なうめき声や喘ぎ声を出し始めた♪

マキトは、舌を膣内にいれて処女膜のヒダに触れるくらいに奥まで舌で犯したいと思い、激しく膣内を掻き回した！

ヒィ～ッッ！！
ヒィ～ッッ！！ダメ～ッッ触らないで！！ヤメテ～ッッ…イャダョ～頭がオカシク成りそうだ…

さゆりは初めての経験で（モウダメかもしれない…自分が自分でなくなってきそうだから…）

マキトはさゆりに

「君の処女膜を貰うぞ良いな！！」

羽山に
「足でさゆりちゃんの手を押さえつけながら、可愛らしい乳房を揉んであげてくれ、此れからさゆりちゃんの初めてを貰うぞ！！」

マキトはトランクを脱いで、ギンギンに勃起しているペニスをさゆりちゃんに見えるように目の前に見せつけた！

「良く見るんだ！これが君の処女膜を突き破る俺のペニスだぞ」

さゆりはおぞましい男の逸物を初めて眼にして叫んだ！

イャダョ～ッッ…！！

こんなグロテスクの大きい物が私の胎内に入るのか？と信じられい・・裂けて壊れて終うよ…イャダ～ッッ！！

マキトは勃起したペニスをさゆりの膣唇に軽くあてがった！

もう少しでさゆりの純潔が散らされて処女を奪われて終うよ…

射精

マキトは勃起したペニスをさゆりの膣内に少しずつ挿入してゆく

「イタイョ～ッッ！！ヤメテ…」

ペニスの先がヒダに接触して侵入を阻止した、膣壁が凄い力で締め付けてきた、処女の膣壁が異物を阻止しょうと最後の力を振り絞って要るみたいだ…

羽山は、さゆりちゃんの2つの白い乳房を両手で愛撫している、少しでも処女膜喪失の痛みを和らげようと優しく撫で廻していた、ピンクの乳首もそっと摘まんでは離し、摘まんでは離していた。

セーラー服が真ん中で破られて、左右に引き裂かれいる、緑色のスカーフは首に巻かれていた、スカートはお腹まで捲り上げられた女子高生の姿をしている、まだ純潔の少女さゆりの処女膜は、悲鳴を上げ始めた！

イタイョーッッ！！ヤメテ…イャダ～ッッ！！ダメ～ッッ！！ダメ…イャダ～ッッ！！

マキトはさゆりの腰を両手で掴んで、自分の腰に力を入れて、さゆりちゃんの処女膜をぶち破った！！

ブチュ～ッッ！！

イタ～イイイイッッ…！！

さゆりの処女膜が遂に見ず知らずの男によって奪われた瞬間だった！

マキトは更にペニスを膣内に押し込んだ！先が子宮唇に触れた！

イタイョ～ッッ！！

イタイョ～ッッ！！

泣き叫ぶさゆりちゃん！！

マキトは、構わずにピストン運動を激しくした。

イタイョ～ッッ！！ヤメテ…死んじゃう！！ヤメテ～ッッ！！

さゆりは泣き叫ぶ

「もうすぐ射精シテヤルからな！さゆりちゃんには俺の精子を子宮唇で飲み込んで貰うからな♪」

（えぇッッ！！射精って？まさか…胎内で射精って、できちゃうよ…今危険日なのに…）

「イャーッッ！！ダメ…ダメ～ッッ中には出さないで下さい～ッッ」

マキトはさゆりちゃんの言葉を無視して、子宮唇に向かい大量の熱い精液を放出した、次々と男の精子が子宮内に注がれていく…

イャーッッ！！ダメ～ッッ！！

さゆりも男の熱い精子が自分の子宮唇から子宮内に注がれて入る感触に涙が留まらなく流れ出した…

処女膜喪失の痛みよりも膣内に男の精子を注がれたショックの方が何倍も悲しく、切なかった…

射精2

マキトはさゆりちゃんの子宮内に精子をたっぷりと注いだ。

「さゆりちゃん俺の種が君の子宮内に注がれていくよ、孕んでしまうかもな♪まだまだ出し足らないから、何回も強姦させて貰うからな♪」

イャダ～ッッョ～ォッッ！！ダメ～ッッもうヤメテ～ッッ！！

中には出さないで下さい～ッッ！！お願いします！！

今危険日なのに…ダメ～できちゃうよ…イャダ～ョョオーッッ！！

マキトはまだまだ精力的に余裕があった♪

一回の射精では物足りない～ペニスはまだ勃起している、膣内を動き出し、子宮唇に突き刺すように激しくカリの先をぶつけるようにピストン運動をした。

「もうヤメテ～ッッ！！お願いします…」

さゆりは激しい刺激が頭の中を突き抜けて、とうとう気を失ってしまった…

マキトは気を失ってぐったりしているさゆりの子宮内に更に二回目の射精をした。

ペニスをゆっくりと膣唇から抜いた。

膣唇からは、白色濁液や処女膜喪失の鮮血が流れ出したていた…

さゆりは強姦のショックで膣唇や足をピクピクと痙攣させながら気を失ってぐったりしている。

羽山は「今度は俺の番だからマキトには手伝って貰うからな♪」

「おう！解った～で、どっちの娘を犯すんだい？」

「勿論メガネっ娘の希望ちゃんだよ♪」

次の強姦は希望ちゃんに決まった！

「起こしてから、犯すんだろうな！？」

羽山はニヤニヤしながら

「いやこのままセーラー服を着た女子高生をレイプしたいな♪」

羽山は眠っているままのメガネっ娘をセーラー服姿のまま女子高生らしい強姦をしたいらしい～

2人目の喪失

羽山には女子高生の姿をした処女の少女が好みだからセーラー服にヒダスカートを少しずつ加工したいらしい♪

大きな裁縫ハサミを取り出して手に持ってきた…

羽山はニコニコしながら、希望のセーラー服の裾が長すぎるから少し短くしたいんだ♪

と言って…

寝ている希望ちゃんの白いセーラー服を切り出した！

この辺りで良いかな♪丁度乳首の上の辺りを切り取った！白いスクールキャミソールが2つの乳房を包んでいるのを見て、これも要らないな♪

短く成ったセーラー服を捲り、キャミソールの肩紐を切り取った！そのままキャミソールは真ん中で切り開かれて、抜きとった～

続いてヒダスカートの丈も長すぎるからと言って♪

長さは股上三センチ位だな♪

マキトは羽山の発言に

聞き違いで無ければ、股上三センチって、膝上の間違いじゃあ無いよな?今履いてるスカートは其より短いから…

ならば…股上三センチってパーティーが丸見えじゃあないか?

そう思っているうちに…

羽山は希望ちゃんのヒダスカートをホントに股上三センチ位の処を
ハサミで切り取った!

白いパーティーが丸見えに成っていった♪

2人目の喪失2

羽山にセーラー服とスカートの裾を短くされた希望はまだ仰向けでスヤスヤと寝ている、胸は白いブラジャーが乳首から下が丸見えで下半身はパーティがほとんど見えている。

マキトもダブルテールの小柄な加奈ちゃんをどのように強姦レイプして、孕ませるかを思案していた。

隣では、ハサミでスーパーミニサイズにセーラー服やスカートを切り取った姿に興奮している羽山がいる、メガネっ娘の乳房を両手でもみくちゃにして、唇にキスをしている～

小柄な加奈ちゃんには、どのようにしょうかな…

ロープで縛ってS・Mプレーでもしてみようか…セーラー服の下にロープを入れて、乳房の上下を縛って、乳房を突き出す様な格好にしてみようか…

スクールキャミソールやブラジャーは、脱がしてみて素肌の乳房をロープで上下を縛って、乳首には洗濯ハサミで摘まんで、その上に白いセーラー服を着せるのも面白い。

下半身もパーティを脱がして、両肩から股に掛けてクロスにロープで縛り上げて大切な秘部には二本立てのロープを通すのも面白い、その上にスカートダケを履かせて悪戯しょうかな、うん良い考えだ♪

または、上半身はブラジャーやスクールキャミソールを着せたまま、ロープで乳房の上を上下に挟んで縛り、その上にセーラー服をきせる、下半身もパーティの上にロープで縛り上げてから、スカートを履かせる！！

其れから、寝ている加奈ちゃんを起こしてから、キャミソールやブラジャーにパンティをハサミで切り裂くのも面白いな！

メガネっ娘の処女膜

羽山はメガネっ娘の乳房にむしゃぶりついていた、唾液で白いブラジャーはびしょ濡れになり、ピンクの蕾が透けてハッキリと見えている♪

乳首は勃起した状態でブラジャーを押し上げている、そのピンク色をした乳首を羽山にしゃぶしゃぶされたり、歯で噛まれる度に乳首がピクピクと動いている。歯で乳首を噛まれ度に、ピクピクと痙攣を始めた！まだ寝ている希望ちゃんだが、身体はまだ処女で快感を知らないかもしれない…

羽山は希望ちゃんは処女膜がまだ有るんだろうかと思い、乳首を愛撫している唇を一旦はなして、希望ちゃんの下半身に眼を向けた！超ミニスカートに切られたスカートを捲り、パンティを右手でゆっくり引き下げ始めた♪

恥丘がら茂みが現れてきた！
まだ薄い茂みの奥に女子高生希望の割れ目が見え始めた♪

パンティを膝下までずらしてゆく～右足を持ち上げて脱がした。

少しM字開脚にして、希望の大陰唇を両手で開いたら♪

綺麗はビラビラの小陰唇やピンクの皮を被った突起物が眼に止まった！

膣唇はピンク色をして綺麗だ、まだ閉じていた膣唇を指で左右に開いて膣壁の中に指を入れてゆっくりと開いて行くと、膣壁の先にピンク色をしたビラビラのヒダが膣壁に張り付いているのが見えた♪

希望ちゃんの初々しい処女膜だ、綺麗な色をしている、流石に使い込んでいない～傷一つ処か、全く荒れていなく初々しい処女膜だった。

羽山は希望の膣壁の奥に見えた初々しい処女膜を早く破きたいと思った！

マキトが先に処女の女子高生を犯す姿を見ていたので…

自分のペニスは極大に勃起していた、一回希望ちゃんが寝ている間に、処女の子宮内に射精しょうと決めた！

寝ている希望の膣唇に勃起したペニスの頭で触れた！
先ほどから舌を使って愛撫していたので、十分に濡れていた。

眼を覚まさないように、ゆっくりとペニスを膣唇に宛がって中に挿入してゆくと…やはりキツイ締め付けがペニスを襲ってくる、まだ異物の侵入を許していない処女の膣壁の威力を感じたさらに腰に力を入れて膣壁を押し開くと、先ほど眼にしたヒダにペニスの先端が当たったら！

希望ちゃんの純潔の証…処女膜である。

少し力を入れて、ペニスを膣内に突き刺すと、ブッシュ～ッッ

その瞬間希望はピクピクとお腹を痙攣させた、全身も小刻みに震えて、息も荒く成っていた。

またブッシュー！と音がした感じだ

希望の処女膜が破けて少女から大人に成った瞬間だった！

ゆっくりペニスを子宮唇に当てながらピストン運動を繰り返し、熱い精子を子宮内に向けて放出した。

希望ちゃんは俺の精子を子宮内でたっぷりと受け止めてくれた、嬉しい！

俺の種を受け取って孕んで欲しい！

羽山は希望の下腹部を優しく撫でた！

この中に俺の精子をたっぷりと受け止めている子宮が有るんだ～

メガネっ娘3

羽山はメガネっ娘の子宮内に熱い精子をたっぷりと与えてから、ペニスを膣から抜いた！

希望の膣唇からは剥れた処女膜の鮮血と男の白い精子が混ざり合った液体が流れ落ちてきた。

羽山はぬるま湯の中に生理食塩水を混ぜて、水差しに入れてからメガネっ娘の膣唇から水差しの先を差し込んで、希望ちゃんの膣内を洗浄してあげた。処女膜の有った場所は丁寧に洗い流してから、水差しを抜いてティッシュで膣唇の廻りを丁寧に拭いてから、希望の白いパーティを履かせた！

子宮内にはまだ羽山の熱い精子を含んでいるから、膣唇からでてくるかもしれない～

羽山は希望ちゃんを目覚めさせてから、もう一度強姦する事にした、希望ちゃんは今の処女喪失を知らないから、少し時間を置いて痛みが退いた頃には起こしてから、女子高生姿の超ミニスカートにセーラー服姿にした希望ちゃんの様子や反応を見たいと思った。

先に強姦した、さゆりちゃんを希望ちゃんの目の前に移動させた、さゆりちゃんは、処女膜喪失や何回も膣内に射精された為にまだ気を喪ったままグッタリしている、足をM字開脚にして、膣唇から愛液と精液が垂れ流したままの状態にして希望ちゃんが起きた時に、どんなリアクションを見せてくれるのか楽しみだ！！

希望ちゃんに抵抗したらどうなるかを…教えてあげる為の…アイテムとして使うのには良い考えだ♪

まだ処女だと思っている筈だから…

隣では、マキトが小柄なダブルテールの可愛女子高生をどの様にして、強姦レイプするかまだ考えていた。

羽山はメガネっ娘の唇を奪っていた、白いブラジャーの中に右手を入れて、乳首を摘まみながら、唇の中に舌を入れて、クチュクチュと舐め回していた。

すると

（うっっ・・・？）

希望ちゃんが意識を回復してきた～

羽山は唇を離して、希望ちゃんの顔をじっと覗き込んだ・・・

希望ちゃんの上半身をゆっくりと起こして、体育座りをさせた。

目の前で虚ろな瞳を覗き、「おはよう～希望ちゃん♪」

と告げた！

うっ～ん？・・・

貴方は誰…？って顔をしていた！

「僕は羽山だよ、希望ちゃん♪」

「羽山さん・・・此処はどこなの…？かな…？」

「前の女の子を見てみて…可愛姿をしているよ」

羽山は、希望ちゃんの前から後ろに移動して、両手で肩を抱いて、希望ちゃんに前にM字開脚をして、膣唇から、愛液と精液を垂れ流して、セーラー服を真ん中で破かれ白い二つの乳房に乳首を露にしている、さゆりちゃんの姿を見せた♪

「イャ～ッッ！！…？ナニ～ッッ何なのよ？さゆりちゃんに何をしたの？」

羽山は希望ちゃんに隣の男を指差して

さゆりちゃんは、あの男に強姦レイプされて、子宮内に射精されたんだよ、きっとさゆりちゃんは、受精してあの男の赤ちゃんを孕んだと思うんだ♪君も俺の言う事を聞かないと…大変な目に逢うからね！

羽山の言葉を聞いた希望は全身が震えだした。

すでに自分も処女膜を奪われて受精させられて要ることはまだ知らないから…

メガネっ娘の希望ちゃんは目の前で露な姿をしているさゆりちゃんの姿をみて、全身を震わせ始めた…

（私もこの男に逆らったら、同じような事を去れてしまうのかな…）

羽山は希望ちゃんに

「目の前の女の子ばかり気にしていないで、希望ちゃんの今の姿を見てご覧なさい♪」

そう言えば、お腹の辺りが涼しいと感じて、目覚めたばかりの自分の姿を見つめたら…

「イャ～ッッ何なのよ！」

セーラー服が超ミニサイズに切られている、スクールキャミソールが無い？ブラジャーが半分から下が露になっておへそも見えている、しかもスカートも超ミニスカートにされて、白いパーティが丸見え…恥ずかしい…

「イャ～ッッ…恥ずかしいょぉオ～！！」

希望ちゃんは両手で胸とパンティを隠す様な仕草をした。

羽山は希望ちゃんに

「ダメじゃあないか、隠したら希望ちゃんの素敵な姿を見れなく成ってしまうだろう～手を退けなさい！、此から、胸やオマンコを隠したら一回に次一回君の子宮内に中だしをするからな！子宮内に俺の熱い精子を放出されても良いなら、隠しなさい！」

「えぇッッ…そんな酷い事を言わないで下さい…」

希望ちゃんは目の前に酷い事をされたさゆりちゃんの姿を目にして、

（私も犯されるのかな…イヤだ～ッッ絶対に受精なんか嫌ダヨ…イヤだ～ッッ）

希望は両手をパンティや胸から離した！

「希望ちゃんは良い娘だね、キスしたいな、自分から俺の唇に触れて欲しいんだけども出来るかな？」

羽山は、希望ちゃんの後ろから、ふくよかな2つの乳房を両手でブラジャーの上から揉みはじめた♪

「イヤ～ッッそんな処触らないで下さい…恥ずかしいよ」

「希望ちゃんにキスして欲しいな♪」

（どうしょう…キスなんて出来ないょう…でも拒んだら…乳房を悪戯されてしまうから…）

希望ちゃんは悩んでいた、しかし羽村は、キスして欲しいなと何回も囁きながら乳房を揉んでいる。

希望も男の人に初めて乳房を揉まれて、少しながら気持ちが良く成ってきてしまってゆく感じがしていた。

「早くキスして欲しいな♪」

羽村は希望の後ろから、希望ちゃんな前に移動して、顔を覗きながら、ミニセーラー服の胸を触り始めながら、キスの催促をした。

希望ちゃんから自分の意思でキスをして貰いたい為に羽村は自分からはキスをしないで、乳房をブラジャーの上から揉みながら、希望ちゃんの顔を覗き込んでいた。乳房もゆっくりと揉んでいた、乳首には触れないようにして、ただキスを求めている。

「ウン～触らないで下さい…」

（ダメだ、乳房を揉まれて少しながら気持ちが良く成ってきてしまった…キスぐらいなら…しょうがないか～羽村と名乗る男にこれ以上醜い事をされるのも嫌だから…）

希望ちゃんは、涙が頬から滴り落ちると同時に、羽山に自分から近づき背中に手を廻して、自分な唇を男の唇に合わせた…

自分からキスをしてしまった…

羽山は遂に希望ちゃんを落とした！

希望ちゃんが近づいてきた瞬間自分の物に成ったと思い、唇が近づいて触れた時に、もうこの娘は俺の自由に成ったと確信した。

（初めてのキス、私のファーストキスなのに…）

最初は優しくフレンチキスが次第に唇をこじ開けて、舌を絡ませたり、自分の口の中に吸い込んだりと激しいディープキスに発展していく。

クチュクチュクチュ♪
チュルチュルチュル♪

音をたてながら、お互いの唾液をお互いのくちの中に流し込んだり吸い込んだりして、羽村は希望ちゃんの口内を犯していた。

羽村は一旦唇を離して

「希望ちゃんの乳房を見せて欲しいな、ブラジャーを外してよ」

と一言希望ちゃんに囁いてから、また激しいキスを始めた♪

クチュ♪クチュクチュ…

（えぇっ・・・？何で…キスの次はオッパイを見たいって…でもほとんど胸は曝されているんだよね！？・・・羽村さんに揉まれて…気持ちが良かった…うそ！何で…知らない男に揉まれて…気持ちが良いのかな？）

希望ちゃんは頭のなかで葛藤していた！

自分では気付かないうちに、両手が背中に回ってブラジャーのホックを外していた。

希望ちゃんは無意識の内にブラジャーのホックを外して、肩紐を腕から抜いてブラジャーを床に落とした！白い素肌を羽村に曝した、ミニセーラー服の裾から、ピンクの乳首が見え隠れしている。

「綺麗だよ希望ちゃん♪」

「恥ずかしい…あまり見ないで下さい…」

希望ちゃんは恥ずかしそうにしたが手で乳房や乳首を隠そうとしない♪

俺の言う事を素直に聞いて要るんだろう、隠そうとしたら子宮内に射精されるて思っている筈だから…

「希望ちゃん♪綺麗だよ！オッパイをシャブリたいのだけど良いよね」

希望は、「イャ～ッです、恥ずかしいから・・・」

「唇なキスも素敵だったよ！希望ちゃんの綺麗な乳首にキスしたいんだ、良いよね」

希望ちゃんも気付かない内に頷いていた…

（何でだろう…解らない…）

羽村は唇をそっと希望ちゃんのピンクの乳首に触れて唇で蕾を摘まんだ！

その瞬間

「アッウッッ～ッ・・ふっぅ♪」

乳房がプルンプルン、乳首もピックン…と震えた！

「希望ちゃん気持ち良いだろう！！」

さらに強く乳房をシャブリだした、空いている手でもう一方の乳房をゆっくりと触ってあげた。乳首の廻りを優しく触り、ささやいた♪

綺麗だよ希望ちゃん♪

「今度はパンティを脱いでみようね♪綺麗な希望ちゃんの全てが見たいんだ♪」

希望ちゃんは、遂に最後の理性を捨てようとしていた、自然に両手がパンティの端に行き、少しずつ下げ始めた…

睡眠薬に媚薬を少しいれたジュースが効いてきたみたいな行動に思

えるが、媚薬は一切入れてはいない！

希望ちゃんの意思でパンティを脱いで要るんだろう。

ダブルテール

希望ちゃんが遂にブラジャーとパンティを脱いで羽村に白い素肌を曝してしまっている頃

マキトは、まだ寝ている、ダブルテールの小柄な加奈ちゃんのセーラー服とヒダスカートを脱がしていた。

白いスクールキャミソールと白いパンティだけの姿にして、両手首を別々にロープで縛って、ロープを天井から二本垂らしてから、寝ている加奈ちゃん抱きかかえる様にして起こしながら、万歳をする格好にして、天井から二本垂らしてあるロープにセーラー服を通して置いた！

スクールキャミソールを着たまま加奈ちゃんをロープで乳房や下半身を縛ってから、その上からセーラー服をまた着せる為の準備をしていた。

脚を少し開いた状態で天井から二本のロープで吊るしてから、乳房を強調させる様にロープで乳房の上下を二重に縛った！

予想通りに、ロープで上下に縛られた乳房はロープとロープに挟まれて、突き出るように膨らんでいた、キャミソールの上からでも、乳首がピンと飛び出して要るのが解る！！

乳房を縛ったら、今度は肩からクロスにロープを股間に下げ降ろし

て、パンティの上から、割れ目を挟むように二本のロープを通してから、また肩にロープを廻して背中で縛った！

小柄な加奈ちゃんの白いスクールキャミソールとパンティがロープで縛られた姿をしばらく鑑賞して、ビデオカメラで撮影した。

視姦する様に加奈ちゃんを見てから、セーラー服を着せて、ヒダスカートも履かせた！

後は加奈ちゃんを起こしたらどんなリアクションを見せてくれるんだろう！！楽しみたい～。

ダブルテール2

マキトは小柄な加奈ちゃんの頬に手を添えて、唇を奪った！
柔らかな感触が唇を伝い感度が上がって来るのが解ってくる、女子高生の唇を奪う興奮は堪らない！！
加奈ちゃんの背中に腕を廻して、唇を無理やりこじ開けて加奈ちゃんの舌を絡めて弄んだ～早く眼を醒まさないかと♪
クチュクチュ♪と加奈ちゃんの口内を犯しながら、ロープで縛って強調されて張り出した乳房に右手でそっと触れてみた。
柔らかくて、感触が素晴らしい～早く眼を醒まして欲しいな♪
更に唇を吸ったり、掻き回す事を続けていると、加奈ちゃんのうめき声が聞こえてきた…
ウッ～ゥッッ…！
（イタイ…手首が・・・）
（息苦しい…何でだろう…）

マキトは唇を離した！

乳房を触っていた右手も離して、加奈ちゃんの目の前で、瞳を見つめて意識が全て回復する仕草を観察することにした…

（何…急に息が楽になった～まだ手首が痛い？両手が動かない！？）

だんだんと意識が戻り初めて、ゆっくりと眼を開けた！？

目の前に知らない男が、見つめていた！？

（まだ両手が動かない！？）

（身体も何かに締め付けられているみたいで、少しぎこちない？なんで…）

「おはよう♪加奈ちゃん気分はどうかな～」

「貴方は誰ですか？此処は何処なの？」

2人の少女

小柄な加奈ちゃんが眼を開けた!?

「私はマキト!!よろしく加奈ちゃん♪」

加奈は目の前にいる男がマキトと名乗った事を聞いた?知らない名前、知らない顔…眼を開けて頭の上を向いたら、両手がロープで縛られて万歳をしていた…

廻りに目配りすると、さゆりちゃんが、悲惨な姿をしているのが眼に入った?

何で…セーラー服が破かれて、乳房が露になっていた、下半身は何も履いてない?大切な部分から何か液体みたいなモノが流れだしている、まさか…強姦?

(えっ…ッッ~私も…強姦されてしまうの!?)

反対側に目線を移すと、メガネっ娘の希望ちゃんが、ブラジャーやパンティを脱いでいた、目の前の知らない男とキスをしている…

(何なの~いったい…此処は何処なの?)

意識がハッキリするにつれて、恐怖と不安が増してきて全身が震えてきていた…

マキトは加奈ちゃんに

「お友達の事を良く見えたみたいだね～加奈ちゃんも、俺と楽しく遊んで貰うよ、良いよね」

「イャ～ッッ…助けて下さい…！！」

「俺の言う事を素直に聞いてくれたら家に帰して挙げるから、しばらくは仲良く遊んで欲しいな♪」

「イャです～早く私達を家に帰して下さい…お願いいたします。」

「駄目じゃないか、もっと素直に俺の言う事を聞かない娘はお仕置きしちゃうよ！」

「イャ～ッッ！！これ以上酷い事をしないでください…」

加奈は大粒の涙を流しながら、目の前にいる男に、許しを何回もお願いした。

しかしマキトは、加奈ちゃんに近づいて、唇にキスをしてから、セーラー服越しに乳房を触り始めた…

S．M少女

「加奈ちゃん可愛よ」

マキトは加奈ちゃんを徹底的にS．Mプレーで虐め抜いてあげようと決めた！

少女の現状を教えてあげてから少しぎこちない身体中を快楽の海に陥れさせるまで続けて責め立てよう…

加奈ちゃんに激しいディープキスを繰り返し、舌を口内に入れては加奈ちゃんの舌に絡めとり、クチャクチャと唾液のやり取りをして、少女に男の唾液を呑ませたり、マキトが少女の唾液を飲み干したりして、少しづつ訪れる快感を植え付けてゆく♪

加奈ちゃんは、口内を犯されている為に声が出せないでいる、うめき声だけを鼻から出す～

（ウッゥ～ゥゥ…）

自由に成っている足だけをバタバタとさせていた～

そろそろ自分自身を自覚してもらう事にしょう。

「加奈ちゃんお友達の様子が気になって要るみたいだけど、加奈ちゃんの身体にも眼を向けさせてあげるからね、良く見せて上げるからね♪

「何なの～何を見せてくれるんだろう!?」

マキトはセーラー服脇のジッパーを少しずつ上げてゆく…

（キスをされて要るので声を出せない…どうしよう!?このままセーラー服を脱がされてしまうのかな!?、ヤメテ～ッッ!!）

マキトは予想通りに、セーラー服のジッパーを全開に上げてから、セーラー服を胸の上まで捲りあげた!

（えっ…ッッ!!ナンナノよ…キャミソールの上からロープで胸を縛られていた…）

「うわーっっ～ッッ!!」

キスをされながら大声を出した!

眠っている間に男に縛られてしまったのか…

イャ～ッッ!!ナンナノよ…

「加奈ちゃん、綺麗な身体よ♪素敵だ！」

マキトは唇を離してささやいた♪

たっぷりと可愛がって挙げるからね、加奈ちゃんの一番感じる場所を特に念入りに刺激して、女の子の快感を身体中に与えて、俺の女にしてしまう…

スクールキャミソールの乳房の上を口で加えてから、歯を立てて噛み千切った！

「イヤ～ッッ！！ヤメテーッッ…」

先ずは左胸から、そして右の胸に唇を近付けてキャミソールに噛み付いた！
一気に噛みきった！

キャミソールのしたから白いブラジャーが顕れた！

ロープで締め上げられて、キュツッと盛り上がっている二つの白いブラジャーに包まれた乳房♪素敵だ！

「イヤ～ッッ！！見ないで！
恥ずかしい…」

マキトは更に「加奈ちゃんの可愛い乳首を見せて貰うから…可愛がってあげるからね良いだろ♪」

盛り上がった白いブラジャーに唇で触れて、しゃぶり始めた、ブラジャーの上から乳首に吸い付いて舐めたり、吸ったりして愛撫をしばらくは続けた♪

加奈ちゃんは、気持ち良さそうな喘ぎ声をだしはじめている。

「あっ～っっ!!見ないで…そんなことシナイデ～ッッ!!」

(嫌なのに!?何で感じちゃうだろうな…男に乳首を刺激される度に、頭の先から電気が走り去る感覚に…自分自身が解らなくなるのは何でだろう)

加奈ちゃんは、まだイッタ事が無いために全身を駆け抜ける刺激が何なのか?まだ知らなかった…

マキトは、びしょびしょに濡れた、ブラジャーに噛み付いた、其のまま噛み切ってしまう、ピンクの蕾がブラジャーの中からあらわれた!綺麗だ、まだ男を知らない、少女の乳首を見つめた!

S．M少女3

加奈ちゃんのピンクの二つの乳首が露に曝された！

「イャ～ッッ…ヤメテッッ！！」

マキトは更に酷い仕打ちをした…

加奈ちゃんの左足首にロープを掛けて結んで、頭の高さ迄脚を上げてしまった。

加奈ちゃんは、両手を天井からのロープで万歳の格好に更に片足を縛られて吊るされた！

イャーッッ！！

「何をするんですか！？」

右足を引っ張り上げられた事によりスカートが捲り上げられて股にロープが食い込んでいるのが、丸見えに成った…ヤメテッッ～ッッ！！

「足を降ろさせて！、イタイョ～ョ！」

マキトは泣いてお願いしている加奈ちゃんに

「加奈ちゃんは処女なのかい？」

「イャーッッ！！ヤメテョョ～イタイ～イタイッョ！」

「俺の質問に応えてくれない悪い娘にはお仕置きが必要に成るんだけど、覚悟は良いのかな？」

「加奈は・・・」

恥ずかしくて素直に応えられないでいると…

「俺が直に調べてあげよう」

丸見えの加奈ちゃんのパンティを掴んで真ん中から破り捨てた！

「イャーッッそんな…酷い…ヤメテッッ～加奈もうお嫁に行けないょ～っ」

加奈ちゃんの初々しい秘部にロープが二本食い込んでいるのが丸見えの状態になっている。

マキトはロープを右足の大腿部に寄せた！

恥丘に茂みが生えていた、思い切り右足を上げた状態なので、ロープを秘密の泉から右足の大腿部に寄せた為に、加奈ちゃんの大陰唇は大きく開かれて、小陰唇のビラビラも左右に別れて、ピンクの陰茎や尿道唇に閉じた膣唇がハッキリと見えていた。

お尻のアナルはかろうじてパンティに隠れていた。

マキトはソープと髭剃りを取り出して、加奈ちゃんの股間の茂にソープを塗り泡立て始めた…

「イャーッッそんなことシナイデ～許して下さい」

「綺麗にツルツルの生まれたばかりの姿にしてあげるからな」

「ヤメテッッ～お願いいたします」

マキトは加奈ちゃんの訴えを無視して、ソープで泡だらけの恥丘から、お尻のアナルまでの陰毛をジョリジョリと剃り始めた…

「綺麗だよ加奈ちゃん、もう直ぐにツルツルな可愛い、オマンコが出来上がるからね。」

S・Mプレー4

マキトは加奈ちゃんの陰部の全てを綺麗に剃りおわって、柔らかなテッシュで綺麗に拭いた！

ツルツルの加奈ちゃんの生殖器が全て露に成ったよ♪
皮の被ったピンクのクリトリスに小さな尿道唇、閉じているピンクの膣唇、小さなビラビラのヒダ

ホント綺麗に成ったよ♪素敵なオマンコが丸見えだね♪

「イャーッッそんなに見つめないで…恥ずかしい…酷い…」

まだ一番大切な処女膜の確認が残っているだろう♪

マキトは、閉じている膣唇に中指をゆっくり挿入しはじめた♪きつく膣壁が中指を締め上げた！

膣壁に指が触れて膣内に挿入した時に、加奈ちゃんの腰から下半身がびくびくと痙攣した。

「イャ～ッッそんなことシナイデ～ッッ許して下さい、イタイョ～っ」

右足を上げた状態なので、膣内に指が入るのが良く見える、中指に続いて人差し指を膣内に挿入して、ゆっくりとブイの字に開いて膣内をみたら、少し奥に膣壁のヒダにピンクの処女膜のヒダが張り付いて見えてきた♪

「加奈ちゃんの綺麗なピンクの処女膜が良く見えるよ♪、やはり君達3人は皆処女だっんだね」

「イャ～ッッ許して下さいね…恥ずかしいょ…もう信じられない…」

「加奈ちゃんの処女膜頂いちゃうからね、良いだろう♪」

「ダメですョ～っっ其だけはヤメテッッ許して下さい・・」

マキトは加奈ちゃんの耳元に寄り添い小さな声でささやいた♪

(加奈ちゃんのお友達2人は処女膜を無くして要るんだよ…)

「だから加奈ちゃんも今から処女を卒業しょうね」

「イャ～ッッ許して下さい、其だけはヤメテッッ許して、お願いいたします！！」

しかしマキトは、柔らかな処女の女の子用のティードウールを右手に握り締めていた。

S．M処女喪失

加奈ちゃんは、セーラー服は乳房の上まで捲られてピンクの二つの蕾がロープに挟まれて盛り上がっている、右足を上げた状態でスカートは、腰まで捲り上げられて、股間をロープで縛られ、更にツルツルに剃られた女の子の生殖器が全て丸見えの状態であった…

マキトはティードウールを右手に持ち、加奈ちゃんの目の前に差し出した！

「此から加奈ちゃんの素敵なオマンコにこれを挿入して、処女膜を破り、潮吹きするまでイカせまくって、女の子の快感や絶頂を味合わせてあげるからね♪」

「イャ～ッッ許して下さい、そんな酷い事はシナイデ～ッッ許して、お願いいたします！！」

「こんなに可愛ティードウールで処女膜をぶち破られルんだから嬉しいだろう♪それとも…
嫌なら俺のペニスを子宮内にぶち込んで、たっぶりと精液を注ぎ入れて、孕むのが良いのかな？」

イャ～ッッです！助けて下さい…其だけはヤメテッッ…！！

加奈ちゃんは声を枯らして叫び出した…

どちらかを選ばせてあげるから１０秒以内に答えるんだ！

この柔らかいティードウールにするか？

俺の熱い精子を加奈ちゃんの子宮内で受け取って孕みたいのか？

答えなさい！

１０＊９＊８＊７＊６＊５＊４＊

ティードウールで・・・・

（イヤダャ～ッッ処女を喪いたくナイョ～っっ…精子なんてとんでもないょ…妊娠してしまうじゃあないの…だったら、まだティードウールの方が…仕方なく…ホントに泣きながら答えるしかなかった…）

少女の悲劇

加奈ちゃんの膣唇に柔らかなティードウールが触れた！

びくびくと腰が、左足が震えている。

「イャダャ～ッッ処女を奪わないで…ホントにお願いいたします！！」

マキトはティードウールを加奈ちゃんの膣唇からゆっくりと膣内に挿入してゆく♪

イャ～ッッ…ホントにお願いいたします！！ヤメテッッ…ヤメテクダサイ…！！

泣き崩れるように身体を振るわして泣き出した・・

膣壁がティードウールの浸入を阻止するように締め付けて中々膣内に入らない、マキトは、両手で押さえ込むように加奈ちゃんの処女の膣内にティードウールを押し込んだ！

イタイッッ…ヤメテクダサイ…ホントにイタイッッ！！

ティードウールが処女膜に触れて、処女膜のヒダを伸ばし初めていた…

更に両手で強く押し込んだら、ブチッ♪とした感じを両手で感じた！

加奈は大声で

イタイ～ッッ…ヤメテッッ！！

膣唇がびくびく痙攣を始めた！？

加奈ちゃんの初めてが奪われた瞬間だった！

「イタイョ～ッッ…ヤメテクダサイ…ハヤク抜いて！」

更に膣内にティードウールを挿入して、ゆっくりと出し入れを繰り返しながら、子宮唇にティードウールの先が接触した。

「ダメだよ加奈ちゃんが潮吹きして、イクまで続けてあげるからね、たっぷり快感を味わって欲しいんだ♪」

マキトは加奈ちゃんに悪魔のささやきを告げた！

加奈ちゃんに対する屈辱はまだ始まったばかりだとは、本人はまだ理解していない…

マキトは、潮吹きの後は、アナル処女を奪い続けて尿道唇もいたぶり、3っの穴を同時に責めるつもりだったから。

処女の女の子が同時に3っの穴を攻められたら、どんな表情をするのか？楽しみにしていた。

生殖器拷問

加奈ちゃんは処女膜を破られた後も、膣内からティードウールは抜かれることがなく、だんだんと激しく膣内を出し入れされて、子宮口に先をぶつけられて子宮が胎内に押し込められる程にティードウールを激しく膣内に突き上げて加奈ちゃんを強姦している。

イタイ～ッッイタイョ～ッッ許して下さい・・・ヤメテクダサイ…ハヤク抜いて！

しかしマキトの手にしたティードウールのピストン運動は休むことなく、加奈ちゃんの膣内を掻き回して刺激をしていた、子宮からダラダラと加奈ちゃんの愛液が流れ落ちて、大陰唇やビラビラのヒダを伝い、股間から右足を伝って床に滴り落ちていた。

加奈ちゃんの膣内から、クチュクチュクチュと淫乱な音が廻りにいる、お友達や羽村にも聞こえていた。

膣唇からは処女膜喪失の鮮血はあまり出ていない～優しい柔らかなティードウールの挿入だったから、処女膜全部が破れてはいないのかも知れない！

マキトは、処女膜全部が破れてはいないと思い、更に激しく加奈ちゃんの膣内を掻き回していた。

更にマキトは、加奈ちゃんのピンクの乳首に洗濯挟みを挟んだ♪

イタイ～ッッイタイョ！！

ピンクの蕾が洗濯挟みで摘まれた瞬間に叫び出した！

そして、電動バイブのミニチュアを取り出して、まだ皮の被ったピンクのクリトリスの先にあてがった。

ヒィ～ッッ許して！！

頭が～オカシク・・・アァッ～壊れちゃう～よ！

加奈のオマンコがコワレチャウョ～オオッツ！！

バイブがクリトリスの皮を剥いて、赤い突起物が顔を出した、そこを更にバイブで刺激を与えた！

処女を奪われたばかりの女の子にして見れば、計り知れない仕打ちに遇っている！

イャダャ～オカシクナッチャウ～壊れちゃう！！ヤメテッッ許して！

加奈ちゃんの口から痛いと言う言葉から、だんだんと快感とも取れるうめき声や喘ぎ声に変化しはじめた～

マキトは、両手を使い、クリトリスにはバイブ、膣内にはティードウールで激しく責めている。

加奈ちゃんは、セーラー服を胸の上まで捲られて、二つの乳首には

洗濯挟みを付けられ、スカートも捲られて右足を上げた状態で、クリトリスと処女膜を喪失したばかりの膣内にはティードウールを出し入れされてまだまだマキトの強姦は終わらない！

生殖器拷問２

加奈ちゃんは、マキトにより激しくクリトリスと膣内を攻められて、膣内から大量の愛液を垂れ流しながらうめき声をあげていた～

死んじゃう～ヨ～ッッ！
オカシクナッチャウ～ッッ！
壊れちゃう！！ヤメテクダサイ…

マキトは、更に早く加奈ちゃんの膣内をティードウールでピストン運動をしたら、遂に加奈ちゃんは、ドピュツーッッ！ドピュツーッッ！と大量の潮吹きをして、初めての絶頂を迎えた！

ピクピクと生殖器を痙攣させながら、ぐったりしてしまった。

マキトは加奈ちゃんの膣内から、ティードウールを抜いた！

処女の膣内からは、鮮血の混じった加奈ちゃんの愛液がドピュツーと大量に流れ落ちた。

マキトは、やっと処女の女子高生の加奈ちゃんをイカせる事が出来た！

まだ強姦は、始まったばかりだと、ぐったりしている加奈ちゃんの尿道唇から、クダを入れて、膀胱まで差し込んだ！

すると黄色の液体がクダを伝い、床に流れ落ちた、加奈ちゃんの意識とは別に、膀胱に貯まっていたオシッコが強制的に排泄された♪

イャダャ～ッッ許して下さい、ミナイで…ヤメテッッ…ヤメテ！

ちからなく、か弱く叫んだ！

マキトは加奈ちゃんの下腹部を右手で押して、膀胱の中に貯まっている、オシッコ全てを絞り出した、のに尿道唇からは、クダを抜かないで差し込んだままにして、次に加奈ちゃんのアナルに指先をゆっくり入れてゆく、尿道唇の次はアナル処女を犯す！！

イタイョ～ッッ許して！！

マキトは小さなアナル用のバイブを手に持って、加奈ちゃんの処女アナルの中に差し込んだ！

赤く腫れ上がっているクリトリスには、ミニバイブを当てながら！

ダメだよ～壊れちゃう！！ヤメテクダサイ…ホントに壊れちゃうョ～ッッ許して！！

絶頂をまたしても迎えてしまった♪

全身をピクピクと痙攣しながら叫び続けていた！

イク～ッッ…ヤメテッッ…ハヤク抜いて！

イャーッッ…！！

マキトは、アナルバイブを抜いて、浣腸を二本アナルに差し込んだ！

イャーッッ…！！

更に二本アナルに浣腸液を入れた！

イャーッッヤメテクダサイ…お腹が～お腹が～壊れちゃう！！

少女３っの攻め

加奈ちゃんはお尻をもぞもぞとし出した！

（うっ～お腹が…イタイョ～お腹が壊れちゃう～オカシク…ダメダメ～ッッ許して！！）

マキトは加奈ちゃんの下腹部を揉んで、排便を即した！

更に加奈ちゃんに向かって、悪魔のささやきをした。

「俺の事を、ご主人様と呼べ、そして加奈の子宮にご主人様の熱い精子をたっぶり注いで下さいませ加奈の子宮内でご主人様の精子を受け止めて孕ませて頂きます！！と言ったら、拷問を許してやるよ、家にも帰してあげよう」

「イャーッッ許して下さい！！」

「そんなこと無理です～ッッ」

「なら続けるとしょう♪」

マキトは加奈ちゃんのアナルに浣腸液を５００ｃｃ追加して流し込んだ！

バイブでクリトリスを刺激して、ティードウールを膣内に入れて激しく子宮唇を突いた！

膣壁と直腸は隣どうしで有るために、膣内の激しい衝撃がそのまま直腸に伝わり、排便を予兆させている…

ダメ～ッッヤメテクダサイ…ダメ～お腹が壊れちゃう～ッッ！

出る～お腹が壊れちゃう～お腹が…ダメ～お腹が…

ごう音と　共に加奈ちゃんの肛門から、黄色い排泄物が勢い良く飛び出し始めた～

イャーッッ…見ないで…見ないで！！ヤメテッッ！

加奈ちゃんの直腸内の排泄物が全て肛門より飛び出し終わると、マキトは、濡れタオルで加奈ちゃんの股間や大腿部を綺麗に拭いて上げた！

今度は、ミシン糸と５００グラムの分銅を用意して、加奈ちゃんの乳首に糸を結んで、下に垂らし先に５００グラムの分銅を結んだ

二つの乳首からは、分銅が吊るされて、ピンクの蕾が下に引っ張られて伸びていゆく…

イタイョ～ッッ！もうヤメテクダサイ…

「止めて欲しいなら、早く俺様の教えた言葉を言えば止めてやるよ」

加奈ちゃんは、絶句していた…まだ言えないらしい！

マキトは乳首に続いて加奈ちゃんの一番感じるクリトリスに向かった！バイブで激しい刺激を与えたクリトリスは赤く腫れ上がっていた、根元に糸をくくり着けて乳首と同じように５００グラムの分銅を付けたら、クリトリスが引っ張られて小指の先の様に伸びてゆく…

イタイョ～ッッ！千切れる～！！ヤメテクダサイ…

今度は、道具箱から赤い大きなローソンを二本取り出して、ライターで火を付けた！

セーラー服少女の最後

加奈ちゃんは赤い大きなローソクに眼を向けた?

(これ以上何をされるんだろう?)

(この男の言う事を聞いて、奴隷のようにされてしまうのかな!?
イャダャ～ヨ…まだ身体を大切にしたい…汚されたくない…)

マキトは、ティードウールをまた取り出して、加奈ちゃんの膣内に入れて、掻き回し始めた、左手には赤いローソクを持ち、加奈ちゃんの上を向いて吊り上げた右足のふくらはぎに熱いローソンを垂らした!

アッイーッッ!
アッイーッッョョ～ォォォ!!ヤメテッッ!
アッイーッッ!!

アァッッ!お腹が壊れちゃう～ッッ!
掻き回さないで～お腹が壊れちゃう～!!

イクョ～ッッ!ヤメテッッ!
イッチャウ～ッッヤメテクダサイ…頭が真っ白にナッチャウ～お腹が壊れちゃう～オカシクナッチャウ～ッッ!

死んじゃう～ッッ!

死んじゃう！！

アッイーッッ！
アッイーヨォォ！！ヤメテ

マキトは赤いローソクを右足の膝から太ももに垂らしながら加奈ちゃんをいたぶって持て遊んでいる、右手では激しくティードウールを動かし、加奈ちゃんを何回も潮吹きに導いていた。

ローソクを大腿部から、乳房に移動して、ピンクの蕾の上に垂らした！

アッイーッッ！ヤメテッッ！
アッイーョョッッ！
全身が震えてびくびくしている、もうすぐに堕ちて仕舞うだろう…と思った時に！？

「ご主人様…加奈の・・子宮・・・の中に…ご主人様の・・・熱い精子をたっぶり注いで下さい・・・ご主人様の精子を受け止めて孕ませて頂きます…」

遂に加奈ちゃんはマキトに屈してしまった。

「ありがとう♪加奈ちゃん」

と一言ささやいて、マキトは、ローソクの火を消して、加奈ちゃんの膣内からティードウールを抜いた！

クリトリスと乳首にぶら下げた分銅も取り外して、優しく加奈ちゃ

んを抱き締めた♪

加奈ちゃんは大粒の涙を流しながら震えている。

加奈ちゃんは脚や両手の拘束も解かれて、やっと手足を自由に動かす事が出来て、ほっとしていた。

マキトは、加奈ちゃんを縛っていたロープをほどき始めた～

乳房の上下を縛ったロープを解いてから、肩から股間に縛ったロープもほどいてあげた…

「ご主人様ありがとうございます…」

加奈ちゃんは、震えながらマキトにお礼を告げた～

マキトは加奈ちゃんを仰向けに寝せて、から加奈ちゃんのお腹の上に股がり、そっと唇に触れた♪

加奈ちゃんもマキトの唇を受け入れて、お互いに唇の中に舌をいれて、甘いディープキスを堪能した♪

クチュクチュクチュ♪

舌を絡ませ、お互いに唾液を吸い込んだりして過ごした。

マキトは空いてる手を使い加奈ちゃんの破れている下着を全て取り払い、セーラー服とスカートだけの姿にした。

セーラー服を乳房の上まで捲り上げて白い乳房やピンクの蕾を見つめた！

「綺麗だよ加奈ちゃん♪」

マキトは、ロープの跡や洗濯バサミの傷跡を両手でそっと撫で上げてゆっくりと二つの乳房を揉んだ♪

加奈ちゃんもゆっくりと両脚を開き始めた～

加奈ちゃんのオマンコは子宮内から出ている愛液でびしょびしょに濡れていて、マキトの勃起したペニスを何時でも受け入れる準備ができていた…

「ご主人様…お願いします…」

マキトは勃起したペニスを加奈ちゃんのスカートを捲り処女を失ったばかりの膣内に挿入して、子宮唇に激しく出し入れを繰り返してぶつけた♪

「加奈ちゃん、射精するよ！君の子宮唇で俺の精子を飲み込むんだ♪」

「ご主人様…美味しく頂きます…」

マキトは加奈ちゃんの子宮唇に大量の精液を何回も放出した、ペニ

スが衰えるまで繰り返して加奈ちゃんの子宮内に精子を流し込んだ。

「ご主人様の熱い精子を子宮が喜んで、ごくごくと飲み込んでいます…孕まして頂きます…」

遂にセーラー服少女加奈ちゃんはマキトにすっかり落とされてしまった。

羽山に落とされていた、メガネっ娘の希望もミニのセーラー服にミニスカートで下着を着けていない…

オマンコや乳房を刺激されていた仰向けになり、羽山に脚を開かされていた。

希望は羽山に

「私・・羽山さんに・・もう・・・奪われているんでしょう…」

「なんで?そんな事を言うんだい…」

「希望が眠って要るときに奪われていたみたいなの…眼が覚めた時にね、アソコがジンジン痛んだの」

羽山は希望ちゃんをそっと抱き締めた♪

「君の身体は汚れてなんかいないよ、綺麗だ!!」

「嘘でしょう~ホントの事を話して下さい…私はホントの羽山さんを知りたいから」

その言葉を聞いて羽山は胸に痛みを感じた…

三人の少女達

羽山は希望に本音を打ち明けた…

「希望ちゃんごめん！君の身体に眠っている時に処女を奪って子宮内に射精していたんだ、希望ちゃんの思った通りなんだ、子宮内には俺の精子がたっぷり入っている」

「羽山さん…やっぱりそうなんでしょう…アソコが痛かったから、処女膜を奪われていると思いますよ普通なら…」

「でもね、まだまだ素敵な君を犯したいんだ」

羽山は、希望ちゃんの唇にキスをしながら、膣口にはペニスをあてがって、膣内に挿入した。

「アァッッ～ッッキモチ～イイョ♪」

「奥まで、子宮唇を羽山さんの熱いオチンチンで突いて～イイョ♪」

希望ちゃんのその一言で羽山は、勃起したペニスを激しく子宮唇を突き上げるようにシゴイテ、大量の精子を希望ちゃんの子宮内に注ぎたっぷりと放出した。

マキトと羽山は、女子高生三人を解放した。

さゆりに希望、加奈はやっと男達に解放された、喜びが有った、反面もう同級生や普通のクラスメイトの男の子達とは、付き合えないと感じた…

理由は簡単だった、

普通のセックスでは物足りないと感じなから三人は、建物から出て行った…

♀♀♀

羽山にマキトは建物から出て、次の獲物はもっと若い娘達にしょうな!!

と相談しながら、学校の前に車を停めて、下校中のセーラー服少女を物色していた…

学校の校門から出て来た可愛らしいセーラー服少女三人に眼をつけた!

まだ乳房は膨らみきっていない、少女三人に狙いを浸けてゆっくりと後を追って車を走らせた。

新たな獲物

羽山にマキトはセーラー服少女三人の後を付けながらゆっくりと車を走らせていた、回りに他の人物がいなくなり、少女三人を監禁する為に、彼女達の横に車を付けて、助手席のマキトがドアを開けて話し掛けた♪

「ごめんよ！君達はアルス学園中等部の生徒だよね、今度君達の学園が全国の中等部の中でもスポーツや学業がずば抜けて優秀なのは何故か！？と言う番組を作る事に成ったんだ、俺はその番組のデレクターなんだよ、チョツとで良いから、話をしたいんだが良いかな？」

私の名前はマキト！だよ♪

三人のセーラー服少女に　偽の名刺を渡した！

「えぇっ～取材なんですか？」「ホントに信じられないね♪」
「何処の放送局なの！？」

「詳しくは、車の中にパンフレットがあるから見なさい♪」

羽山にマキトは偽の名刺に偽のパンフレットをパソコンで制作して、少女達の芸能魂をくすぶる為の準備をしていたのだ！

三人は名刺を渡されて、すっかり信じ込んでしまい、素直に車に乗り込んでしまった。

羽山はニコリと笑いを浮かべた！かもが♪引っ掛かったと、飛び切りのセーラー服少女三人だった！まだ中等部だから、処女に違いない！！

三人のセーラー服少女は、男達の出したドリンクを口に運んで飲み干した♪

マキトは三人の名前と学年を聞いた！

おかっぱの少女はナオ
ポニーテール少女はみゆ
茶髪少女はゆき
三人ともに中等部二年生だった。

毒牙に掛かるとも知らないで、今日は家には帰れなくなるはずだから♪

遊戯

羽山にマキトは中等部の可愛い少女三人を車に載せてからジュースを飲ませた…
疑いもせずに三人はジュースを飲み干してすぐに眠りについてしまった♪

用意周到に準備していた、資料やパンフレットを見て信用させる手口で羽山達はこれまで何人もの少女達をレイプするのに成功していた。特に若い娘は、マスコミや芸能界には食い付きやすい♪
絶好のカモなのだった♪

羽山はアジトに向かい車を走らせていたら、助手席のマキトがチョツと止まってくれ、面白い事を思い付いた、ムフフフ…
あそこに歩いてる男の子を拾って逝くぜ…

車の前を若い学生が2人歩いてる!
羽山は、マキトの考えを解らない?でも面白いと言ったので、何か考えが有るのだと思って、男の子の横に車を着けた!
マキトは、助手席のドアを開けて、男の子2人に声を掛けた!

「君達は高校生かい！」

2人の男の子は、

「いいえ！中3です、何か用ですか？」

「君達は、まだ童貞かな、女の子の裸を見て見たいなら、車に乗りなよ、お兄さん達が女の子とエッチのやり方を教えてあげるよ♪」

マキトは、男の子2人に車の後部シートを見るように言って、手招きした。

男の子2人は、車の後部で眠っている三人のセーラー服少女を見た。

「嫌なら別にかわまないけど、女の子の裸を見たいなら乗りなよ！」

「男の子2人はドキドキしながら、顔を見合わせて、乗ろうよ♪」

と2人は言って、車に乗車した。

羽山は、2人の男の子を載せて、改めてアジトに向かって走り出した…

遊戯（後書き）

今回は、男の子2人にレイプ現場を見せながら、セーラー服少女達を強姦します、お楽しみに！

今日は何ページ更新出来るかは?解りません、多分8ページぐらいに成ります。

ご意見、要望がありましたらコメントしてください♪昨日はアクセス数は３５０００でした。
お気に入り登録に評価ありがとうございました。

生け贄少女

羽山にマキトは先程とは違う場所のアジトに着いて、車を駐車場に停めて、三人のセーラー服少女達を部屋に運び込んだ、羽山にマキトが一人づつ、男の子2人で一人の女の子を運んだ！

部屋に入って直ぐにセーラー服少女達は中央のマットに並べて、仰向けに寝せた♪

可愛らしい三人の少女達を羽山にマキトは見つめている。

マキトは男の子2人にズボンを脱いで、マットの脇に座る様に命令した！

「お前たちのま名前を決める、背の高いお前は、ノブだ、そっちの君は、マヤとよぶからな」

「解りました」

マキトは男の子2人に、あだ名を付けて呼ぶ事にした

「この方が女の子達が起きた時に、本名じゃあ無いから後々良いだろうからな…俺はマキトとだ、隣の兄貴は羽山と呼んでくれ♪」

ノブは「マキト兄、俺達に色んな事を教えて下さい…まだ俺童貞なんです、女の子と付き合った事がないっす、兄貴宜しくっす！」

「おう♪解った任せて置け、女の子の身体の一から十まで皆教えてヤラア♪」

マヤも「マキト兄貴俺にも宜しくお願いいたします！！」

「おう♪解って要るって♪先ずは其処で、パンツを脱いで俺達のする事を良く見つめていな」

羽山は笑いながら

「マキト、良い弟分が出来たな♪」

じゃあ始めるか♪

羽山とマキトは、セーラー服少女三人の唇にそっと唇を合わせた！

羽山はおかっぱのナオから唇を奪い、次にポニーテールのみゆ、更に茶髪のゆきの順番に唇を奪った！

マキトも羽山に続いて同じようにセーラー服少女の唇を奪いながら、セーラー服を乳房の上まで捲り上げてゆく、

ナオちゃんは水色のブラジャーをしていた、サイズはまだＢカップぐらいの発達途中な体つきだった、まだまだふくよかに成ると感じながら、見つめた！

三人共に１４才ぐらいだから此れから乳房やお尻が発達するだろうと思いながら…

ポニーテールのみゆのセーラー服を乳房の上まで捲り上げた、白いブラジャーが露に成った、みゆちゃんは乳房が発達していた、Cカップ以上は有った♪

次に茶髪のゆきちゃんのセーラー服を捲り上げてゆく、ブラジャーは白いスポーツブラだった、何かスポーツをしているんだろう♪サイズはCカップ以上有りそうだ♪

マキトは男の子2人に、「女の子のブラジャーを良く見ていろ、お前へらは自分のオチンチンがでかく成っているな、まだ自分でシゴイテいろ、俺が色んな事を教える迄は、そこで見ているだけだからな！」

「オッ―ッス！！兄貴！解りました！」

マキトは、自分達がセーラー服少女三人を強姦し終わる迄は、男の子2人に見ているだけだと決めている。

生け贄少女2

マキト目線で進みます。

三人の少女達のブラジャーを男の子に見せてから、次の段階に移る！！

また順番にヒダスクールスカートを腰の上まで捲りら両足を開いて行くと、パンティが露になって見えてきた。

ブラジャーとお揃いの色や柄をしている。

マキトは、男の子2人少女達の下着姿を鑑賞させた♪

2人のチンチンは更に勃起していた、初めて近くで生で同じような年頃の女の子の下着姿を見たのだから仕方ない！！

マキトはおかっぱのナオちゃんの上に股がり、捲り上げたて露になってブラジャーを脱がし始めた、ナオちゃんの背中を少し持ち上げて、ブラジャーのホックを外してから、ゆっくりとブラジャーの下から乳房の上まで首根っこまで捲り上げた、

白い乳房が綺麗だ、薄いピンクの蕾が2つ乳房の上にのっていた！辛うじて陥没していない、ちょこんと白い乳房の上に付いて要るみたいな蕾…だ！

少女を象徴していて素敵な2つの膨らみを鑑賞した、続いてパンテ

ィに手を掛けて、ゆっくりと足元に下げながら脱がしてゆく、大人と違いまだ陰毛は薄いそのさきに割れ目が現れた！

ナオちゃんのパンティを足から脱いで、両足を開いて少女の股間を眺めた！

おかっぱの少女ナオちゃんはセーラー服を乳房の上まで捲られスカートも腰の上まで捲られた、全裸を俺達の前に曝した！

マキトは男の子2人に、
１４才のおかっぱ少女ナオちゃんの全裸を良く見るように告げた！

２人の男の子は、自分たちのオチンチンを扱きながら初めてみる女の子の裸を乳房や乳首にオマンコを凝視している。

唾を飲み込んで、眼を見開いて初々しい少女ナオちゃんの全身を見つめて興奮している。

生け贄少女3

羽山はポニーテール少女みゆちゃんに強姦を始めた…
眠っているみゆちゃんのブラジャーを鷲掴みにして引きちぎり、足も広げて、パンティに手を掛けてそのまま引きちぎり棄てて、千切れたブラジャーとパンティを男の子2人に渡した！

男の子2人は、直ぐにブラジャーとパンティを自分たち顔面にあてて、匂いを嗅いだり舐めたりし出した！
羽山はいきなり、ポニーテール少女みゆの大陰唇を開いて、少女のオマンコを広げて、見つめた、まだ汚されていない、綺麗な突起に、小さな尿道唇にピンクの小さなビラビラとちじこまっている膣唇を開いて、指を中に入れた、少女の腰がピクンピクンと痙攣し出した！

膣壁はきつく羽山は指を二本立てにして、キツイ膣壁を開いた、中にピンク色をした処女膜のヒダが膣壁にまとわりついて見えてきた。
羽山は男の子2人を近くに呼んだ！

「お前等良く見て置け、此がこの娘の処女膜だ、綺麗だろ、今から俺がこの娘を強姦して、処女膜を奪い、子宮内にたっぷりと俺の精液を放出してポニーテールのみゆちゃんを孕ませる処を見るんだ！」

男の子2人は初めて女の子の生殖器を眼にして、更に貴重な膣壁やソノオクにある、夢のような処女膜まで見られて興奮が最高潮に達して、2人ともオチンチンをシゴイテ、射精してしまった。

「おい、おい此れから本番を見せるのに、さずがに若い男の子は我慢出来ないんだな！」

「スミマセン兄貴、もう限界でした…」

「俺も限界でした…兄貴が強姦する様を良く見させて頂きます！！」

羽山はポニーテール少女みゆの膣口にペニスをあてがい、ゆっくりと処女の膣壁を押し開いて挿入していった。

みゆの膣壁はピクンピクンとペニスを締め上げていた、処女の膣壁が異物の侵入を阻止していた…

更に腰に力を入れて処女の膣内にペニスを押し込んだ！

もう少しで眠っている可愛らしいポニーテールのセーラー服少女は処女膜を破かれてしまう。

少女強姦喪失

ポニーテール少女みゆは羽山により処女膜をぶち破られる瞬間だった、男の子２人は少女の処女膜喪失の瞬間を固唾を呑んで眼を丸くして覗き込んでいる！！

正に、生でみる同じような中等部の１４才の生殖器、セーラー服少女みゆちゃんの処女膜喪失シーンに興奮しない訳がなかった、誰でも男なら、この要なシーンはお金を出しても見れない訳だから、男の子２人は興奮が収まらない！

ポニーテール少女みゆは足をピクピクと震えだした。
眠っていても処女膜をぶち破られる刺激に耐えられ無いらしい…

羽山は腰に力を入れてペニスを膣内に押し込んだ！

処女膜を引き延ばしして、ついには、ペニスの先が少女の薄いヒダを突き抜けた瞬間だ！！

ペニスが処女膜を破り一気に子宮唇に触れて、子宮を押し上げた！

セーラー服少女みゆの乳房がピクピク揺れて、白い足が二本共に痙攣を始めた…

羽山は処女膜喪失のみゆの膣壁を激しくピストン運動により刺激して、子宮唇にペニスを打ち付ける！！

そのたびに、二つの乳房が飛び上がる用に震えた！

「凄いです！！兄貴♪女の子のオッパイが踊ってますね♪」

「オッパイだけじゃあ無いぜ！全身がプルンプルンと踊っているよ！凄いですね」

羽山は2人の男の子に、そろそろイクゾ！良く見るんだ！

一気にベニスの動きを加速した！イクゾ！

女の子の乳房や全身が激しく踊りだす用に震えている！！

イクゾ！！

羽山は子宮唇を思い切り突いて、熱い精液を大量に子宮内に放出した、まだまだ子宮唇を突いて次々と羽山の精液がポニーテール少女の子宮内に飲み込まれてゆく！

羽山は全ての精液を放出しおわり、ポニーテール少女の膣内から、ペニスを抜いて、男の子2人に少女の膣唇を指で開いて見せた！

膣唇からは、男の白い精液に混じ処女膜喪失の証の鮮血が流れ出てきたのが見えている。

純潔の処女膜が破られた証を男の子2人は初めて目の前でみせて貰い、眼を輝かせて処女膜喪失のオマンコをみている。

生理少女

羽山はポニーテール少女みゆをそのままにして、次に茶髪少女のゆきちゃんの傍に行って、ちょっと気になったパンティを見た？

少しだけ、パンティが盛り上がっているのを確かめたら、やはりビンゴだった！

茶髪の少女ゆきちゃんは生理ナプキンをパンティの中に入れていた！

羽山はパンティをゆっくりと下げ始めた…恥丘が少しずつ見えてきた♪

女の子のスカートとパンティを脱がす瞬間が一番ドキドキする…恥ずかしい瞬間でもある！

陰毛はまだ薄い地肌も透けて見えている♪女の子の割れ目の回りには毛がなくパンティの中に薄く生理の鮮血が滲んでいるナプキンがあった。

パンティを足から抜いて、足を開いた！

羽山は2人の男の子に茶髪少女のオマンコを隠す用に薄く鮮血に染まった生理ナプキンを見るんだと言った！

男の子2人は、また新たな衝撃的な刺激に、女の子の生理ナプキン

に眼を輝かせて見つめた！

隣ではマキトがおかっぱの少女ナオの膣内にペニスを挿入して、ナオちゃんの処女膜を奪っている最中だった！

羽山と中学生2人の男の子は、マキトの様子を見ることにした。

マキトのペニスがおかっぱ少女の処女膜を突き抜けたナオちゃんの乳房が大きく揺れている、足もピクピクと動いて、寝ていながらも処女膜喪失の痛みが伝わって要るみたいな感じだなと、男の子2人は思った！

マキトもおかっぱ少女の処女膜を奪い子宮内に精液を放出して、膣内からペニスを抜いた！

男の子2人は膣唇に釘付けセーラー服少女ナオちゃんの膣唇からも、マキトの精液と処女膜喪失の赤い鮮血が滲み出ていた！？まだナオちゃんの子宮内にたっぷりとマキトの精液を含んで要るんだと思って見ていた！

マキトがナオちゃんの下腹部に手を添えて押したら、膣唇から少しずつ流れ出した…恥ずかしい瞬間だった、

羽山はいよいよ、生理中の茶髪少女ゆきちゃんのオマンコに注目するように、中学生2人に告げた！

「羽山兄貴よろしくっす」

もう2人の男の子は、見るものが全て夢の要な体験ばかりであり、マキトや羽山の事を兄貴と呼んで、尊敬している。

羽山は、ゆきちゃんのオマンコに張り付いていた生理ナプキンを指で摘まんで男の子に渡した！

「欲しかったんだろうが！？」

ノブは「兄貴ありっす！」

受け取った生理ナプキンをハンカチにくるんでポケットに大切に閉

まった！

「生理中の膣内を見せてやるからな！」

羽山は道具箱から、産婦人科で使う、クスコを取り出した！

「この器具はな、女の子の膣内に入れて、膣壁を拡げて、子宮内まで良く見る為に使う器具なんだ！今から茶髪少女のゆきちゃんの膣内に挿入するからな♪」

羽山はゆきちゃんの足を開きながら上に上げて、オマンコが上を向くように、腰の下に座布団とたたんで敷いた。

指で大陰唇を開いた、するとマキトがゆきちゃんの両足を頭の方から押さえてくれた。

皆で解剖するみたいに、ゆきちゃんの大陰唇を見つめていた。

開いたオマンコはまだ綺麗なピンク色のビラビラの小陰唇を左右に開き、可愛らしい皮の被った突起物に尿道唇と生理中の鮮血が滲んでいる膣唇が見えてきた♪

女の子の証を皆で見つめていた！

生理少女の中に（後書き）

次はいよいよ生理中の膣内を皆で鑑賞します、処女膜は有るのか？

羽山は茶髪少女をレイプするのか？

中学生２人の男の子達にも注目してください。

感想やコメントお待ちしています、よろしくお願いいたします。

生理少女強姦

羽山は茶髪少女ゆきの膣唇にクスコの先端をゆっくりと押し付けた！

先端が生理中の膣唇をゆっくり開いて、膣壁を押し拡げながら膣内に飲み込まれてゆく、処女膜の出前辺りで挿入を一旦止めて、クスコを目一杯大きく開いてゆくと、ゆきちゃんの膣壁が震えだした！

まだきつい膣壁に阻まれてあまり拡がらない！

それでも、膣壁やヒダを見ることが出来た！

膣壁を包む様に生理中の鮮血がついた、赤いヒダを確認出来た。

ゆきちゃんの処女膜だ！

セーラー服少女ゆきちゃんの生理中の鮮血の付いた処女膜を順番に観察した。

中学生2人も珍しい物を見るように、ワクワクしながら観察している。

羽山は男の子達に、生理中の血液は固まらないで流れ出る事を教えた…

生理中の血液中には血液を固めるための血小板や血液の成分が普通と違うのだと言うことや、生理が終わってから二週間ぐらいで排卵がある、その時に精子を子宮内に放出すれば、妊娠して孕ませることが出来る、等を中学生2人に教えた！

「為に成ります、ありっす！」

クスコの先に閉じている子宮唇が小さく見えていた！
羽山は男の子2人に

どうしたい？このままクスコを挿入したら、ゆきちゃんの処女膜を破ってしまうぞ、それでも良ければ挿入して、子宮唇を押し開いて子宮内に様子をみる事が出来るが？

「どうしたいか？お前に任せる　！」

中学生2人はヒソヒソと相談しはじめた…

どうする？処女膜を破る瞬間も見たいし、でも拡げながら挿入すると、処女膜がやぶれて血が出るよな？

そしたら、膣内に血が貯まって中が見えなくなるんだぞ？
「じゃあどうするんだよ！？」

「子宮内は諦めて、処女膜が破かれる瞬間だけでも見るか？」

2人は結論がなかなか出ないでいる。

生理少女強姦（後書き）

この後の展開を募集します、コメントよろしくお願いいたします。

深夜二時まで受付します。

生理少女強姦

生理中の茶髪少女ゆきちゃんの処女膜を見つめていた男の子に羽山は俺がこの娘の処女膜を奪ってから、またクスコで膣内に子宮唇の中にたっぷりと注いだ精子を見せてやるよ、子宮唇がひくひくしているかも知れないぞ♪

羽山は膣からクスコを外して、茶髪少女ゆきちゃんの身体を仰向けにして、足を開いた！

生理中の膣内に勃起したペニスを一気に差し込んだ！
クスコを入れて、拡がっていた膣内には、直ぐにペニスは、処女膜を突き破り、子宮唇に達した。

ペニスの頭が子宮唇にぶつかる度に、白いセーラー服の裾から、はみ出している白い乳房がブルンブルンと揺れていた！

羽山は、膣内に激しくペニスを出し入れして、熱い精子を処女内に噴射した。

今日は何回も射精したから、量は少ない…

膣内から、ペニスを抜いてから、生理食塩水を水差しに入れて、茶髪少女の膣内に差し込んで、膣壁を洗い流して綺麗にした。

中学生2人は、羽山の仕草を不思議そうに眺めていた。

羽山は2人に「これは生理食塩水といって、傷付いた膣内を消毒や殺菌して、綺麗にするために使うんだ！」

と教えた。

羽山は、マキトに耳打ちをした！マキトも了解して、次の作戦に移る事にした。

羽山は、綺麗に成った、茶髪少女ゆきちゃんの膣内にクスコを今度は子宮唇まで挿入して、精子を受け止めている、子宮内をクスコを拡げながら見せた♪

男の子2人はまたもや真剣に不思議な膣内を覗き込んで、子宮内の様子を見ていた！？精子や生理の為に子宮内から剥がれ落ちたヒダを目にした！

男の子2人

羽山は、男の子2人に指示をした。俺達を拘束してから、お前等2人は、女の子三人を起こしてから、自由に女の子三人を犯しなさい！

「羽山とマキトは、両手、両足を拘束されている、状態でお前等が女の子三人を犯して要るのを見させて貰うからな！」

羽山は、男の子2人に、指示をした、女の子三人のセーラー服やスカートは自由に破り捨てて良いぞ、下着が欲しければ、奪って持ち帰っても良い！

「女の子三人には、白いワンピースを用意してあるから、それを着せて帰せば良いから、下着は履かせるな、ノーブラ、ノーパンで解放しろ、解ったな！」

羽山は男の子2人に、女の子三人の着替え用のワンピースを渡した！

羽山とマキトを拘束するための手錠を、道具箱から取り出して、鍵を掛けないようにして、男の子2人に渡して、自分達を手錠で拘束させた。

羽山とマキトは、男の子達により、両手、両足を鍵を掛けないで拘束された。

羽山は、良し初めて良いぞ♪君たちの好きな様に女の子三人を犯すんだ！

「童貞を捨てるところを見ているからな♪女の子三人をイカせて上げなさい♪」

ハサミは、道具箱に入っているから、セーラー服やスカートを切り刻みたいなら、使うんだ！けして女の子達の身体は傷つけない様に気をつけるんだぞ！

必ず女の子三人を解放するときは、白いワンピースを渡して着替えさせるんだぞ全裸で解放するな！ワンピースの裾は短く切っても構わないけどな…でもオマンコが丸見えはダメだぞ♪

「ありっす兄貴！」

「感謝です兄貴！」

女の子三人は、セーラー服にスカートを整えて、ブラジャーにパンティも履かせてから上向きに寝せた！

これから、羽山とマキトが見守っている中で、男の子2人がセーラー服少女ゆき、ナオ、みゆちゃんを犯してゆく♪

少年達

男の子2人は
ノブがポニーテールのみゆちゃんの傍にゆきレイプする。
マヤはおかっぱ少女ナオちゃんの傍により、身体を触り始めた！
生理中の茶髪少女ゆきちゃんは敬遠された…

目覚めさせるために気付け薬を口移しで飲ませるときは別にしょうと2人は相談した。
羽山にマキトは、手足を拘束され、口には猿ぐつわをされた状態で男の子2人がセーラー服少女をレイプするのを鑑賞している。

男の子2人は
三人のセーラー服少女を目覚めさせるために、気付け薬を口移しで飲ませなければならない…ノブ君はナオちゃんから順番に唇を合わせつ口移しで飲ませ始めた♪
マヤ君はみゆちゃんとゆきちゃんの2人の唇を奪う形で飲ませた♪

2人にしたらファーストキスも兼ねた口移しででもあった、寝ている女の子でも緊張しているみたいだった！

薬を飲ませたら、ノブ君は最初の予定通りにゆきちゃんの傍に近よ

り、まだ寝ている胸をセーラー服越しに触り始めた♪初めて生で女の子の胸を揉む感触に、下半身がすでに膨らんでいた。

マヤ君はナオちゃんの傍に近より同じようにまだ眼を覚まさない女の子の胸を触り始めた♪

2人共に気持ち良さそうにゆっくりとセーラー服越しに揉んでいる…

ウッゥ～ッ…

ウ～ンッッ…

女の子達のうめき声がはじまった…少しずつ意識を回復してきている。

ノブ君とマヤ君は女の子達の声を聞いて一旦胸を触ることを止めて！

男の子2人は、それぞれ女の子のセーラー服からスカーフを抜き取り、女の子の両手を縛りあげた、眼を覚ましても、抵抗出来ないようにした。

男の子2

女の子三人は眼を覚ましてゆっくりと身体を動かしていた…

三人共に両手を動かそうともぞもぞとしていた、足は動かせる…膝を曲げてみたり、左右に動かして、スカートの裾をゆらして、白いパンティがチラチラと覗き見えていた！

ノブ君はみゆちゃんの顔を覗き込んで、眼を覚ますのを見つめていた…

「おはよう！みゆちゃん♪」

ウッッゥ～ッ…？

みゆちゃんはゆっくり眼を開けた！？

お腹の上に何か乗っかっている胸を触られている感じがして、右手を動かそうとしたが、頭の上で両手が繋がった感じがして、右手を自由に動かせない！？

男の子の声が聞こえたような？

あれ？どうしたんだろう～頭がフラフラする、少しずつ思いだそうとした、学校から帰る途中だった、ナオちゃんとゆきちゃんはどう

したんだろう～たしか放送局の方に聞かれて！？

意識がはっきりとしてきて眼を開けた！？

私を見つめている、知らない学生服を着た男の子が直ぐ目の前にいた？

「みゆちゃんお目覚めかな？」

「君は誰…？此処はどこなの？ナオちゃんは？」

「心配要らないよ、ゆきちゃんはこれから、俺に身体を奪われるんだから」

ノブはみゆちゃんの唇に自分の唇をあてがい、舌を入れながら、右手でセーラー服越しに二つの乳房をもみだした♪

ウッゥ～ッッ…！！

ウッッ～ッッ…！！

みゆちゃんは、

唇を奪われて声が出せない！自分の初めての唇が知らない男の子に奪われたショックで、足をバタバタさせて、腰も左右に動かして抵抗した！

「可愛いよ♪みゆちゃんの素敵なオマンコを早く見たいな」

「イャ～ッッ…何するの！ウッッ？」

ノブ君は一旦唇を離してみゆちゃんにささやいて、また直ぐに唇を奪った！

右手でスカートを手繰り捲りあげて、パンティの上から、みゆちゃんの割れ目を探りはじめた～

「うるさい静かにしろ！」

ウッッ～ッッ！

ウッッ！！

みゆちゃんは足をバタバタとして、抵抗をしていたが、まだ意識がハッキリしないで身体に力が入らない！？

どうしょう…涙が頬りに流れ出した…

ファーストキスを奪われたみゆちゃんは処女も奪われて仕舞うのでは…

と激しい抵抗をしだした！

男の子3

一方マヤ君はナオちゃんのお腹の上に股がり、目覚めた顔を見つめながら、二つの乳房をセーラー服越しに揉んでいる…

ナオちゃんもお腹の上に違和感を感じながら、手を動かそうとしたが、頭の上で繋がって拘束されている事に気が付いた!?

眼を開けたら、目の前のお腹の上に知らない男の子が自分を見つめていた?

「イャ〜ッッ!何ですか?」

「うるさい!オトナシクしろ!」

マヤ君は、両手をナオちゃんの白いセーラー服の胸当てを掴んでお腹に向かって思い切り引き裂いて、左右に拡げた!

「イャ〜ッッ!!止めて!何するのよ!!」

白いブラジャーが露になって見えている♪

「可愛いいブラジャーしているんだね♪何するかって?ナオちゃんを犯すんだよ」

「イャャ～ッッ！！ヨシテョ…ダメダヨ～ッッ！！」

「こんなもの邪魔だな！」

ブラジャーを乳房の上に捲り上げた！

白い乳房の上にピンクの乳首が有った！

「乳首が可愛いよ、食べてあげるからね♪」

ヤメテ～ッッ！！イャ～ッッ！

マヤ君は乳首にしゃぶりっいた♪

ピチャッ♪ピチャッ♪と音を発てながら、二つの乳房や乳首を代わる代わる、しゃぶつて舐め回したり、吸い込んで遊んだ！

イャ～ッッ！

イャーヨシテョ…！

うるさい！騒ぐな！

マヤ君は、乳房から唇をはなして、ナオちゃんの唇にキスをしながら、舌をナオちゃんの口内に入れて、口内を荒々しく犯した！

両手では露になった二つの乳房を揉みながら♪

男の子3

女の子で襲われていない、茶髪のゆきちゃんもゆっくりと意識を回復して、眼を開けて回りの様子を見つめていた。

何が有ったのかな?
隣ではナオちゃんとみゆちゃんの上に知らない男の子2人がナオちゃんとみゆちゃんの身体を触ったり、セーラー服を破り、白い乳房が露に成って、それを男の子が舐めている様子をみて、レイプされているの?

まさか!?・・・

更に自分の姿を見回したがちゃんとセーラー服にスカートを履いていたのでホッとした!
生理中だったから、お腹に痛みが有ったから、既に処女膜を奪われていたとは思わなかった!

大きな声を出そうとしたけども、男の子達に気付かれたら、自分も襲われると思い、静かに回りを見渡したら、部屋の角に私達に声を掛けてくれた、デレビ番組のデレクターさを達が、手足を手錠で縛られて、口には猿ぐつわをされている姿を見つけた!?

私達と同じように、目の前にいる、学生服を着た男の子達に捕まり、拘束されたんだと思った!

ゆきちゃんが部屋の中をあちこち見渡している姿を男の子のマヤ君が気が付いて！

「おい！そこの娘、此方に来るんだ！言うことを聞かないと、デレクター見たいにするぜ！」

マヤ君は、近くに用意してあった在る物をゆきちゃんに見せた！

ゆきちゃんはそれを見て、理解した、男の子の手には電気で大人でも気絶させる物が握り閉められていた！
ゆきちゃんは、ゆっくりと男の子に近づいていった…

マヤ君はゆきちゃんに

「止まれ！その場で、スカートを捲って、パンティを見せるんだ！言うことを聞かないと、お友達をこのまま犯して仕舞うからな！」

「ヤメテ～ッッ！！ナオちゃんにそれ以上酷い事はしないで…」

ゆきちゃんは涙を流しながらゆっくりとスカートを捲りあげて、パンティを男の子に見せた…

ナオちゃんはゆきちゃんに「ゴメンね…ゆきちゃんゴメンね…」

とささやいた…

男の子4

茶髪少女のゆきちゃんは恥ずかしそうに足をもじもじしながらスカートを捲りあげていた。

「もうスカートを元に戻しても？・・・良いですか？」

「ああ、良いぞ！次はセーラー服を捲りあげて、ブラジャーを見せるんだ、皆にだぞ、俺と、隣の男の子に見せたら、部屋の角にいる、デレクターにも見せるんだ！君の可愛いブラジャーを見たら、ドラマで使ってくれるかも知れないぞ！ブラジャーダケでなく、パンティも良く見せて来るんだ！解った直ぐに行動しろ！」

「んっ～ッッ！！えっ…嫌です！！」

ゆきちゃんは少し考えてみたしかし無理だと思い男の子に告げた！

じゃあそこで、お友達が犯されるのを見ているんだ！お前が見せてくれないから犯すんだからな♪

ノブ君はみゆちゃんのスカートを捲りあげて、両足を開いた！

白いパンティの上から秘部に指を這わせて微笑んだ！

みゆちゃんのオマンコを見せて貰うからな♪

パンティの前を右手で鷲掴みにして、少し引っ張った！パンティの隙間から、茂みがチラチラと見えている♪

更に力強く引っ張り引き裂いてしまった♪

キャ～ッッ！見ないで…ダメダヨ～ッッ！

（えっ…ホントに破いた！）

みゆちゃんのオマンコが丸見えに成った！

「どうする？このまま犯して仕舞うからな！」

茶髪少女のゆきちゃんは足をガタガタと震わしておどおどしている…

（どうしょう…私が嫌ですと言ったばかりに！！みゆちゃんが男の子に無理やりパンティを破かれて、裸にされてしまった…）

みゆちゃんは震えなから、泣いていた！

仕方ない…ゆきちゃんは白いセーラー服をゆっくりと捲りあげて、ブラジャーを見せた…

「やれば出来るじゃあないか♪隣の男の子にも見せるんだ！次はあそこにいる、デレクターの前に行って、スカートも捲って、パンティとブラジャー両方をみせるんだぞ！」

ゆきはセーラー服を捲ってブラジャーを隣にいる男の子に見せた…

下には、セーラー服を破かれて、乳房かわ露に成っているナオちゃ

んが泣いて涙を流していた。

自慰少女

茶髪少女みゆちゃんは、マヤ君の前で、セーラー服を胸の上まで捲り上げて、白いブラジャーを露出させた、マヤ君はみゆちゃんのブラジャーには眼を向けずに、ナオちゃんの乳首に吸い付きながら、右手ではナオちゃんのパンティの中に手を入れ初めて、秘部をまさぐりはじめた～

「あっ！身体に熱いのが…」

ナオちゃんは、マヤ君に乳房や乳首、そして秘部を触られているうちに、身体中から快楽のうめき声が出てきはじめた…

イャ～ッッ！そんな～ッッダメダヨ！！触らないで・・・

言葉では拒否していても、身体が感じていた…

先ほど、マキトに犯された記憶が頭には無いが、身体が覚えて要るみたいな身体が感じていた…

隣からマヤ君が叫んだ！

「次は、デレクター達の前に行くんだ！パンティとブラジャー両方を見せるんだぞ～何なら下着を見せながらオナニーでもして見せれば喜ぶぜ♪」

ゆきはオナニーと言う言葉を聞いただけでも、顔が赤く成るほどに恥ずかしい…

ゆっくりとデレクター達の前に行き、スカートを捲り上げてパンティを見せた…

恥ずかしいあまり、涙を流しながら足元はふらついていた。

ゆきちゃんは恥ずかしそうにデレクターのまえで白いセーラー服を捲り上げてブラジャーを露にしたり、スカートも捲りパンティをもじもじしながが見せていた、仲間のためなの～仲間のため…と我慢して震えていた。

マキトと葉山は恥ずかしそうに、下着を見せているゆきちゃんの姿が初々しくて新鮮身があり、見ているだけでも興奮して、下半身が膨らんできていた！

葉山はノブに眼で合図をした、二回まばたきを繰り返す！！

ノブ君は、葉山さんの合図を受け取り理解して次の指示をゆきちゃんに与えた！

「ゆきちゃんの下着姿を見て、デレクター達の股間が大きく成っているみたいだか、責任を取って、デレクター達のオチンチンを触ってあげなさい！嫌ならその場でオナニーするか、ブラジャーとパンティを脱いで、友達と同じように全裸に成るんだ！早くしないとお友達の胎内に射精してやるからな！」

「許して…これ以上は許して…もう～出来ないよ…」

「なら仕方無いな！おい！マヤ君犯してしまうぞ、たっぷりと子宮

内に中だし射精して受精させて、孕ませようぜ」

「了解！ヤルか」

ノブ君とマヤ君は同時にナオちゃんとみゆちゃんの足を拡げて、大きく勃起したペニスを膣内に入れてゆく…

イャ～ッッダメダヨ！！

「イタイ～ッッ！ダメ！入れないで！出来ちゃうよ！今日は危険何だから！！ヤメテ～ッッ！入れないで！」

「ダメだ！中だしするからな！たっぷり孕ませてやる」

男の子2人は、ペニスを膣内に初めて挿入した、童貞を卒業することが出来た喜びを感じていた…

ゆきちゃんは、仲間が犯されている姿を見て、顔が赤く成りながら震えている、ブラジャーとパンティを露にしながら…

マヤ君はゆきに

「早くオナニーするんだ！お友達が受精しちゃうぜ、もう出そうだ！君達もゆきちゃんにお願いしないと、俺達の精子で受精して、出

来ちゃうぞ～良いのか？」

「イヤ～ッッ！ダメダヨ！！ヤメテ～ッッ！
お願い！ゆきちゃん～！」

「イヤ～ッッ中にだけは出さないで…ホントにダメダヨ！！」

「イタイ～ッッ！ヤメテ～ッッ！」
ゆきちゃんはナオちゃんとみゆちゃんの悲惨な姿をみて、叫び声を聞いて…

仕方なく…

ブラジャーの上から自分の乳房を揉み始めた…更にパンティの上から、生理中のオマンコを触り始めた…

終着

ゆきちゃんは、パンティの上からもじもじしながら、オマンコを触りながら、ナオちゃんの犯されてている姿をみて、パンティに染みを作るぐらいお漏らしをしていた…

何で!?友達が犯されて要るのに…私の身体が感じていた…私の身体が勝手に…うずいて要るんだろう…おかしく成りそうだ〜アッッッウウ〜ゥ

指が、クリトリスに触れる度に頭の先からビンビンと刺激を感じる〜アアッッッ〜ゥウ…おかしくナッチャウョョ〜ォ♪

ゆきちゃんは、目の前にいるデレクターにオナニーをみられている…ナオちゃんにみゆちゃんの犯されている様子に、自分もエクスタシーを迎えてゆく…

嫌なのに・・・私変態に成ります…

パンティを膝まで下げて…デレクターの前で、オマンコを露出しながら、右手でクリトリスを触り出した!膣唇からは愛液が滴り出してエクスタシーが絶頂期を迎えてきはじめた…

仲間のナオちゃんもみゆちゃんも犯されてうめき声をあげていた…

ノブ君は、みゆちゃんの膣内に勃起したペニスを差し込んで激しく子宮唇にぶつけて犯していた!

「いくぞ！たっぷり出してやるからな♪」

イャ～ッッ！ウソでしょう…ヤメテ～ッッ！中には出さないで…ヤメテッッッ～！！

出すぞ！

出すぞ！

ノブ君は熱い精液を初めて女の子の子宮内に大量に放出した、射精が止まらない！次々にノブ君の精子がみゆちゃんの子宮に注がれてゆく…ヤメテ～ッッ

熱いのが私の中に…イャ～ッッ！中に出さないでよ…イャ～ッッ！

出来ちゃうよ…ヤメテ～ッッ！

マヤ君もナオちゃんの膣内に激しくペニスを出し入れしていた。

イタア～イイッッ！ヤメテ～ッッ！中には出さないでよ～イイッッ！

ノブ君も「いくぞ！俺の精子を子宮唇で飲み込んでくれよな♪」

ダメダヨ～ッッ！

「中には出さないで…ヤメテ～ッッ！」

いくぞ！
出る！！

ノブ君も初めて大量の精液をみゆちゃんの子宮内に放出してゆく♪
ノブ君の熱い精液を子宮で受け止めた、みゆちゃんは

イャ～ッッ！熱い精液が私の中に…入って来てるよ…ヤメテ～ッッ
出来ちゃうよ！

みゆちゃんもナオちゃんと同じように叫び続けた！

マヤ君はノブ君に向かい
「まだまだ続けるよな♪交代しょうぜ！」

ノブ君とマヤ君はお互いに交代して、ナオちゃんとみゆちゃんの上
に股がった！

逆襲

マヤ君はまゆちゃんの膣唇にペニスをあてがい一気に突っ込んだ！

ノブ君も同じようにナオちゃんの膣唇にペニスを宛てて勢い良く子宮唇まで押し込んで激しく出し入れを繰り返した！

イャ～ッッダメダヨ！！触らないで！いれちゃあイャ～ッッ！！

「イタイ～ッッ！！ヤメテ～ッッ中に出さないでよ…入って来てるよ…イャ～ッッ！！」

男の子達は思春期真っ盛りで性欲も盛んなために、一回や二回精子を放出しても、まだまだ出したりない！直ぐに絶頂期に達して、熱く濃い精子を子宮内に放出してしまった…

「イャ～ッッ！！中にデデテルルよ～イイッッ！！、出来ちゃうよ…」

マヤ君にノブ君は更にペニスを激しく膣内に出し入れして、締め付けが凄い膣壁や膣のヒダの快感を味わいながら、二回目、三回目の精子を子宮内に放出した。

マヤ君はオナニーをしているゆきちゃんに

「俺達のレイプシーンを見て興奮しただろう、お前のマンコびしょ

濡れじゃぁないのか?ほら、デレクターさんにキスしろよ、淫乱女！」

ゆきちゃんは自分のマンコをまさぐりながら、デレクターに近づいて、唇に触れた!?

するとデレクターがゆきちゃんの耳元に小さく囁いた!猿ぐつわをされていたが囁いた言葉はゆきちゃんには良く聞き取れた!

ニッコリとデレクターに微笑みでから、ゆきちゃんは、パンティを脱ぎ捨ててから、マヤ君のそばに近づいて行った♪マヤ君に向かい

「私も中にマヤ君の熱い精液をちょうだい♪もう我慢出来ないの♪、ノブ君の熱い精子も欲しいの♪
2人の熱い精子を子宮で受け止めとたいの、君達は仰向けに成って良いよ♪私が上に成るから~代わる代わる入れたいの♪並んで横に成って、おねがい♪」

マヤ君とノブ君はゆきちゃんの言葉を聞いて顔を向き合い無言の了解をして、ペニスを勃起して立てたまま仰向けに成った。

何回も、射精して身体が疲れてきたから、ちょうど良いと2人共に思った。

ゆきちゃんは2人の真ん中に座りこんで2人のペニスを左右の手で触り始めた、初めて触る男の子の勃起しているペニスに少し興奮していた♪

ゆきちゃんが2人の男の子に提案した、

「私が君達とセックスしているあいだ、君達は私の言う事をきいてね…良いよね♪」

マヤ君とノブ君はうなずいた！何かを期待していたから…

ゆきちゃんは、道具箱から手錠を2つ取り出して、マヤ君とノブ君の両手を後ろ手にして拘束した！

私の言う事を聞いてくれてありがとう♪

ゆきちゃんの顔付きが急に変わった！

両手を使って、2人のペニスを触っていた手をキンタマに移動して、思い切り強く握り締めた！

「うわっ～イイたい！」

「ギャ～ッッ！！」

ゆきちゃんは2人のコウガンを握ったまま離さないで、友達のナオちゃんとみゆちゃんに声を掛けた！

何いつまで、寝ているの！逆襲よ！！

男の子2人に虐められたお返しをするから起きなさい！

マヤ君とノブ君はゆきちゃんの声を聞いて顔付きが変わった！

両手が手錠を掛けられて使えない！？更に急所を握られて痛くて、身体に力が入らない！

ヤバイ！！

逆襲2

ゆきちゃんの叫び声を聞いた、ナオちゃんとみゆちゃんはムクッと、アソコを押さえながら腰を床に付いたまま上半身を起こした、お互いに背中を合わせて、後ろ手に縛られているセーラー服のスカーフを手探りでほどいて、ぐしゃぐしゃに成っていたスカーフでオマンコから流れ出している男の子達の精液を拭き取って、マヤ君とノブ君の猿ぐつわとして使った！

「良い気味だね、自分の精子美味しいだろう…」

ナオちゃんは部屋の中を見渡して、ホウキを見つけてきた、マヤ君とノブ君の足をホウキを使い固定した。

ナオちゃんは、「ゆきちゃんにちょっと退いてくれない！」

ナオちゃんはノブ君に近づいて「よくもわ私の中に、汚い精液を流し込んだわね！お返しをさせて貰うわよ、二度と使えないようにしてやるから！！」

ドスンドスン！

「ギャー！ぅわ～ッッちぎれる」

ナオちゃんは、勃起しているマヤ君のペニスを思い切り足で踏んだ！！

ドスンドスンと何回もペニスを踏んずけた！

みゆちゃんもマヤ君のコウガンを右手で握りしめて

「こんなもの潰しちゃへ」

思い切り握り潰した！

「ギャー潰れる！ヤメテくれ！！」

ナオちゃんは、更に道具箱からザバイバルナイフを取り出してきた…

ヤメロ～ッッ！何をするつもりだ！

ナオちゃんはナイフを握りしめて、赤く腫れているマヤ君のペニスにナイフを添えて、

「こんなものが有るからいけないのよ！切り取ってやるから…」

逆襲3

ナオちゃんはナイフをノブ君のペニスの先のカリの尿道唇に宛てて、

「ここから、精子が出て来るのよね♪裂いちゃおうか！」

みゆちゃんも道具箱から、果物ナイフを取り出して、ノブ君のコウガンに刃を向けて

「男の子は此処で精子が作られるのよね！ここを切り取ってちゃへば、もう種を作れなく成るよ！」

ゆきちゃんはマヤ君のコウガンを握りしめていた

「こんなもの潰れちゃえばい良いのよね♪」

思い切り、握った！

「うっぅウッ！」

セーラー服の精液がついたスカーフで猿ぐつわをされている男子達は痛くても声を出せないでいる、唸り声しか出ない！

ナオちゃんはゆきちゃんに

手でなんか握り潰せないよ！こうするのが良いんじゃあないかな！

マヤ君のコウガンを足で踏みつけたり蹴飛ばした！
潰れろ！潰れちまえ！ガッンガッン！！

ギャー！！

声に成らない悲鳴を上げて全身汗だくになり痙攣していたマヤ君に
更に足でコウガンを集中的に蹴り潰しに掛かった…

マヤ君は泡を吹いて、気を失った！

ナオちゃんは、気を失ったマヤ君のペニスを掴んで

「こいつ…気を失ったてもビンビンに勃起してるんだね♪どうする、
これも切り取ってちゃう♪」

「私の恨みを晴らそうかな♪」

みゆちゃんは右手にザバイバルナイフを持って、マヤ君のペニスの
根元に刃先を宛がった！

ナオちゃんはマヤ君のペニスの先の尿道唇にナイフを宛がい尿道唇
に切り込みをいれ始めた…口が開いて血が流れ出した！

なんだ精液の変わりに赤い液体がデデキタよ？

女の子三人はレイプの仕返しに、マヤ君のペニスとコウガンで遊ん
でいる、隣ではノブ君が顔を青くして震えながら、女の子三人を見
ていた…

みゆちゃんはマヤ君の勃起しているペニスの根元にナイフの刃を宛がい少しずつ力を入れた、根元から血が滲み出した！

「もう良いよね♪切り取っちゃうよ、処女膜喪失の仕返しだものね♪」

みゆちゃんは体重を全てザバイバルナイフに掛けて思い切り力を込めた！

マヤ君のペニスは根元から綺麗に切り取られた…

みゆちゃんは切り取ったペニスを掴んだ！？

血が抜けてみるみる小さくなってゆく？

「これって中身は血が入ってたんだね、どうする？潰す？切り刻んでしまう？」

ナオちゃんは

「もう良いよね、これで使い物に成らなく成ったんだから！！」

「そうだね！」

切り取ったペニスをお腹の上に投げた！

みゆちゃんはノブ君の脇に座り勃起している、ペニスに目を向けた！

ノブ君は全身を震わしていた…

ナオちゃんも

ノブ君のキンタマの中を見せてね♪男の子の袋の中がどう成って要るのか見たいな♪ノブ君は私の膣内（中を）を見たんだよね、まだ処女膜が有った時に!?今は君に奪われてもう…無いんだよ…だから、君にも大切なキンタマの中身を見せてね♪

ナオちゃんは履いていたパンティを脱ぎだして、オマンコをノブ君に見せながら…

「もう無くなったんだよ。私の処女膜…」

精液のたっぷり付いたパンティをセーラー服のスカーフを少しずらしてノブ君の口の中に無理やり詰め込んだ!その上からまたスカーフで猿ぐつわをした。

ウッゥゥ〜ッッ!!

うめき声をあげていた…

ゆきちゃんの手にザバイバルナイフが握られて、ノブ君のキンタマにナイフの刃が触れて皮から血が滲み始めた…

潰すからな!いや切り開いて中を見てみましょうよ♪

そうだね！？中を見てみましょう♪

ゆきちゃんはノブ君のキンタマにナイフを入れて切り裂き始めた、
中からは黄色い液体と血液が流れだしてきた…

ノブ君は痛さで気を失った…

「気持ち悪いね！もう片方はどうする？潰しちゃう？」

「オチンチンと一緒に切り取って終うのが良いよね♪そうすれば女の子達は安心だよね」

そうだね！？私達の処女膜を奪った見せしめだね♪

今度はみゆちゃんがザバイバルナイフを勃起したペニスの根元に宛がい、力任せにスッパリと切り取ってしまった、残っていたコウガンも根元からザバイバルナイフで切り取ってしまった、
切り取ったペニスとコウガンをマヤ君の口元に投げつけた！

ノブ君の股間からは赤い血が流れ出していた、そこには何も付いていなかった！女の子の様にスッキリした股間だった…

帰宅へ

マキトは女の子達の仕打ちを一部始終みていて、これでは男の子達の命に関わると判断して、手錠を外して（元から鍵が掛かってないダミー）
女の子達に声を掛けた！

（君達は大丈夫かい？）

「僕も男の子達にスタンガンで気絶させられたんだごめんよ！」

ゆきちゃんマキトの声に反応して

泣きそうな声で話し出した…

「今男子達に仕返ししたからもう大丈夫です、デレクターさんは大丈夫ですか？」

「ごめんなさいね、俺が声を掛けたから、君達はこんな酷い仕打ちを受けてしまって、許して貰えないよな…」

女の子三人は顔を見合わせていた、何も答えがかえって来ない！？

マキトは女の子三人に

「後の事は俺が何とかするから君達はお家に帰りなさい！もし妊娠してたら、俺に連絡してくれ、良いお医者さんを紹介するし、費用も全て俺が足すから…

もし妊娠しても中絶するのが嫌なら、赤ちゃんを生みたいなら費用も俺がだすから、産んだ赤ちゃんは俺が引き取るからな、先ほど渡した名刺に連絡して貰えば直ぐに対処するからな」

ナオちゃんが話し出した…

「デレクターさんありがとう…でもこのままでは帰れません…」

ビリビリに引き裂かれたセーラー服に下着では、家に帰れない…

デレクターは、大丈夫だよ撮影用に白いワンピースが確か有ったはずだから…

「紙袋からワンピースを出して渡した…ごめんよ…下着はないから、これだけでも着て直ぐに帰りなさい、後の事は私が処理するから早く帰るんだ、何か有ったら何時でも私に連絡するんだぞ解ったな！」

女の子三人は急いでワンピースに着替えて、ノーパンのままアジトから出ていった・・・

マキトは羽山と二人で急いで男の子二人と切り取られた、ペニスやコウガンを拾いビニール袋に入れて、車に乗り込み知り合いの病院に直行して、男の子二人乗り込み切り取られたペニスとコウガンの縫合手術をお願いした。

1ヶ月が過ぎてようやく男の子二人は自分のペニスが股間に無事に繋がって、勃起するようになった。生殖能力はまだ不明だった…

女の子三人からは何の連絡も無かった!?妊娠しなかったのか?恥ずかしくて連絡出来ないのかは解らない…

あれだけ中だししたんだから、多分孕んでいるに違いないとマキトは思っている。

更に獲物を求めて

男の子二人を病院に連れて行った翌日の朝には羽山とマキトは新たな獲物を求めて、女子高生達が学校に向かう姿を見詰めていた、可愛らしい処女のセーラー服少女を求めて…

これが羽山とマキトの仕事なんだから！

昨日のレイプシーンは全てＤＶＤやブルーデイデスクに録画してある、ネットショピングでマニアに多額で売り込む為には、毎日新しいセーラー服少女が必要になるから…

羽山とマキトは趣味と仕事を兼ねて今日もセーラー服少女を狙っている、

それも処女膜の付いたセーラー服少女が狙い目だった…マニアに多額でサバク為に…自分達の祝福のために…

「居たぞあの娘なんか良いぞ、髪型がロングでスカートから伸びた脚もスラッとしている、胸もＤカップ以上ある、目がクリッとしつ可愛らしい　あの娘にしょうぜ♪」

羽山はゆっくりとセーラー服少女の脇に車を寄せて止まった！

いつもの用にマキトがドアを開けて外に出てからセーラー服少女に話し掛けて車に乗せた♪

君可愛いね、何年生かな、名前教えてよ、私はテレビのデレクターで羽山と言うんだ！これは名刺だからね

巧みにセーラー服少女を騙して睡眠薬入り飲み物を飲ませてからアジトへと向かって車を走らせた！

終わり

感想お待ちしています、リクエストやアンコールが有りましたら続きをパワーアップして書きます！！

何も感想がなかったり、コメントが無ければ終了しますね。今日が最終日になります！！

応援評価や感想をいた抱ければエネルギッシュにパワーアップして、明日からも書きます！！全ては愛読者様次第です。長らくご愛読ありがとうございました。

ｎｏｎ・ｎｏ

１２月４日

更に獲物を求めて（後書き）

完結です、お便りお待ちしてます。コメント下さいね。アンコールが有れば続きを更にパワーアップして書きますよ！！

エロガッパ！！

ｎｏｎ・ｎｏ

セーラー服少女

羽山とマキトは一人のセーラー服少女を騙して車に乗せた♪

いつもの様にテレビデレクターの名刺を使い、ドラマ出演と言う餌を使いアジトへ向かう！

撮影機材が多く設置してあるアジトにセーラー服少女を連れ込んだ！

羽山は、テレビドラマの出演の為のカメリハだと騙していた！

「君の名前とスリーサイズを教えてよ♪」

「名前は秋野めぐみです、高校一年生です、スリーサイズはわかりません！？」

スリーサイズが解らないのは困るから、此れから調べるけど良いよね～ッッ、ドラマに出演する娘は皆プロフィールに載せているんだからね、君もセーラー服を脱いでスリーサイズをはからせてね」

「そうなんですよね♪芸能人は皆さん自分のプロフィールにサイズを表示しているものね」

「カメリハを兼ねて、此処でセーラー服を脱いでね」
「めぐみちゃん可愛よ可愛いね♪」

めぐみは騙されているとも知らないで、白いセーラー服の赤いスカーフを襟から抜いてから、サイドのファスナーを上げて、セーラー服を捲り上げて、首から頭へ上げて脱いだ！

セーラー服の下には白いスクールキャミソールを着ていた！

ライトに照らされて、キャミソールがキラキラ輝きシルエットが綺麗だ♪

次はひだスカートを脱いでね。

腰のホックを外してファスナーを下げたらスカートが、足を伝い床に落ちた！

落ちたスカートを丁寧にセーラー服と一緒に机の上にたたんで置いた。

カメラの前で全身白いキャミソールに包まれた綺麗なスタイルを披露した。

次はスクールキャミソールを脱いでね♪

正確なサイズを計るためなのかと思いスクールキャミソールの肩紐を肩から腕を通して抜いてから、キャミソールを腰まで下げて、足から脱いだ！

白いブラジャーとお揃いのパンティだけの姿になった。

セーラー服少女を騙して脱がしてゆく事に性的快感と興奮を覚えてしまったら～後へは引けない…

秋野めぐみちゃんもその1人だった…

白いブラジャーとパンティだけの姿にされてしまった

此れからスリーサイズと身長や体重を計るからな♪

羽山とマキトはメジャーを取り出して、めぐみちゃんに両手を頭の上に上げる様に指示をした。

めぐみちゃんが両手を頭の上にあげたら、早速バストから、計測され始めた…アンダーやトップが計られたた、メジャーがブラジャー越しに乳首の上に当たり、ピックと胸が震えた！

更にウエストからヒップを計測して、体重に身長も測った！

羽山はふとめぐみちゃんに訪ねた！

「大事な事を聞くんだけどもめぐみちゃんは処女なのかな?」

めぐみちゃんは恥ずかしながら頷いた!

「はい!処女です」

「それは困ったな?処女の女の子はドラマで使えないんだ!本番中に、絡みのシーンがあるかもしれないから、処女だともし、男優との絡みの時に、痛がったり出血したら困るからね!」

「えっっ~そうなんですか?」

「ドラマに出演したいなら直ぐに処女を捨ててセックスの練習もして、膣内やクリトリスも鍛えて貰わなければ成らないんだけども?めぐみちゃんは彼氏が居るのかな?彼氏にセックスしてもらい、早く処女膜をやぶって、絡みに慣れて貰いたいのだけども。」

「私彼氏がいないの!」

「じゃあ、ドラマや映画は無理だな!」

「でも…他に方法は有るんだけど君に出来るかな?、ドラマ出演の娘達で彼氏のいないの娘は俺が手解きして挙げて要るんだ!俺で良ければ、めぐみちゃんの処女を貰って挙げて、セックスに馴れて貰いたいけど良いかな?」

めぐみちゃんは少し考えてからデレクターに返事をした。
「よろしくお願いします♪」

羽山はホントに純粋なセーラー服少女はドラマや映画と言ったマスコミ関係や芸能人には弱いな、一言で直ぐに信じて簡単に身体を捧げるんだから♪

めぐみはデレクターの羽山と交わりを求めた！

羽山は下着姿のめぐみをベッドに抱えて運んだ！勿論撮影機材も添えて！セックスシーンも撮影する。

羽山は優しくブラジャーを肩から脱がしてゆく♪白い素肌が露に発達した女子高生の２つの乳房がめに留まった！ピンクの汚れを知らない蕾がピント勃起して上を向いていた、彼女はもうセックスをする、処女を捧げると思っているだけで興奮しているんだ…羽山は思った。

ブラジャーを脱がしてから下半身に手を移動して、お揃いのパンティを腰から膝にさらに足から抜き取った。

恥丘には陰毛が生えて、彼女の陰部を隠していた、足は細くスラッとして、身体全体に日焼けの跡もなく、純粋な汚れを知らないセーラー服女子高生その者だった…

全裸になり、羽山に抱かれて、初めてを奪われてしまう瞬間が訪れる！！ペニスが膣唇に宛がわれた、羽山はめぐみの唇に触れてキスをしながら両手で２つ乳房を優しく揉みながら、乳首を摘まんで刺激を与えた！

乳首を摘まんだ瞬間めぐみちゃんの肩から腰に掛けてピクンと痙攣

した、その瞬間に羽山はペニスをめぐみちゃんの膣内に挿入した。

初めてを奪われた瞬間めぐみちゃんは

痛い！！イタイ～ッッ！

叫び声を挙げて処女膜を破かれた…羽山はペニスを子宮口にぶつけてめぐみちゃんにささやいた！

「めぐみちゃん処女卒業おめでとう♪」

「ありがとうございました」

まだ君の膣壁には処女膜が残っているからまだ続けるからね♪

「はい、お願いします♪」

羽山はめぐみちゃんの子宮口にむかい熱い精液をたっぷりと放出した。めぐみちゃんは子宮内にデレクターの熱い精液が流れ込んでくるのを嬉しく感じている。

めぐみちゃんは羽山に純潔を奪われてしまった…

騙されているとは知らずに何回も膣内射精されて、めぐみちゃんの子宮内には羽山の精液がたっぷりと注がれた！

羽山は次の試みをして貰うからマキトと交代するからな♪とめぐみに告げてマキトと交代した。

マキトがめぐみちゃんに近づいて、セーラー服とスカートを履くように言った！パンティは履かないでノーパンのままで、ベッドに仰向けに寝るように指示した。

めぐみちゃんは言われた通りにセーラー服を着てスカートを履いた状態でベッドに仰向けに寝転んだ。

マキトはハンディドールとミニピンクバイブを手に持ってめぐみちゃんに説明した！

此れから、「このハンディドールで君の膣内をシゴイテ潮吹きをして貰うからね、なるべく声を出さない訓練をするから、我慢出来るだけ頑張って下さいね。」

「何の訓練何でしょうか？」

「これは寝ている、又は眠らされた状態で、男性もしくわ女優さんとのまじまり体験なんだ、本番では催眠薬を使う訳には、いかないから女優さん達は、眠ったふりをしながら、交わりをするためにの我慢の訓練になるからね、この２つの道具は、めぐみちゃんに与えるから、毎日自宅に帰ってから部屋の中でも練習するんだよ♪」

「解りましたお願いします♪」

「では、足を開いてね！なるべく声を出さない様に我慢するんだよ♪」

マキトは、スカートを捲り、めぐみちゃんの膣内にハンディドールを挿入した、まだ処女膜を無くしたばかりの膣壁はきつく、ハンディドールの浸入を拒んで要るみたいだ…

ミニバイブを皮の被ったクリトリスの先端に充てたら、ピックっと、下半身を振るわした！

うっっ～ッッ…

うめき声を上げるめぐみちゃん。

「我慢しなさい！！」

「はい…」

マキトはゴム製の柔らかいハンディドールをめぐみちゃんの膣内で激しくシゴイテいると、子宮口からは愛液が止まらなく流れ出して、ハンディドールにまとわりついて、膣唇からもれだした…更にクリトリスも刺激を与えてやる、腰をピクピクと痙攣させながが、ついに大量の潮吹きを始めた…

初めて絶好調を迎えて、全身を振るわせていた。

マキトは、ハアハアと肩で息をしているめぐみちゃんに

「君には男の兄弟は居るのかな？」

「はい弟がいます。」

では毎日、弟さんに見られながらこの訓練をしなさい、恥ずかしさに慣れる為の訓練だからね、知らない人より姉弟だからまだ、良いだろう♪

最後にマキトはめぐみちゃん膣内に自分の勃起したペニスを挿入して、子宮内にたっぷりと精液を放出した、女優になる為の練習だと嘘をついて何回もセーラー服女子高生を犯して、子宮内にたっぷり

と熱い精液を出した！

くたくたのめぐみちゃんに、ハンディドールとミニバイブを渡して、マキトは、来週また来て貰うまでは、パンティを履くのを禁止するからね！

恥ずかしさに慣れて貰うまでは、学校へもノーパンで通学しなさい、一週間だけ耐えて貰いますよ、無理なら来週は来なくて良いから女優に成る事は諦めなさい…

「解りました、頑張ります。」

「では、来週お待ちしていますね、弟さんにも協力して貰いなさい！」

めぐみちゃんは、子宮内に羽山とマキトの精液を含んだまま、ノーパン、ノーブラで帰宅させた。

羽山とマキトは微笑みを浮かべながら、バカなめぐみちゃんだな！と呟いた！

アイドル志願（後書き）

全て終了です。

観覧ありがとうございました。

リクエストや感想お待ちしています。

コメントがありましたらよろしくお願いいたします。

また続きが読みたいと言う感想を頂いたら、番外編を書きます！！

女の子にペニスを切り取られたノブの逆襲という形で、みゆちゃんの姉妹に仕返しをして、姉妹の子宮内に射精したり、生殖器に悪戯して、みゆちゃんの妹の乳首やクリトリスをいたぶり、みゆちゃんの一番感じる部分を切り取られる恐怖を与える予定です、皆様からの感想や続きが読みたいと言うコメントが無ければ、書きません！

これにて終了になります、ご愛読ありがとうございました。

ｎｏｎ・ｎｏ

番外編（前書き）

お気に入り登録ありがとうございます！！要望通り番外編を書きます！！

マヤ君とノブ君は女の子三人に復讐します、お楽しみに！！

番外編

女の子にペニスを切り取られたマヤ君は、羽山さんに病院へ運ばれて、なんとか縫合手術に成功して退院出来た！

ノブ君はコウガンも切り取られたために生殖能力が落ちたがペニスは何とか縫合手術に成功した、前よりは大きく勃起しなくなり、それがショックで悲しかった！

二人は、怨みを晴らすために、自分達で女の子を探しだしていた。

季節は冬を過ぎて、ノブ君とマヤ君は高校生に成った！

女の子三人は、中等部三年生の筈だ、セーラー服を頼りに、学校が終わった後で、女の子達の学校近くで、下校中のセーラー服少女を探しだして跡をつけて、家を探しだしていた。

そして遂に三人の内みゆちゃんの自宅を突き止めた！

みゆちゃんには一つ年下の妹が居るのも解った。

ノブとマヤは、みゆちゃんの自宅に侵入して、ペニスを切り取られた怨みを晴らす事にした！

ついでに妹も頂く事にした！処女なら尚更犯し概がある！！

みゆちゃんの女性生殖器もめちゃくちゃにしてやろう～クリトリスや小陰唇も切り取ってしまうつもりで計画を進めた！

家族が居ない時を狙って、まだ四月の始業式が済んだばかりで、午前中に帰宅した頃合いを狙って計画は進行していた。

それは、今日これからだから…いま彼女は妹と一緒に家の中に入って行った、家族は他に誰も居ない、睡眠スプレーとスタンガンをポケットに入れて、宅配便を装い、玄関の前に着いた！

侵入

ノブは玄関でドアホンで「宅配便です、お荷物のお届けです」と告げて、出てくるのを待った、勿論小包を偽装して手に持っていた。

「中からはーい～今行きます！」

と女の子の声が聞こえてきた、ノブはドキドキしながら玄関のドアが開くのを待っている。

トコトコと足音が近づいて来て、ドアの鍵が外されてノブが回された、カチッとドアが少し開いた！

ノブ君は、小包を見せて、「印鑑お願いいたします！！」と告げる

ドアの隙間から、小包を確認した女の子はドアを開けてノブ君を玄関に入れてくれた～

玄関にはセーラー服を着た女の子がいた、みゆちゃんに良く似ている、多分妹だろうと確信した。可愛い娘だった、犯し害がありそうだ♪

「今から、印鑑を持ってきますから少しお待ち下さいね」

とノブ君に言って、後ろ向きになり、家の中に向かった所で、ノブ

君はセーラー服姿の女の子の腕を掴んで、口を右手でふさいだ！

「何するんですか？」

「決まって要るだろう、お前達姉妹を犯しに来たんだよ、タップリ可愛がってやるから、楽しみにしていろ」

ノブ君は女の子の腕にスタンガンを宛てた！

一瞬ビッビッと光、女の子は「アッ…」

と小さな声を出して気を喪い、ノブ君に倒れ掛かった！

ノブ君は女の子を抱き起こして、セーラー服少女の唇を奪った！

更に胸を触り乳房の感触を確かめてから、家の中に入って行った…

仕返し

ノブ君はセーラー服少女をリビングに横に寝せてから唇を奪いながら、セーラー服の裾を捲り、手を中にいれて、スクールキャミソール越しに乳房を触っていた。

マヤ君は

みゆちゃんの部屋を探しに二階に向かって行くと、階段を上がったら、右側の部屋にみゆの部屋と可愛らしプレートが掲げてあった！

ドアをトントン♪とノックした！

中から「知恵～空いてるよ！」

と声がした、妹だと思っていたのだろう～

ドアを開けて、中に入った～みゆちゃんはセーラー服姿のままベッドで横になり、携帯電話を見ていた！

マヤ君はみゆちゃん

「お久しぶりだね、俺達の熱い精子をタップリ子宮で受け入れたのに妊娠しなかったのかい？、あの時は俺達の大切な物を切り取られて痛かったぜ、今日はタップリとお返しするからな」

「貴方は…あのときの男子？」

マヤ君はセーラー服少女みゆちゃんのお腹の上に股がって羽交い締めにして、両手をベッドの左右端に手錠で拘束した。

更に用意した滑車をドライバーで2つ天井に固定して、滑車にロープを通して、両足をV字に開いた、足首を縛り、天井から垂らしたロープに結んで引っ張った！

「何するんですか？」

「逆さずりだよ♪」

みゆちゃんは、仰向けのまま腰が浮かされて、足がV字のまま吊るされた！

スカートが捲れて白いパンティが丸見えになっていた。

マヤは一階に居るノブ君に声を掛けた！

「お～い！連れて来てくれ！」

下から声がした！

「今からつれてゆくぜ！！！・・フフ～」

姉妹屈辱

ノブ君はセーラー服少女を抱えて二階に向かい、空いてたドアからみゆちゃんの部屋に入った～

みゆちゃんは、ノブ君の腕に抱かれた、妹の知恵ちゃんを見ていた…

「妹には手を出さないで下さい…お願いいたします…」

しかしノブ君は、妹を床に下ろして、仰向けにした♪

ヤるぞ！

ノブ君とマヤ君は同時に、姉妹のお腹の上に股がってセーラー服の胸宛に手を掛けて、引き下げ破り捨てた…みゆちゃんのセーラー服は左右に引き裂かれた…

妹の白いセーラー服も胸元から、お腹に掛けて、左右に引き裂かれた…

更に次だ♪

今度は、ヒダスカートのホックを外して、引き裂いた！

ゆっくりと脱がさないで、思い切り引き裂かれたのだ！

「イャ～ッッ！」

部屋の中にみゆちゃんの悲鳴が轟いた！

姉妹は白いスクールキャミソール姿に成った！

そのスクールキャミソールも真ん中から引き裂かれて姉妹は白いブラジャーとパンティだけの下着姿にされた…

みゆちゃんは泣き叫び、妹だけは助けてと、お願いしたが…

みゆのお願いは全く無視されて、姉妹の下着はむしり取られた！

姉のみゆちゃんは逆さに吊るされた姿で全裸にされて、女性生殖器が露になっている、

妹の知恵ちゃんも全裸にされて、ノブ君に唇を犯されていた、無理やり口内に舌を入れられていた、乳房を右手で揉まれながら、左手では、下半身の秘部をまさぐり初めていた。

姉の目の前で妹の処女膜検査を始めていた！

大陰唇を両手で開いた！！

全てがピンク色をしたビラビラのヒダをゆっくりと左右に開いたら、光に照らされた小さな突起物に小さな尿道唇に閉じている膣唇が露に成って見えてきた♪

綺麗なオマンコだ!!

思わず見とれてしまった♪
膣唇に舌を這わせてシャブリ、膣内に舌を入れてみた!膣壁に舌が当たる度に、ピクピクと腰が震えていた!

膣内が舌で十分に濡れた所で指先を膣内にゆっくりと入れてみた!そして広げて膣内を見ると、少し奥の膣壁にピンクのヒダがびっしりと張り付いたのが見えてきた♪

妹の処女膜を確認出来た!
後はこの妹を目覚めさせる事にした!

破れたセーラー服だけの姿に性欲が注がれる、犯すのは目覚めてからだ…と自分に言い聞かせながら、妹の乳房や乳首に茂みと割れ目に目がいってしまうのを我慢して、妹の頬を叩いて、目覚めさせていた…

妹は少しずつ意識を回復していた！

（うっ～っっ…）

更に頬をつねったり叩いて眼を覚ませた！イタ～イっっ…

寝ぼけている妹の唇を奪う！！

無理やり口の中に舌を入れて絡ませたり、妹の舌を吸ってみた♪

「うっっ…誰なの…？」

「気が付いたみたいだね！」

知恵ちゃんは目の前の男をぼんやりと見つめた！？

宅配便のお兄さん？

何で？何で？

「イャ～っっ…誰何ですか？」

知らない男にキスをされた事に驚いた…

「騒ぐな、静かにしないか！自分の置かれている状況を見てみるん

だな！」

知恵ちゃんは、自分の状況を見つめた！？

着ていたセーラー服が破かれている、キャミソールも破かれていた？

スカートも履いていない！？

ブラジャーも着けていない、白い素肌に乳房が丸見えに成っていた？

下もパンティが無い！？

破れたセーラー服が背中と両腕にあるだけで全裸だった…

イャ～ッッ…！！

思わず両手で乳房と股間に手を添えて隠した！

ノブ君は知恵ちゃんに

「君のお姉ちゃんもベッドの上に居るんだけども、見たのかな？」

知恵ちゃんは自分の身に付けたセーラー服や下着を破かれたショックで泣いて震えていたいた、傍に姉が居たことに気が廻らなかった！

ノブに言われて初めて、知恵ちゃんは今お姉ちゃんの部屋に居るん

だと知った!?

そのお姉ちゃんは、ベッドの上で、自分と同じようにセーラー服を破かれて、下着を着けていない、全裸だった…両手はベッドに縛られて、両足は開かれて、天井から吊るされていたのを見てから・・

「お姉ちゃん〜ッッ!!」
お姉ちゃん〜ッッ!!

絶叫して、お姉ちゃんに叫んだ!

「知恵〜っっ…」
姉も妹を呼んだ!

此れから姉妹を屈辱のどん底に落とすことになる…

ノブ君は妹の唇を奪い、唇を離したら…

知恵ちゃんがまた叫んだ！

「貴方達は何がしたいのよ…私達に怨みでもあるの？」

マヤ君は妹に囁いた！

「訳はお姉ちゃんに聞いてみたら解るから…」

「お姉ちゃん～ッッどうして～どうしてこんな酷い事されるの…」

「知恵ちゃん…ごめん…」

お姉ちゃんはそれ以上言わなかった！！

知恵ちゃんに股がっている、ノブ君は、知恵ちゃんの白いまだ発達途中の２つの乳房とピンクの蕾を口に含んでなめ回したり、乳首を歯で摘まんで刺激を与えなから、足を開いていった…

「イャ～ッッどうして～ッッヤメテ～ッッヤメテ～ッッ！！」

「知恵ちゃんの処女膜を貰うからね」

イャ～ッッヤメテ～ッッそれだけはイャ～ッッ！！

マヤ君はベッドに逆さづりにした姉の口にセーラー服のスカーフを押し込んだ

更にピンクのクリスマスを指で摘まんで皮を剥いて先を露出させて、口に含んで歯でコリコリと噛んで刺激を与えた！

「うっっ…」

うめき声を挙げながら、腰をクネクネさせている…

マヤ君は姉にそろそれ妹の処女膜が奪われるから、見るんだ！

と囁いて、乳房から唇を離して、マヤも妹に視線を向けた！

妹が犯されたら、次はみゆちゃん君の番だからな、今日は女の子の最高の快感を与えてやるから！！

女の子として最後の快感を与えた後は悲惨な目に遭うことをまだ知らせない！

復讐（後書き）

次は２０時頃に公開します。お楽しみに、感想やお気に入りよろしくお願いいたします。

復讐2

マヤは姉の股間でクリトリスを指でツマミながら、妹の処女膜喪失の瞬間を見つめていた！

ノブは妹の足を開いて、皮の被ったクリトリスに口を付けてシャブリ、歯でつまみ引っ張った！

ピクピクと腰をふれわせて叫び出す！！

イャ～ッッヤメテ～ッッアタマが！オカシクなるょ～ッッアタマが、イィ～ッッあぁ～ッッヤメテ～ッッあぁ…

舌を膣唇に宛ててからゆっくりと膣内にに入れた！

イャ～ッッヤメテー！！

舌を膣内から抜いて、唇に持ってゆき、キスをして黙らせる。

クチャクチャ…クチュククチュクと舌を絡ませていると、妹の息が荒くなり、ハアハアと興奮した息ズカイを始めた！

今だと、ペニスを知恵ちゃんの膣唇に宛ててから、一気に膣壁を掻き分けて中に押し込んだ！

知恵ちゃんは、いきなり胎内にペニスを挿入された痛みに更に叫んだ！

イタイーッッ！！　イタイョ～ョョッッヤメテー！

イタイョ～ッッ！

ノブはペニスを更に膣内に押し込んだ、処女の膣内はキツイ、ペニスを膣壁のヒダが締め付ける！！

処女膜にペニスが触れてヒダを引き延ばしながら、ゆっくりと引き裂いた！

イタイーッッ！！

ひときは大きな声で叫んだ！処女膜喪失の瞬間だった…

処女膜を突き破りペニスは子宮唇に突き当たる！！

ノブは処女の膣壁を子宮唇に向かい激しくシゴク様に出し入れを繰り返してゆく

イャ～ッッ…ヤメテ～ッッ…イタイョ～ョョッッ…イタイョ～

膣唇からは、処女膜喪失の鮮血と愛液がにじみ出していた…

ノブは破かれたセーラー服を掴んで処女の膣内に激しくピストンを繰り返して、子宮唇に向かい熱い精液をドクドクと放出しはじめた

出たぞ！たっぷりと知恵ちゃんの子宮唇に向けて出したからな！解るかだろう～まだまだ射精が止まらない！

「イャ～ョョッッ…ヤメテ～ッッ…お姉ちゃんタスケ～ッッ今はアブナイインダよ～中に出さないで…お姉ちゃんタスケ～できちゃうょ～ナオさん見たいに成っちゃうよ…お姉ちゃんタスケ～ッッヤメテ～ッッヤメテ～できちゃうょ～」

お姉ちゃんはセーラー服のスカーフを口の中に押し込んだままで、声を出せない…

妹を見つめて、身体を振るわしながら泣くしか出来なかった。

復讐2（後書き）

まだまだ姉妹レイプは終わりません！
次はお姉ちゃんのシーンに成ります。

感想やお便りお待ちしています。

沢山のお気に入りありがとうございます。

次は２１時頃に更新します。

ノブ君は妹の知恵ちゃんの子宮唇に向かい激しくピストン運動を繰り返している、一回出したダケではペニスの勃起は治まらない、激しく知恵ちゃんの処女の膣壁をシゴク様に出し入れを繰り返してピストン運動をして、知恵にささやく！！

俺の熱い精液を子宮唇でゴクゴクと呑み込むんだ！お尻に力を入れて子宮唇から呑み込むんだ！

ピシャッ！お尻を叩いた！

「イャ～ッッョョヤメテ～ッッ今はアブナイインダよ～ッッ今はヤバイんだから～中を汚さないで…孕みたくナイョ～ッッ！ナオさんみたいにお腹が大きく成っちゃうよ…赤ちゃん出来ちゃうよ…」

さっきから気になる？ナオさんみたいになる？とは、前に姉と一緒に強姦した女の子3人の内の1人何だろうか？妊娠中なのか？中絶しなかったのか？マジで産むつもりなのかな？

と思った。

更に激しく妹の子宮にむかい三回射精した。

ベッドの上では、足を上に向けて逆さまに吊るされている、姉の傍

でマヤ君は姉のクリトリスや乳房を摘まんだり揉んだりしながら、妹の強姦している姿をみていた、姉も口にセーラー服のスカーフをねじ込まれているために声を出せないで、涙を流しながらじっと妹を見つめていた。

ノブは妹に熱い精液を子宮にたっぷり出してやったからな、ちゃんと孕むんだぞとささやく！！

「イャ～ッッョョヤメテ～ッッお姉ちゃんタスケ～ッッお姉ちゃん～ッッアタマが！オカシクなるよ～！」

ノブ君はようやく精液をだしつくして、ペニスを妹の膣唇から抜いた！

「お願い、お風呂場に行かせて～ッッ今はヤバイんだから～中を洗い流させて～ッッ！」

妹の膣唇から処女膜喪失の鮮血に混じり愛液やノブの精子が流れ出してきた…

ノブはそれをみて、バッグからハンディドールを取り出して、妹の膣内に挿入した！

「イャ～ッッ！モウヤメテ～ッッ！お願いします！！お風呂場に行かせて～ッッ中を洗い流したいの～綺麗にしたいょ～ッッ！」

「ダメだよ精液を出すなんてもったいない！！孕むんだから…」

「イャ～ッッ！お姉ちゃん～孕みタクナイよ…タスケ～ッッ！」

「うるさい！！静かにしないか！」

ロープを取り出して、妹の白い乳房の上と下をを締め付けて乳房を浮き出るようにして、破かれたセーラー服の上から両手を後ろに回して縛り上げた！

足はM字に開いて、足首と大腿部を紐で結んだ！

妹の下半身の生殖器が丸見えになっている♪

乳首は勃起して大きくなり上をむいていた…

「イャ～ッッ縄をほどいてよ～！お風呂に入りたいの～」

ノブ君は妹の綺麗な生殖器を見つめて、ピンクの皮を剥いてクリトリスの根元に糸を巻いて縛り上げた！

イタイョ～ッッ！

その糸を二つに分けて、乳首に結んだ！

イタイョ～ッッヤメテ～ッッ　　！！

妹は痛さと恥ずかしさで上半身を屈めて込んだ！

セーラー服が破られて、乳房がロープでしばられ足は開いて生殖器がまるみえ、クリトリスが糸で乳首と繋がった姿をお姉ちゃんに向けて見せていた。

膣内にはゴムのティードールがねじ込まれていた。

妹の羞恥（後書き）

次はお姉ちゃんの屈辱です、感想やお気に入りありがとうございます。

まだまだ感想お待ちしています。

仕打ち

妹の知恵ちゃんは子宮内に精子をたっぷり出されて、ティードールで膣唇に栓をされた状態で、姉を見つめていた…クリトリスと乳首を繋いだ糸が無惨に見えていた。

ノブ君はその妹を自分の股に抱えて、後ろから抱き締めながら、乳首を愛撫するように揉んだりしながら、膣内に挿入されている、ティードールをシゴイテいる。

あっ～ッッヤメテ～ッッ！オカシクナッチャウょ～！！

「お風呂場に行かせて～ッッヤメテ～孕みタクナイよ…タスケ～早く中を洗い流したいの～中を洗い流させて～ッッ！」

マヤ君はいよいよ姉をダーゲットにした！

妹の強姦は終わった！仕返しの時間がきたと…

殆ど全裸で、肩にセーラー服が掛かって要るだけのみゆちゃんを犯す！！

逆さまに吊るされて、女性生殖器が丸見えに成っているみゆちゃん！！

唇を奪い、乳房にシャブリついて、乳首を唇と両手で弄んだ！

後はオマンコを思い切りいたぶるだけ・・

女の子としての最後の快感を与えて挙げよう♪

皮の被ったクリトリスに唇づくして、舌で転がす用に口の中でしゃぶり、歯で噛んだりした、そのたびにピクピクと腰をふり反応した。

良くこの前は、俺の大切なペニスとコウガンを切り取ってくれたな！

たっぷりとお礼をさせて貰うからな、女の子としての最高の快感と絶頂期を味合わせてやるよ♪

楽しみに潮吹きながら逝くんだ♪

唇でクリトリスを愛撫しながら、人差し指を膣唇に触れて膣内に入れて、膣壁やヒダを掻き回す、指を二本に増やして膣内の壁やヒダを激しく荒らした！

更にきつい膣内に三本指を入れてかき回した！

ウッッ～ッッ！

口の中にはセーラー服のスカーフが押し込んだままなので声はうめき声しか出せない…

「ヤメテ～ッッ！お姉ちゃんをイジメないで～ッッ！」

妹もお姉ちゃんをイジメないように悲願している！！

しかし姉に対して、復讐はまだまだ始まったばかりだった！

復讐

ノブ君はみゆちゃんの携帯電話を使い、復讐相手のゆきちゃんとナオちゃんに、メールをした、大切な用が有るから、私の家に直ぐに来てね！と打ち込んだ。

みゆちゃんに対する屈辱は此れからが本番になる…

妹の目の前であらゆる恥ずかしさを味遇わせる！

今は、バイブレータを使い、膣内に入れて犯している、更にピンクの突起の皮を剥いて先にもローターを押し宛てている、膣内とクリトリスをバイブレータとローターで同時に責めたててから、アナル用の細い長さ２０センチぐらいのゴム状の棒をお尻の穴に差し込んだ！

みゆちゃんは、お尻をピクピクと痙攣しながら、快感と屈辱に耐えていた！

妹にも、セーラー服のスカーフで口に猿ぐつわをして、ギャーギャー騒がないようにした…

ノブ君は妹を後ろから、抱き締めて、乳房やオマンコを犯しながら、姉のみゆちゃんを見つめていた…

二人の女の子が家に来るまで…楽しみにして待っている、みゆちゃんの淫らな姿を見ながら♪

マヤ君は、みゆちゃんの乳首にもローターを二個着けてセロハンテープで固定した！

これで五点責めに成った。破られたセーラー服がプルプルと震えている！！

スカーフを口の中に詰められ、うめき声を出しながら絶頂期を迎えた見たいで、全身をピクピクと痙攣しながら、ぐったりと成った…

マヤ君は、更にバイブレータの振動を上げて、みゆちゃんの膣内を犯して続けた、女の子としての最高の、そして最後に成るかもしれない絶頂を何回も与えてやるよ♪と言いながら…責め続けていた。

屈辱2

マヤ君は乳首やアナルに続けて尿道口までも責める事にした、小さな尿道口にもゴム管を差し込んで膀胱の中にまで入れると、ゴム管の先から黄色の液体が、放出され始めた…

みゆちゃんの放尿ショーが始まった♪

顔を赤くして、耐えていた！

ゴム管から放尿が終わると、マヤ君はゴム管の先を口に加えて、息を吹き込んだ！するとみゆちゃんの膀胱が膨らんでお腹が大きく妊婦さんみたいに成った！

面白いので息を思い切り膀胱に吹き込んで大きくしてから、ゴム管の先を固定した！此でお腹が大きなままに成る。俺の精子で孕んだみたいだった♪

滑車を三個天井に取り付けて、糸を通して、お仕置きの準備をした、

膣内とアナルのバイブレータは、セロハンテープで固定して胎内を責め続けている、みゆちゃんは、何回も絶頂期を迎えて、目が虚ろに成っていた。

イクタビに全身を痙攣させて震えている！！

マヤ君は、みゆちゃんのクリトリスの根元に妹と同じように、糸を結んで、天井の滑車を通して、妹のクリトリスの糸に結んだ、みゆちゃんのクリトリスと妹のクリトリスが糸を通して繋がった！

二つの乳首も同じように、滑車を通して繋がった！

この状態でゆっくりとみゆちゃんの足のロープを緩めた！

体重が乳首とクリトリスの糸にかかり初めて、姉と妹の乳首とクリトリスが引っ張りあい、延び始めた！

イタイョ～ッッ！ヤメテ～ッッ！！

妹が猿ぐつわ越しに叫び出した！

復讐開始

マヤ君は最後の仕上げに、お姉ちゃんの膣内からバイブレータを抜いて、勃起しているペニスを膣内に挿入した、２人分の体重が糸にかかり、姉のクリトリスは、小指の先ほどの大きさと長さになり、ピンクから赤黒く代わり始めた！

妹は、痛くて泣き叫ぶ！！

「お姉ちゃん～イタイョ～ッッ！！千切れチャウ～ッッ！もうヤメテ～ッッ！千切れチャウ～ッッ！」

ノブ君は、マヤに「妹が泣き叫んで要るから、早くお姉ちゃんの子宮内にたっぷりお前の精子を流し込んでしまえ…そしたら…好きにすれば良いだろう♪」

ノブ君は、妹のクリトリスに繋がった糸を右手で摘まんで、引っ張った！妹の為に痛さを和らげで上げた、しかし姉の痛さは増す！！

「うっぎゃ～っっ！！」

姉の叫び声が部屋中に響き渡る！！

マヤ君はみゆちゃんの子宮唇にペニスを激しくぶつけて、大量の精子を放出して、子宮内を精子で一杯にした！

「たっぷりお前の子宮内に出したからな、気持ち良かっだろう、最後のかいかんだから、ゆっくりと味わうんだ！」

イャーッッ！お姉ちゃんも妊娠しちゃうよ～ッッ！お姉ちゃん～お風呂場に連れて行ってよ…お願いします…お姉ちゃんの膣内をまた綺麗に洗い流させて～ッッ！妊娠しちゃうよ～早くお姉ちゃんをお風呂に連れて行ってよ…お姉ちゃんの中を洗い流させて～早くお願いします・・・」

マヤは妹にささやいた！

「大丈夫だよ、お姉ちゃんは二度と孕む事が無くなるから心配要らないよ、お姉ちゃんの代わりに君が貼らんであげなよ…お姉ちゃんの分まで赤ちゃんを作りな♪」

（エェッ～？ホントにお姉ちゃん…妊娠しないの…お姉ちゃん中に出されたのに？）

マヤ君は姉の膣内からペニスを抜いて、代わりにバイブレータを差し込んで強にしてスイッチを入れた！

ブッウ～ンと音が響いて膣内が振動する、愛液が溢れて流れ出す…

腰がふるえながらクリトリスを刺激して、糸を引っ張った！

妹は痛さで叫び出した！

お姉ちゃん…イタイヨ～ッッ！

マヤ君は大きなハサミを取り出して、ノブ君に渡した！

そろそろ終わりが近づいた！

ハサミをゆっくりとクリトリスに近づけた、復讐の最終段階が訪れる！！

復讐終了

ノブ君はハサミを右手に持ってみゆちゃんの女の子としての最高に感じる突起物にハサミを宛てた！

もうすぐに、みゆちゃんの女の子としての一番敏感に快楽を得る突起物を切り取ってやるからな…

一生感じる事が出来なくなるよ♪

もうすぐに女の子としての機能が喪われ用としていた…

ウッッ～ッッ！

うめき声しかあげられないみゆちゃん…

ノブ君はハサミをクリトリスの元に宛てながらカウントダウンを始めた…

あと１０秒で君のクリトリスは切り取られるからな…

１０＃９＃８＃７＃・・・

６＃５＃４＃３＃・・

うっぅ〜ッッ！

2　1　0

ノブ君はクリトリスを挟んだハサミを思い切り握り締めた！

チョキチョキっっ〜ッッ！

ハサミの先から赤い突起物が転がり落ちた！

ギェ〜ッッ…！！

ノブ君は転がり落ちた突起物を右手で掴み口の中に入れて飲み込んだ♪

此で縫合手術は出来ない！一生感じる事が出来なくなる・・・

大きなうめき声が部屋中にこだました！

突起物の有った部位から鮮血が滴り落ちた…

女の子としての一番敏感に感じるクリトリスが切り取られた瞬間だ

った！

終焉

クリトリスを切り取ったマヤ君は今度は直径五センチぐらいで長さが２５センチの筒状の器具を取り出した！
中には四個の外側を向いた、釣り針状の金具が仕込まれている。

外側の筒をゆっくり回しながら外すと内側に仕込まれた釣り針状の金具が拡がり、針の先が食い込んで抜けなくなり、筒を引っ張ったら、そのまま針の食い込んだモノが引きずり出されるという、凄い物である！！

この器具ををみゆちゃんの膣内に入れて、更に膣の奥に有る子宮唇から子宮内に挿入してから、外側の筒を回してしまう・・・

すると内側に仕込まれている釣り針状の金具がガッチリと子宮内壁に食い込んで抜けなくなる！

筒の取っ手を思い切り引っ張り、子宮ごと膣から引き抜く事にした！

思い切り引き抜くと子宮だけでなく、卵管や卵巣まで一緒に引きずり出される！！

筒の先には卵形の蓋が付いていて、子宮唇の先までスムーズに挿入出来る仕掛けにした、子宮唇を通過して子宮内に挿入したら、蓋が外れる用にしてある。

みゆちゃんの目の前に筒を出して説明した。

みゆちゃんは震えて声も出ない！

妹も眼を伏せていた、お姉ちゃんのクリトリスが切り取られた恐怖がまだ納まっていない…

終焉2

マヤ君は筒をみゆの膣唇を拡げて膣内にゆっくりと挿入した、子宮破壊のカウントダウンが始まったよ…

みゆちゃんは恐怖の為に気を喪ってしまった。

筒が膣壁を掻き分けて、子宮唇に触れた…

更に子宮唇を掻き分けて子宮内に挿入されて、筒先の卵形の蓋が外されて、ゆっくりと外枠をねじり初めてから、中の釣り針状の金具が外枠から出る寸前で、放置した。

続きは、みゆちゃんの仲間2人が部屋に着いてから、始めよう…と思い、子宮内に挿入したままでしばらく休憩することにした。

2人が来るまでは、妹の知恵ちゃんをマヤ君とノブは弄ぶことにした。

姉の乳首と繋がった糸を外して、膣内に入っているバイブレータを抜いた!

尿道唇に挿入した管はそのままにしてある、膀胱にはまだ空気がパ

ンパンに入り、妊娠したみたいに下腹部が孕んでいる。

アナルにもロータリーが挿入されて、震えていた。

ノブは妹の口のセーラー服のスカーフの猿ぐつわを外した！

「イャーッッ！お姉ちゃんを助けて下さい…お姉ちゃんのクリトリスを切り取ったからもうこれ以上苛めないで下さい…」

「もう十分でしょう…」

「痛そうでしょう…子宮から抜いて下さい…」

妹の知恵ちゃんは猿ぐつわを外されて、一気にお姉ちゃんの慈悲を2人にお願いした！

ノブとマヤ君は、傷だらけの自分達のペニスとコウガンを妹に見せた！

姉と仲間の女の子2人に切り取られ、潰され、切り開かれた、ペニスとコウガンを妹の目の前に曝して…

だから3人に復讐するのだと妹に告げた！

妹の知恵ちゃんは2人の話を聞き、目の前のペニスやコウガンを見

て涙を流しながら震えだした…

私の慈悲を聞いてくれそうもない…と・・お姉ちゃん達もこの男子2人に酷い仕打ちをしてしまったんだ…

お姉ちゃん達も悪いことをしたんだ…

仕返しされてもしょうがないのかな…と悲しく思った。

終焉3

玄関にお姉ちゃんのクラスメイト2人が来るまでは、妹の胎内に射精して、時間を過ごした、ノブとマヤは代わるがわる、何回も妹を犯しつづけた！

妹の知恵ちゃんは、グッタリとして、虚ろに成っていた、初めて処女膜を奪われて、熱い精液を子宮内にたっぷりと代わる代わる出されたので、頭が可笑しく成るくらいに、イカサレテ～身体中が疲れと、快感で麻痺していた。

しばらくすると、玄関に姉のクラスメイト2人が来て、呼び鈴を鳴らした♪

ノブとマヤ君は、やっと復讐が終わる事が出来るとささやいた！

マヤ君は、疲れ切って虚ろに成っている、妹に命令した、破かれて左右に引き裂かれたままのセーラー服をきて、乳房やオマンコを露出したまま、玄関に姉のクラスメイトを向かえに行き、この部屋に連れて来るように言った！

妹はフラフラしながら、一階に降りて、玄関に着いた！

「ハアハア～ッッ！　どちら様…でしょうか～ハアハア～ッッ…」

「みゆさんのクラスメイトのナオとゆきです。みゆさんに呼ばれたので、来ました」

妹はゆっくりとドアを開けた…

ナオちゃんにゆきちゃんは妹の姿を見上げて、ビックリした…

「どうしたの？知恵ちゃん！！」

「お姉ちゃんが・・・お姉ちゃんが大変なの…直ぐにお姉ちゃんの部屋に来てください…」

全裸に近い身体をナオちゃんとゆきちゃんに見せながら泣き崩れた！

終焉4

ゆきちゃんとナオちゃんは妹を抱き抱えて、姉の部屋に向かって歩き出した！

「妹にお姉ちゃんに何か有ったの？」

「お姉ちゃんが…お姉ちゃんが…死んじゃうよ～」

2人は妹の様子が異常で有ることに、不安を抱えながら姉の部屋の前に着いて、ドアを開けた…

ベッドの上で、逆さまに足を上に向けて縛られて、妹と同じようにセーラー服を破かれて、乳房やオマンコを露出させて、膣には何かを挿入された悲惨な姿を見つめて、2人は絶句して固まった！

何！？これ？・・・・

女の子2人が部屋の中に入って来たのを見て、ノブ君とマヤ君は2人の女の子の前に現れた！

「いらっしゃい！お久しぶりだね、俺達の事を覚えているかい？」

ノブとマヤ君は切り取られた、ペニスとコウガンをわざとらしく、女の子2人に見せた！

あなたたち、あのときの？

「そうだ！あの時は、俺達の大切な生殖器を切り取ってくれてありがとうな、今日はお返しに来たんだよ…」

「せっかく会えたんだから、君達の、オッパイとオマンコを拝まして欲しいな♪俺達のオチンチンとタマタマを見せただろう♪」

マヤとノブ君は2人に向き合い、自分達のペニスを見せながら、スタンガンを2人の顔に2近づけながら、ナオちゃんとゆきちゃんのセーラー服を捲り、ブラジャーのホックを外して、生の乳房を揉み始めた♪

ゆきちゃんはお腹が膨らんでいた、乳首を触ると母乳が滲み出た♪妊娠しているんだと思った。

ノブ君はゆきちゃんに君は妊娠して、孕んでいるんだねとささやいたら…

「そうよ…あなたたちの赤ちゃんがこのお腹に居るのよ…」

ノブ君はゆきちゃんのお腹を優しく触った…

ノブ君は、しゃがんでゆきちゃんのパンティを下げて脱がした。
マヤ君はゆきちゃんのパンティを脱がした。

「イャーッッ…何するの？」

ゆきちゃんは、妊娠しているから、強姦はしないよ、その代わり、俺達の怨みをはらすから、クリトリスは切り取るからな、足を開くんだ！

ナオちゃんは、マヤ君に犯されて、子宮内で精子を受けて孕んで貰ってから、クリトリスの切り取だ！

それが俺達の復讐だからな！

ゆきちゃんとナオちゃんは2人の復讐と言う言葉に全身が震えていた。

終焉４

マヤ君は妊娠しているゆきちゃんを仰向けに横に寝かせて、足を開くんだ！と

命令した！

スタンガンを頬に突き付けられているからしかなたく足を開いた…何するのだろう…クリトリスを切り取って終われるのかな…？

と思っていると、ヤハリ

ノブ君はゆきちゃんのクリトリスに指で触れてから、皮の被ったクリトリスを親指ど人差し指で皮を剥いてから、引っ張り伸ばした！クリトリスの根元にハサミを充てて、ささやく！！

ゆきちゃんのクリトリスを切り取るからね、これは仕返しだから、もう女の子として、一番感じるクリトリスとはお別れしょう、サヨナラ！

と一言告げてから、指に力を入れて、ゆきちゃんのピンクのクリトリスを根元から切り取った！！

ギャーッッ…！！

痛さで泣き崩れた！

クリトリスをノブ君は摘まんで飲み込んだ！

これで縫合出来なくなったね…

ゆきちゃんの突起物の有った場所から、鮮血が流れ出していた。

ノブ君はゆきちゃんに乳首は切り取らないからね、赤ちゃんにオッパイをあげなければ成らないから、ゆきちゃんの乳首は残して置いてあげるよ。

と微笑みながら告げた！

マヤ君は、ナオちゃんを倒して、足を開いて、ペニスを膣内にぶちこんで強姦を始めた♪

イャーッッ…痛い～ッッ！ヤメテ～ッッ！

ナオちゃんも泣き崩れたていた。

マヤは激しくナオちゃんの膣内にペニスを動かして、子宮唇に先をぶつけながら射精をした！

ナオちゃんの子宮唇はマヤ君の精子を飲み込んで膨らんでいる見たいに、腰から全身が震えていた！

イャーッッ…できちゃうよ…イャダョ～ッッ…赤ちゃんできちゃうよ…！！

マヤ君は精子を出し終わり、ナオちゃんの膣からペニスを抜いた！

そして、突起物に触り、指で摘まんでハサミを根元に寄せて、ささやく！！

さようなら！君の一番感じる生殖器を貰うね♪

と言って、ハサミに力を入れてクリトリスを根元から切り取って、口の中に入れて飲み込んでしまった。

ギャーッッ！！

激しくナオちゃんも叫び震えた…

クリトリスの有った場所からは鮮血が流れ出していた…

マヤ君とノブ君は最後の仕上げに、ベッドで気絶して、膣内に、器具を差し込まれているみゆちゃんの側に付いた！

クリトリスを切り取られて泣いている、女の子2人に

これから、みゆさんの膣内に差し込まれれいる器具を抜くんだけど、2人も器具の取っ手を持って引っ張るのを手伝うんだ！

と告げた。

早く抜かないと、みゆちゃんの子宮内に精子を出してあるから、妊娠してしまうぞ、一気に抜くから手伝うんだ！

女の子2人も早く抜かないとヤバイのかと思い、器具の取っ手に掴まった。

4人で何で、こんなに大勢で引っ張るのか、不思議に思いながらもいち、にの、さんで一気に抜くからな、とノブ君は言ってから、カウントダウンが始まった…

みゆちゃんの膣内に差し込まれた筒状の器具の外側の筒をねじり、みゆちゃんの子宮の中で先に付いている釣り針の針金が、筒から出てゆっくり拡がった！

最大に拡が釣り針の先が子宮壁にガッチリと食い込んだ！

気を失っているみゆちゃんの反応はない、かなり痛い筈なのに…

マヤ君は、筒の取っ手を１８０度ねじった、子宮壁にガッチリと食い込んだ為に子宮もねじれたはずだ…

マヤ君は合図をした、

いち

に の ・ ・ ・

さん♪

４人は一斉にみゆちゃんの膣内に差し込まれれいる器具の取っ手を引っ張った！

ブチッ！ブチッ、ブチッ…と音がして、赤い袋状の肉片がみゆちゃんの膣唇から外に釣り針にまとわり付いたままとびたした！

イャーッッ！何よ此れは？

筒先の釣り針には、みゆちゃんの子宮と卵管に卵巣の一部が絡まっていた…

これで俺達の復讐は終わったんだ！とマヤ君は女の子2人に告げて、ザバイバルナイフをナオちゃんに渡した！

これで、俺とノブ君のペニスとコウガンキンタマを切り取ってくれ、俺たちも性器を棄てる覚悟で来たんだよ…

早く切り取ってくれ、もう縫合出来ないように、ぐちゃぐちゃに潰して欲しいんだ！

ナオちゃんは震えながら、ザバイバルナイフをマヤ君のペニスに充
ててスパッと切り取った、続いてキンタマをハサミで切り取った。

マヤ君は痛さで床にしゃがみ込んだ！

続いてノブ君はナオちゃんにペニスを差し出した。

ナオちゃんは、同じようにノブ君のペニスとキンタマを切り取った。

悲惨な姿をした、男女が同じ部屋のなかで佇んでいた。

レイフ　。から始まった…復讐劇は終わりを告げた！

ノブ君は妊娠しているゆきちゃんに産まれたら俺が貰って育てるよ、
もし良かったら、ゆきちゃんは俺の女になるかい…赤ちゃんと一緒
に俺が面倒みるよ。

マヤ君も、みゆちゃんの妹に向かい、俺もみゆちゃんの面倒を一生
見るからな…と告げた…君も妊娠したなら面倒みるよ。と妹やナオ
ちゃんにも話をした。

あとがき

ノブ君とマヤ君の復讐編は終了しました。

ご愛読ありがとうございました。

羽山とマキトによるセーラー服少女強姦はまだ続きます。

次回の更新は未定です！！
読んで頂いた皆様の感想お待ちしています。

沢山のお気に入りに、ユニークありがとうございました。

アクセスも毎日四万超えていますありがとうございました。毎日沢山の愛読感謝しています、毎日寒い日が続いています、暖かくして風邪に気を付けて、気を引き締めてお過ごし下さい。

初々しい姉妹

マキトと羽山は朝の陽射しがまぶしい春先の新たに進学したての初々しいセーラー服少女を見つめていた。

久しぶりのセーラー服女子高生だった！

自宅から、学校へと向かって歩き出したセーラー服少女を品定めしていた２人の目の前を可愛らしい姉妹が歩いていた。

この春から女子高生として学校に登校してゆく姿を昨日の入学式から、見ていた少女２人だった！

２人は双子見たいで、直ぐには区別が付かないくらいに良く似ていた！

髪の毛も全く染めていない、純粋の黒髪を肩までのばした、ストレートヘア…

身長も１６０センチぐらいで胸はＤカップより少し小さめ♪

真新しい白いセーラー服に白い生地に青と水色のチェックのヒダスカートを履いていた。膝上１５センチぐらいに裾を揃えて、白い素足に、二ーソックスに紺色のスクールシューズを履いて並んで歩いている。

昨日から、狙いを定めていた姉妹…

早くこの純粋な姉妹を犯したいと2人は、ウズいていた…

今から、拉致監禁しょうか…授業後の帰宅するタイミングて拉致監禁しょうか…と2人は悩んでいた…

朝は回りに学生や通勤中の人々が多いから、難しいから、やはり下校中まで待っていようと決めた！

姉妹が下校して、自宅に入る前に拉致しょうと♪

姉妹監禁

マキトと羽山は狙いを付けた女子高生姉妹の自宅前に車を停めて、学校から帰って来るのを待っていた…

今日の獲物を狙って、狼のように、ヨダレを滴ながら久しぶりのセーラー服少女を求めた2人だった！

今回は、めちゃくちゃに犯す！！相手が気持ち良くなる事は考えていない！

いきなり家の前で、スタンガンを突きつけて拉致して、アジとに連れ込んで、セーラー服やスカートはズタズタに破き棄てて犯す、強姦する、子宮内に中だしして孕ませることだくけを考えていた。

強姦は、一晩中やることにした！朝日が昇る頃に姉妹2人を裸のまま車に乗せて、自宅から離れた道路に放り出す！！

露出された姉妹の仕草を楽しんで見ようと、マキトと羽山は相談していた！！

まるで悪魔の様な2人だった！

その目的セーラー服少女2人が自宅前に近づいて歩いている姿が見

えてきた。

もうすぐ純潔を散らされて終うとも知らずに、話ながら微笑み自宅前に近づいて歩いている・・・

マキトは右手にスタンガンを持って、助手席のドアを開けた！

姉妹が車の脇を通った瞬間に、道路側を歩いていた姉妹の一人にスタンガンを向けた！

「2人共に車に乗るんだ、騒いだり叫んだら、容赦しないぞ！」

「何をするんですか？止めて下さい！！」

「黙れ！おとなしくしないと死ぬぞ！」

いきなり男にスタンガンを顔に近づけられた、姉妹は抵抗するまもなく、車に乗せられてしまった…

羽山は姉妹をのせて、アジトに向かい車を走らせた！

家の前には2人のスクールバックが2つ落ちていた…

マキトは怯えている姉妹に名前を聞いた！

「君たちの名前を教えて欲しいな！俺はマキトだ運転してる奴は羽山というなまえだよ、君たちは姉妹なんだろ、どちらがお姉さんなんだい？」

「私が姉の木下梨花、妹は真弥です、お願いします、家に帰して下さい…」

「梨花ちゃんに真弥ちゃんですか？明日の朝まで楽しく過ごしましょうね♪」

「イャ～ッッ！！
止めて下さい…帰して下さい…　」

車はアジトの中に入って行った！

マキトはドアを開けて、スタンガンをかざしながら姉妹に「さあ降りるんだと命令した！」

マキトは姉妹の手を掴んで部屋の中へ率いれた！

羽山は姉妹の身体を眺めながら…「今からタップリと可愛がってやるからな…」

と囁いた！

そして姉妹の一人に近寄って床に押し倒した！

「イャ～ッッ！！ヤメ～テッ～ッッ！！」

羽山は君はお姉さんなのか！？

と聞いた！？

妹の真弥です…

真弥やん此れから君を犯すからな♪

イャ～ッッ！！ヤメ～テッ～ッッ！！

嫌がる真弥の膝の上に股がり、羽山は白いセーラー服越しに胸を掴んで触りだし両手でセーラー服を鷲づかみにして、左右にビリビリと引き裂いた！

セーラー服はあごの下からビリビリと胸元へさらにお腹まで左右に引き裂いた！

白いスクールキャミソール姿にされた、２つの乳房がキャミソールの上から揺れていた。

「イャ～ッッ！！何するんですか！？ヤメテッ～ッッ！」

羽山は白い生地に青と水色のチェックのスクールスカートを捲りあげた♪

白いパンティが覗いているのをみて、鷲掴みをして一気にむしり取ってしまった!!

キャーッッ!!ヤメテッ〜ッッ!!

妹はあっという間にスクールキャミソールとスカートを巻き上げられてパンティも剥ぎ取られて、恥丘や割れ目が露になってしまった。

姉は、眼を背けて震えていた!

羽山は妹の唇を奪いながら両手でキャミソールの上から乳房を鷲掴みにして、揉んだ！

イャ～ッッ！！ウッッ～ッッ！！

唇が塞がれて大きな声が出せない！

羽山は妹の足を左右に開いた…

胸を掴んでいた両手でキャミソールも乳房の辺りから破り棄てた！

白いブラジャーが露に成った！

「ウッッ～ッッヤメテッ～ッッ！！、妹から離れて下さい！！」

姉が叫び声をあげた！！

羽山は右手を使い妹の足を開いた

右手でオマンコを触り膣唇に触れた、まだ余り濡れていないが処女膜を破りたい！！

痛くて泣き叫ぶ妹の姿を想像しただけでペニスがはち切れそうに勃起した！

自分の勃起したペニスを膣唇に宛ながら、思い切り膣内にぶち込んでしまう！

イャ～ッッ！！イタイ～ッッ！！イタイヨ～ッッ！！イタイ、イタイ～ッッ！！

まだ処女の真弥ちゃんは鳴き声をあげている

羽山はさらに膣壁を押し拡げてペニスを子宮唇にぶつける用に激しくピストン運動をして、処女の膣壁を刺激した！

マキトは姉の梨花ちゃんに「妹のレイプを見て興奮したんじゃあないのか？」

「イャ～ッッ！！妹を苛めないで下さい！！お願いいたします。」

ならお姉さんが代わりに、俺を気持ち良くして貰おうか♪セーラー服を捲りあげて、キャミソールを捲りブラジャーを見せなさい！

「次にスカートを捲りあげて、パンティを膝までずりさげて、俺に君のオマンコを見せなさい！」

「そのな…嫌です！！許して下さい…」

「羽山は、マキトにお姉さんは、オマンコを見せたくないそうだ～妹の子宮にたっぷりと、お前の精液を放出して、子宮内で受精させるんだ、自分の代わりに妹の孕む姿をお姉さんは見たいんだろう！！」

イャ～ッッヤメテッ～ッッヤメテッ妹にこれ以上酷い事はしないで下さい…

私が脱ぎますから…

姉はセーラー服の脇のファスナーに手を添えて引き上げ始めた…

涙が頬を伝い次々と滴り落ちている。

マキトは姉の覚悟を聞いた！

俺が脱がしてやるから、両手は後ろにしろ、騒いだり、手を前に持ってきたら、その度に妹の子宮内逃がし射精して、孕ませるぞ、解ったら直ぐに両手を後ろだ！

たっぷりと、拝ませてもらいますか♪

その会話を聞いて羽山は妹の膣内からペニスを一旦抜いた！

膣唇からは、処女膜を破られた証の鮮血が流れ出した…

羽山は処女血の付いたペニスを破れているセーラー服に拭いとり、妹の唇に押し付けた！

これをしゃぶって、唇でイカせろ！君の口内で精液を吸い取りながら、お姉さんのストリップを見なさい！

嫌なら、また子宮内で俺の熱い精液を受けとめて、孕んで貰うけど…どうする？

ウッッ～！泣きながら…妹は羽山の勃起したペニスを唇でしゃぶり始めた…

マキトは、姉を立たせて両足を開かせた。

もう一度言うぞ！抵抗したら妹を犯すからな。

マキトは姉のスカートを捲り白いパンティをゆっくりと下げ始めた…

恥丘には薄い茂みが有った…

さらにパンティを下げて割れ目が現れた綺麗なピンク色をした、大陰唇にお尻もふくよかにプリッとしている♪

パンティを膝まで下げてから、右手の中指で大陰唇に触れた！

ピクッ…ピクッと腰が震えだした！

大陰唇を拡げてビラビラのヒダを左右に開いたら中から、綺麗な皮を被った小さなクリトリスに尿道唇、キッチリと閉まっている膣唇が現れた♪

膣唇に触れると、ピクピクと両足を痙攣させていた…

ゆっくりと中指を膣唇の中に入れた♪締め付けが凄い！！

異物を入れない用に膣壁が阻んで要るようだ♪

中指の第一間接迄膣内に入れると、ヒダに触れた！

またもや全身を振るわした！！

ヒダに指が触れた瞬間膣内から、愛液が滴り出し始めた…

マキトは姉の処女膜を指で触り確認した！

次にハサミで、白いセーラー服の前を恥丘の上から切り始めた…ゆっくりとセーラー服を真ん中から左右に切り裂いてゆく…

姉は恥ずかしそうに足を振るわせていた。

「オマンコを露にしているんだからもう恥ずかしい事は無いだろうが、おとなしくしていろ！」

マキトは姉にささやいた！

ハサミはセーラー服のスカーフの処迄切り裂かれた！

白いスクールキャミソールも裾にハサミを宛がい真ん中からセーラー服のスカーフの位置まで左右に切り裂かれた！

白いブラジャーに包まれた二つの乳房が目の前に現れた！

マキトはハサミをブラジャーの肩紐に宛がい、右から切り取り、左の肩紐も切り取った！

まだブラジャーは二つの乳房を包んでいる！

更にハサミをブラジャーの谷間に宛がい二つの乳房はマキトの目の

前に露になった、ピンクの蕾が上を向いていたので、思い切りシャブリついて、蕾を舌で転がしたり噛んだりした！

イャーッッ！姉は後ろ手に組んだ手を乳房の所に持ってきて、マキトの頭を離そうとした。

その瞬間にマキトは、姉を床につき飛ばして、裸の上に乗っかり、足を開いて、勃起したペニスを姉の膣唇に宛がい、一気に膣内に挿入した。

イャーッッ！イタイョーッッ！ヤメテーッッ！イタイョーッッ！！

マキトは姉の処女膜を一気にぶち破り子宮唇にペニスの先をぶつけながら、膣内を犯した！

姉はいきなり処女膜を破られて、泣き崩れて腰から足に掛けて震えている…

妹も羽山に強姦されはじめた…

姉が言う事を聞かなかった為に妹も羽山により、子宮内に熱い精子をたっぷりと注がれてしまった。

マキトも姉の処女の子宮内に熱い精子をたっぷりと放出した！

姉妹は二人共に孕んでしまうだろうと男達は思っていた。

全裸解放

マキトと羽山は姉と妹を交換しながら、姉妹を犯した続けた！

「イャーッッ！イタイョーッッ！中に出さないで…妊娠したゃうよ…」

「イャーッッ…中には…ダメ～ッッ！」

姉妹の叫びを無視して、マキトと羽山は、姉妹の子宮内にたっぷりと熱い精子を放出し続けた！

2人の強姦シーンを動画で記録して、姉妹に見せながら、週末の金曜日に授業後この場所に二人で来るように指示をした、もし来なければ、ネットに流すと脅した！

マキトは、姉妹に君たちが受精して、孕むまで毎週の金曜日にこの場所に来るように命令した。

「お願いいたします！！妊娠だけはしたく有りません、許して下さい！」

マキトは妹のクリトリスを指で摘まんで、皮を剥いてから、唇を宛がい歯でカミカミして、小さな尿道唇やビラビラの小陰唇も、摘まんだり引っ張って、まだ処女の女の子の生殖器を思う存分にイタズ

ラしながら遊び犯した！

羽山も姉のオマンコ全てをイタズラしながら、オッパイや乳首をむしゃぶりながら、何回も膣内や乳房や顔面に射精した。「ダメダメ、必ず金曜日には来るんだ！排卵日にも来ても良いからな、孕むまで犯し続けるから、覚悟しろよ！」

とささやきながら！
マキトと羽山は精液が尽きるまで姉妹を犯した！

二人のスカートを剥ぎ取り、破れたセーラー服だけの姿にして、車に乗せた！

姉妹の自宅から１００メートルくらい離れた道路で破れたセーラー服だけの姉妹を解放した、時間は夜の１２時過ぎだが、人の通りは少ない…

車から放り出された姉妹は、破れたセーラー服で乳房を隠して、また片方の手を股関に添えて下半身を隠しながら自宅に向かって走り出した、後ろ姿はお尻が丸出しで震えていた！

羽山とマキトは、金曜日が楽しみだとささやいた！
ホントに来るか、来ないか解らないが、と話ながら姉妹の後ろ姿を見ていた！

バスジャック（前書き）

この章はある女子高の生徒を乗せたバスを襲い、大勢の前で一枚づつ脱がしたり、先生や教育実習生をいたぶる事をします、お楽しみに♀♀

バスジャック

マキトと羽山は次の標的を女子高生達の乗ったバスを襲い、大勢の前で女子高生達を1人づつ順番に脱がして、全裸にしてから犯して孕ませる計画を持ち掛けた
早速マキトと女子高のパソコンにハッキングして、ゴールデンウィーク明けのスケジュールを盗みだした。

課外活動や研修目的でバスを使い遠出をするスケジュールを見つけ出した！

今週末にひとクラス全員で課外活動をする事を見つけ出した！

早速コースの見取り図をプリントして、トイレ休息する幾つかの場所を特定出来た！

休息する場所に先回りしてバスを待つことにした！

計画は順調に進んで、女子高生達の乗ったバスが出発する朝を迎えた！

全員が一年生で引率の担任は女性の先生だった、他に大学生の男が1人教育実習生として乗り込むスケジュールに成っていた。

羽山とマキトは一番最初に休息するパーキングでバスを待つことに

した！

時間通りにバスは休息場所のパーキングに入り、先生や女子高生達がバスから降り始めた…

狙うのは、全員が休息を終えてバスに乗り込んだ瞬間にバスジャックする事にした。

ほぼ全員がバスに乗り込んだのを見て、マキトは車をバスの脇に着けた！

羽山が車から降りて、バックに入れた、ライフ銃とスタンガンを持ってバスに乗り込んだ！

「このバスは俺が乗っ取った！！騒いだら容赦しないで撃つからな！」

羽山はライフ銃をバックから取り出して、構えた！

ギャー！キャーッッ！

何なの？ヤメテーッ！

女子高生達は騒ぎ出した！静かにしろ！

羽山は運転手にバスをこの場所に向けて走らせろと紙を渡した！

運転手は目的地を変えて、羽山の紙に書いてある場所に向かいバス

を出発させた。

マキトはバスを追い掛けて車を走らせた。

羽山は近くの女子高生に紐を渡し、教育実習生の男の両手を後ろ手にして縛るように命令した。

引率の女性の先生は羽山に

「何をするんですか?早く私たちを解放して、直ぐにバスを降りなさい!」

と強気な発言をした。

羽山は傍の女子高生の顔にスタンガンを近づけて!

「先生さんよ、このバスは俺が乗っ取ったんだよ、おとなしくしないと、生徒の顔に傷が付くぞ!良いのか?」

「貴方は一体何が目的なんですか、身代金ですか?」

「金なんて必要無いんだよ!先ずは先生の裸を皆の前で見せるんだ!」

「嫌です!!」

今から一分以内に一枚づつ順番に脱ぐんだ!

一分事に可愛い生徒さんが傷付く事になるぞ！

さあ、生徒の皆さん、先生のストリップショーが始まるから、ご覧下さいね！

先生はブレザーを脱ぎ始めた…

先生はブレザーを脱いでから、白いブラウスのボタンを下から外し始めた…

手が思うように進まない…

「羽山はもうすぐ一分経っちゃうよ♪早く脱がないと大事な生徒さんを虐めちゃうよ！」

羽山は近くにいる女子高生の隣の席に座り、セーラー服服の肩に手をかけて、少女に名前を聞いた！

「君の名前を教えて欲しいな♪」

「聡子です　」

「聡子ちゃんか、可愛ねキスしょうか？」

「イャーです！先生助けて～っ！！」

「先生早く脱がないと、可愛い聡子ちゃんの唇奪っちゃうよ♪オッパイにも触りたいな♪お尻や、オマンコも触りたいな」

「先生助けて～っ！」

「泣いてる聡子ちゃんも可愛いね、先生早く脱がないと可愛い生徒さんを貰っちゃうよ♪」

先生はやっとブラウスのボタンを全て外して、ピンクのブラジャーがブラウスの前から見えていた。ブラウスを肩から脱いで床に落とした！

次にスカートのホックを外してジッパーを下ろしスカートを足元に落とす様に脱いだ！

お揃いのピンクのブラジャーとパンティが生徒達の前で露に成った。

羽山は此処ではい、一分経ちました！
聡子ちゃんの唇奪っちゃうよ♪

羽山は聡子ちゃんの唇に自分の唇を近づけてキスをした、舌で聡子ちゃんの唇を開いて口内に舌を入れて絡めながら、口内を犯した！

バスジャック3

羽山は聡子ちゃんの唇を奪いさらにセーラー服の上から胸を触り始めた♪

「イャーヤメテーッッ！先生助けて～っ！」

引率の先生は、ブラジャーのホックに手を掛けた、なかなか外せないでいる。

羽山は先生さんよ、もう二分過ぎたよ！可愛そうに生徒さんがこうなっちゃうよ♪

聡子のセーラー服を捲り、裾から中に手を入れて、キャミソールも捲り上げて、白いブラジャーを露にしてから、少女の二つの乳房を揉み始めた♪

「イャ～っ！触らないで…」

「生徒には手を出さないで下さい…」

「なら、早く脱がないと、次は可愛そうにこの娘の下着を破り取っちゃうよ！」

先生はブラジャーを腕からはずして、露にした、大人のふくよかな乳房が生徒達の前で露にされた…

「もう待てないよ先生さん♪」

先生はパンティに手を添えて、ゆっくりと下げ始めた…

良く手入れのされた恥丘には揃えられた陰毛が見えてきた♪

先生はパンティを足から脱いで全裸に成った！

羽山は先生に、皆に良く見せるんだ！と言って、バスの中を後ろから前までゆっくりと手を後ろに組んで歩く様に言った！

先生は仕方なく、全裸の身体を生徒達や教育実習生の男の子に曝した！

バスジャック4

羽山は全裸の先生を一番後ろの席に教育実習生の男の子と並べて座らせた！

「先生さんよ、隣の教育実習生のズボンとパンツを脱がしてあげなよ！これは命令だからな♪」

「そこの教育実習生立って、先生に脱がしてもらい、オチンチンを生徒さん達や先生に見て貰いなさい！」

バスの中では、女子高生たちが賑やかにささやき始めた…羽山の言葉を聞いて…

（何ですって…教育実習生のアレを見れるの？ヤダ～っ私ハジメテ見るかも…ネエネエ…ホントニ先生が教育実習生のズボン脱がしているよ、ミテミテょ～っ！）

女子高生達は、先生と教育実習生の二人に視線が集中していた。

バスは、マキトとの待ち合わせ場所に向かって進んでいた。

先生が教育実習生のパンツを下げ始めると、勃起した大学生の逸物が上を向いた赤黒い血管の浮き出たグロテスクのペニスが目の前に現れた！

先生はパンツを足元までずりさげた…

羽山は教育実習生にそのまま前まで歩いてきて、女子高生達に良くペニスを見せるんだ！と命令した。

バスの中は女子高生達の声で騒ぎが大きくなった。

羽山は「静かに教育実習生のオチンチンを鑑賞するんだ、近くに来たら触っても良いからな、初めて男の子のペニスを見る娘も多いと思うから、ゆっくりと眺めなから触って確かめなさい、コウガンも触って確かめても良いからな！」

教育実習生は女子高生達の視線を感じながら恥ずかしそうにバスの中を歩き出した！両手は後ろで縛られ、口には紐で猿ぐつわをされて声を出せないでいる。

女子高生達は教育実習生が近づいて来ると、勃起したペニスを不思議そうに見つめる女子高生に眼を反らす女子高生がいた！

羽山は眼を反らさずにジックリと見るんだと命令した！触るのは自由だが、なるべく触って感触を確かめろ！
と話した！

バスジャック5

教育実習生の大学生は大事なペニスとコウガンを女子高生達全員に曝しながら触らせていた。

バスはマキトとの待ち合わせ場所に着いて一旦停車した。

マキトは、道具箱を持ってバスに乗り込んだ！

「皆さんマキトです、今日此から楽しく過ごしましょう♪」

マキトは、バスの中の女子高生達や後ろの席に全裸で座っている女性と隣にいる男の子を見つめた！

羽山は先生と教育実習生だとマキトに教えた！

マキトはバスの真ん中辺りの空いている席に座り、隣の女子高生に名前を聞いた！

「君の名前を教えてくれないか？」

「渡辺麻友です…」

「まゆゆちゃんか、可愛な前だね♪」

「まゆゆちゃんに仕事をして貰いたいんだ、この瓶に入っている薬を先生の乳首とクリトリスにオマンコの穴の中に塗ってきて貰いたいな♪あの教育実習生のオチンチンにも塗りなさい！」

「イヤです…出来ません！」

「なら、君の身体に塗っちゃうけど、良いのかな？別に害はないくすりだから、心配しないでくれ、ちょっとだけ気持ちを良くする薬だからね」

マキトは先生と教育実習生に此から教え子が君達の身体に薬を塗りに行くけどおとなしくしなさい、暴れたり拒んだら君達と此処にいる教え子の命は無いと思いなさい！

まゆゆは自分の身体に塗られるのは耐えられないからと、瓶を手にして先生の前に進んで、蓋を外して、中身のゼリー状の液体を先生の乳首とクリトリスにオマンコの中まで入れた！

「渡辺さん止めて！」

しかしまゆゆは先生の生殖器全てに薬を塗ってから、教育実習生の男の子のペニスとコウガンにも薬を塗った。

バスジャック6

羽山は女子高生達に「先生と教育実習生の2人を良く見て要るんだ！男の子のペニスが興奮すると、どうなるか？先生も興奮してきたら、どうなるかんだろうな？2人共に裸のお付き合いが始まっちゃうかもな！」

羽山は先生に次の指示を出した！

先生に女性生徒の出席を取らせる！！名前を呼ばれたら席から立ち上がって、羽山の前に来ると

デジカメでセーラー服姿の写真を撮る！

撮り終わったら、パンティを脱いで、ビニール袋にいれてから、袋に自分の名前を書くこと！

但し生理中の女性生徒は、タンポンを用意したので使う事！

羽山は先生と教え子達に、抵抗したり、騒いだら脱ぐ枚数が増えるからな、では初めて下さい！

羽山は先生に命令した！

先生は媚薬の効果が出初めて、頬を紅くして、乳首が勃起して大きく立って上を向いていた。

恥ずかしそうに、下を向いて生徒の名簿順に出席を取り始めた！

「出席番号1は、秋野さん！」

女性徒は、返事をして席を立って羽山の前に来た！

恥ずかしそうにスカートの中に両手を入れてゆっくりとパンティを下げ始めた！

膝まで下げてから、右足を上げてパンティを抜いた！

羽山の差し出したビニール袋にパンティを入れて、名前を書きこんだ！

「よし、席に戻りなさい！」

羽山は秋野ちゃんに席に戻るように言った！

女性徒は自分の席に戻って座った！

生徒は、出席番号順に名前を呼んで、次々に羽山の前でパンティを脱いでいた。

バスジャック7

女子生徒の撮影が終わり、全ての女子のパンティをビニール袋に集めた！

全裸の先生は媚薬が効いてきて、身体中をピクピクさせながら、目が虚ろになり、唇からは唾液が流れ落ちていた。

隣の教育実習生の男の子も、全裸の先生を眺めて息をハアハアさせている…腕は後ろ手に縛られている為に、手を出せない！

羽山は先生に「教育実習生さんの勃起したペニスを唇で加えてやるんだ！」

と命令した！

先生は体を屈めて教育実習生のペニスにシャブリついた…

クッチュ♪クッチュ♪クッチュ♪ど音をたてながらシャブリついているのを女子生徒は、興味深く見つめていた。

「イャ～ッ…何あれ？」

「先生…どうなっちゃったの～」

「教育実習生のアレを美味しそうに舐めてるよ…信じられないよ？」

「先生止めなよ…」

此処でマキトは、女子生徒全員に特性ジュースを配った！媚薬と排卵促進剤の入った、女の子を惑わすジュースを飲ませる為に…

隣に座っている、まゆちゃんに全員に配るように命令した！

まゆちゃんは、特性ジュースを女子生徒全員に配り直ぐに飲みながら、先生と教育実習生の絡む姿を見るように言って回った！

渡され女子生徒達は、まゆちゃんからジュースを受け取り、中身の解らないまま飲みながら先生と教育実習生のフェラを興奮しながら眺めていた。

即効性の媚薬は、女子生徒の身体を浸透してゆき、次第に息づかいが荒くなり、顔も赤らんできた。

「何だか身体があっいんだけども」

「先生のアエギを見てるからだよ…」

「私の身体も疼いてきちゃったみたいだよ～」

羽山はそろそろ準備は整ったなと見計らった！

バスジャック8

羽山は教育実習生に
「どうだ、先生とやりたく成って来ただろうから、押し絵の前で先生と性器教育実習でもしようじゃあないか！」

先生は、教育実習生のペニスを加えて、ハアハアと息を切らしながら、まだシゴイテいる、下半身の割れ目からは、愛液が床に滴り落ちていた。

マキトも先生に近づいて
そろそろ、セックスタイムが近づいて来たみたいだな！

「お前等ちゃんとセックスの仕方を教えてあげなさい」

先生は媚薬効果で、我を忘れ初めていた、教育実習生のペニスから、唇を離して、自分の膣唇にペニスを宛がった！

「さあ、楽しい性教育の時間だよ、生徒の皆さんはじっくりと観察して、覚えて下さいね、此処は試験に出ますから確り勉強して、覚えて下さいね」

羽山は女子達に、先生達のセックスを良く見るように告げた！次は君達の番だからと…思わせる♪

先生は猿ぐつわをされて要るので声が出せない！

うっっ～っ・・・！

教育実習生の男の子は勃起したペニスを先生の膣唇から膣内に挿入した。

うっ～ッ！

あっ～ァァ…！！

女子達は、先生と教育実習生のセックスを目の前で見つめていた。

初めてみる娘は、目を反らしながら、でもチラチラと覗き見るようにして、或いは繋がっている生殖器を食い入る要に見ていた！

女子達にも媚薬いりのジュースを飲ませているから、次第に興奮と快楽に体が侵され始める頃になる。

マキトは次の準備を始める為にロープや紐の用意を始めた！

女子高生達をロープでしばり、吊るしながら順番に犯す事にしていたから♪

先生と教育実習生の交わりを観察している女子高生達に羽山はもうすぐに射精しそうだから、先生の子宮内で男の精子を受け止める処を良く見ていろ！

と女子高生達に話した！

教育実習生は

「もうイキソウです！！」

「ヤメテーッ…中には出さないで！」

マキトは教育実習生に「中に出して、教え子どもに性教育を教えてあげなさい！赤ちゃんの作り方の見本を示すんだからな！」

「ダメです！妊娠しちゃう～っ！中は～ヤメテ…！！」

マキトはまゆちゃんに、「どうだ、中だしする姿は初めて見ただろう！！赤ちゃんの作り方を覚えていろ、次は君達に実際にやって貰うからな！」

まゆちゃんは「私も初めて生で見ました…でもセックスするのは嫌です！」

教育実習生は

「イク～っ！デル！あっ～ぅ！」

貯まっていた精液を大量に先生の膣内に射精した！

「イャ～ヤメテッ…入って来てるよ…私の中に…イャ～ヤメテ！！」

羽山は女子高生達に「どうだ生で見ただろう男と女のセックスは素晴らしかったな！君達にも実践してもらうから、名簿順に俺と子作り体験をして貰うからな！」

「ダメです！セックス支度有りません！」

クラス委員長の長谷川蘭ちゃんがマキトを見て叫んだ！

君は勇気がある娘だな、その根性がいつまでも続くかな、最初は君から、性体験をさせて挙げよう♪

マキトはスタンガンを委員長の頬に近づけながら、椅子から立たせて、バスの真ん中に連れ出した！

「イャ～ッ！ヤメテ下さい！！」

うるさい！！オトナシクするんだ！

委員長の両手をバスの両側の棚の取っ手に紐で縛り付けた、足も開いて左右の椅子の足に縛り付けた！

「何するんですか！？ヤメテ下さい！！」

委員長はバスの前を向いた姿で両手両足を開いて、大の字の格好で

拘束された！

マキトは委員長のスカートの裾からカッターで切り裂き、パンティを履いていない為に、オマンコが露に曝された！

「イャ～ッッ…見ないで！」

マキトは委員長の割れ目に指を充てて開いてピンク色をした皮を被っているクリトリスの先をチョンと摘んだ！

ピックッ…ピクと腰が痙攣するように震えだした！

まだ此からだというのに、彼女の割れ目からは、愛液が漏れだしていた！

「イャ～ッッ見ないで！触っちゃやだよ！」

エロ試験

マキトは委員長のオマンコを指で開いて皮の被った突起物に触れて！
「これは何と言う名前だ、触ったり摘まんだりしたら、どうなるんだ？」

委員長は
「ヤメテ下さい！！触らないで…」

マキトは「これは試験だから、答えないと罰ゲームをする事に成るけど良いな！」

「総ての女子高生達が対象の試験だから、出席順に答えて貰うからな！」

「罰ゲームの内容は、間違いの答えや、答えられない場合は、俺の精子を子宮で受け取って貰うからな！」
「イャ～ッッ！それって強姦じゃない！」

「ダメだよ、妊娠しちゃう～ッッ！」

「なら、正解を答えればよいではないか♪先ほど先生と教育実習生の交わりを良くみて要れば赤ちゃんの作り方は解ったはずだからな」

「さあ、委員長ちゃんこの突起物の名前と機能を答えなさい！」

「く・・クリトリスです…女の子の一番感じる…場所…です」

「よし！良く言えたな！」

「女子生徒の皆さん、注目して下さい！！今からこの娘の回答が合って要るか確かめます」

マキトが確かめると発言したのを女の子達は聞いて、皆は委員長の大事な部分を悪戯して仕舞うんだろうと、委員長の下半身に視線を向けながら…私には問題を投げ掛けないで欲しいと思っていた。

マキトは委員長のクリトリスの皮を親指と人差し指で剥いてから、先を摘まんで捏ね回して刺激を与えた！

「あっ～ッッ！ヤメテ下さい…イャ～ッッ！皆見ないで！」

マキトは委員長のクリトリスに唇を添えてクチュクチュと舌で舐め廻したり摘まんで委員長のアエギを確認している。

委員長の膣唇からは愛液が滴り落ち始めた♪

「あぅ～うッッ～ヤメテ…オカシク成りそう！」

「初めてなのか？こんな事を去れるのは！どうだ♪気持ち良いだろう！！気持ち良いなら、気持ちいいと言うんだ！それが答えだからな！」

周りの女の子達も委員長の発言に聞き入っていた、こんな事を見たことも、された事もない、女子高生達がほとんどだろうから…

「あっ～ッッ気持ちいい～っよぉ・・・」

マキトは出席順に女の子達に質問した。

相崎さん答えなさい！

「今委員長は、気持ちいいと言っているが、このままクリトリスを責め続けたらどうなるんだ！？答えなさい！」

「多分、イッ・・チャイマス…」

「イクとはどういう事なのかな？」

「気持ちが良すぎて、頭がオカシク成っちゃう事なのかな…」

「さあ、君の答えが正しいか、委員長の様子を見て下さい！！　そこの君！ちゃんと見てないと、次に指すぞ！」

マキトはよそ見をしていた女の子に注意をした！

注意された女の子は、ビックリして、委員長の喘ぐ様子を見つめた！

クリトリスを責められて喘ぐ様子をクラス全員が見つめている！

委員長は、大勢の視線をオマンコに注がれて、恥ずかしながら、エクスタシーを迎えた！

「イク～ッッ気持ちいいぃ・・・」

腰をピクピクと痙攣させながら尿道唇から、黄色い液体をピュッピュッと飛ばし出した！

（あっ～ッッ頭が…イャ～ッッ頭が…オカシク…イク～ッッ！！）

委員長は生まれて初めての絶好調を迎えてしまい、失禁して、腰から足に掛けてピクピクと震えながら、ガックリと身体から、力が抜けてしまった。

つづき

マキトは「次は処女膜についてテストをする。」
処女膜の位置や機能、バルトリン腺についてテストをする！
処女の生徒はスカートを脱いで下さいね、処女膜を写真に撮ります！

「えっ～ッッヤダヨ…！」
「嘘でしょぉ―ぉ！」
「信じられない事を言うのね」

「今から一分以内に処女の生徒はスカートを脱ぐように、そしたら、委員長の処女検査を始める！」

マキトは、委員長の手足の拘束を一旦外してから、今度はバスの中央通路に逆さにして、大の字に拘束をした。

両足を開いて、バスの両脇の荷台に拘束して、オマンコの位置が床から1メートル位の見易い場所に固定した！

更にソープとヒゲソリでオマンコの陰毛を綺麗に剃った！

ツルツルのオマンコが露に成った！

マキトは底の平らなビーカーを道具箱から取り出した！更にビーカーの中にライト付き小型カメラをセットして、バスの液晶テレビに映像を映し出した！

「今からこの娘の膣唇から、ビーカーを挿入して、膣内の壁やヒダを写しだすから、良く見るんだ！直ぐに処女なのか解るからな！」

「えっ～ッッ！？膣内を映すんですか！？」

「イャダ～ッッ委員長のあそこが画面に写るんだって！？」

うっ・・・っっ…

猿ぐつわをされて喋れ無い委員長はは、逆さに拘束されて、スカートが垂れてツルツルのオマンコをカメラで撮影されて、バスの前後に備え付けてある、液晶テレビに映し出された！

「良いか、良く見るんだ！」

マキトは、委員長の膣唇にビーカーを宛ててゆっくりと挿入していくと、ピンクの膣壁やヒダが見えてきた！

ビダの収縮や膣内に入って直ぐに左右にバルトリン腺が見えた♪

マキトは「此が何だか解るかな？主席順だと井上あずみちゃん答えなさい！」

あずみちゃんは、「解りません？初めて見ました！？」

「君は処女なのかな？オナニーしたことが無いのかな？」

あずみちゃんは、恥ずかしそうに頷いた…

「あずみちゃん、此処に来なさい、君の処女膜も見てあげるから、ここにいる全員の処女膜は形が違うはずだから、確かめさせて貰う！！」

「エッェ～ッッ！？マジで！？」
「見られのイヤダャ～ァァ…」

「先に委員長の膣内を見なさい！」

マキトはゆっくりと膣内にビーカーを入れた！

先ほどのバルトリン腺がよく見えてきた！

「このバルトリン腺から、セックスする時に、ヌルネルの液体が出るんだ！潮吹きした時も、子宮内や膣壁から、分泌された愛液と一緒に男のペニスが入り安く成るような、潤滑油の役目を果す部位だ！良く覚えて措くんだ！試験に出るぞ♪」

「注意点として、汚い手や、異物を膣内に入れて、オナニーすると、このバルトリン腺が炎症を起こすから、十分気を付ける様に、病院に行かなけれ成らなくなるからな！」

知らなかった、女子高生達は、頷きながら、画面を見つめていた。

更に膣内にビーカーが入ると、ピンク色をした、ヒダが膣壁にあらわれた！

「此が委員長の処女膜だ！膣壁にまとわりついたヒダがあるのが見えるだろ！」

「委員長は処女だったんだね…」

「へぇ～処女膜って…こんなんだ！？」

処女膜を初めて見た女の子は意外な発見をしたように話している。

処女膜破壊

「マキトは次は処女膜を破ってみるからな♪」

「その前に、あずみちゃんの処女膜を見てあげよう！足を開くんだ！」

あずみちゃんは、バスの通路で前を向いて足を開いた！

マキトは、あずみちゃんのオマンコを覗いた♪

「あずみちゃんのオマンコも綺麗だね」

恥ずかしそうに、足を震わせている。

「ヒャァ～ゥウ…！！」

「アァ～ッッ！？」

大陰唇を開いたら、あずみちゃんは悲鳴を上げた…初めて男に秘部を触られて、恥ずかしさと、快感が交差をしていた、クリトリスや尿道唇にビラビラの小陰唇や閉じている膣唇がカメラにより、バスの液晶テレビに映し出された！

試験管を膣唇に充ててから、ゆっくりと膣内に挿入すると、ピンクの膣壁やその回りにヒダが見えてきた、あずみちゃんの処女膜が画面にあらわれた！

委員長の処女膜とは少しだけ形が違っていた！

マキトは、試験管を膣内から抜いて、委員長の処女膜破壊の準備を始めた！

此れから、委員長の処女膜破壊を行う、試験管を子宮唇迄挿入するから、良く見ておくように！！

「うっ～ッッ！」

委員長はまたうめき声を出した！

処女膜を破かれる悲しみと恐怖に怯えている。

逆さまに吊るされて、大きく足を開かされて、膣唇やクリトリスが丸見えのオマンコがテレビ画面に映し出された。

ゆっくりと試験管を膣内に入れ始めた！

試験管の先にピンクのヒダが膣壁にまとわりついて見え始めた…

さらに試験管を膣内にゆっくりと挿入すると、処女膜が引き延ばされ始める…

「生徒の皆さん！試験管の先の処女膜が引き延ばされているんだぞ、良く見なさい！此れからこのビラビラの処女膜が少しずつ伸びて、亀裂がはいり始めるからな」

「うっーっ！」

委員長は処女膜を破かれる痛さで、腰や足を震わせている、涙も床な滴り落ちていた。

テレビ画面には、委員長の処女膜が引き延ばされて、亀裂が入り初めて、試験管の先が、鮮血で赤く染まっていく…

「あっ～血が出始めたよ…」
「委員長の処女膜が切れちゃうよ…痛そうだよ…」

女の子達は委員長の処女膜が破られる瞬間を見て、眼を背けたり、痛そうな顔付きに成っていた。

マキトは、「確り見るんだ！もうすぐ完全に委員長の処女膜が破れるぞ」

「うっっ～ッッ！、ぎぇ～ッッ！」

委員長の膣内から、処女膜喪失の鮮血がテレビ画面に露に成った！

完全に処女膜は破壊された！
女の子達は、初めて処女膜喪失の実況を見てしまった！

自分達も同じように、まだ処女の喪失を迎えるとは、この時には知らない！

委員長は処女膜をマキトに破られ、仲間に処女膜が破られる瞬間までも、テレビ画面で見られてしまった！

委員長の逆さま吊りの膣唇からは、処女膜喪失の鮮血が滲んで見えていた…

マキトは、「生徒達に次は、潮吹き体験をするから、良く見なさい！」

委員長の猿ぐつわを外した！

「イャーもう止めて下さい！お願いいたします！」

またもや、委員長が実験材料として、使われる。

今度は、足は逆さま吊りのまま、両手を持ち上げて、うつ伏せ状態のままに身体全体を持ち上げて、両手を左右の棚から紐で縛り上げた！

顔や破られたセーラー服の間から二つの乳房は下を向いていた、床から1メートルぐらい浮いた状態で足を拡げられ、オマンコから、アナルまで丸見えの委員長は、恥ずかしく顔を赤くして、

「イャー！！見ないで…お願い・・許して下さい…」

「まだまだ生徒達には、性器養育が必要だから君には協力してもらうからな♪」

マキトは委員長の生殖器を徹底的に責めあげるつもりなんだと！クラスメイト達は感じて、恐ろしくなっていた。眼を閉じていた。

マキトは、右手にゴム製の柔らかなティドールを持って委員長の膣唇に宛てた！

まだ処女膜喪失の鮮血が滲んでいる膣唇にティドールを押し込んで、シゴキ始めた！

「良いか♪良く見なさい、潮吹きがどの様に始まるのか見ておくのだ♪」

委員長は、痛さと恥ずかしさで、拘束されている、手足をくねくねさせて、眼からは涙を床に垂らしていた。

女子高生オークション

バスは秘密アジトに着いた！

「先生と教育実習生さんは、運転手と共にバスに居残りだ、生徒達はバスから降りて、倉庫に入るぞ！モタモタするなよ、三分以内に倉庫に入らない娘は厳しくお仕置きするからな！」

先生達は媚薬付けてもうろうとしていた。

バスは羽山達の秘密アジトに着いて、引率の先生と教育実習生はバスに残して、女子高生達は全て中の倉庫に連れられて入った！

生徒全員が倉庫に入ったら、入口のドアが閉められた！

マキトは「良し命令するから、良く聞くように！！、処女の娘はスカートを履く事を許す！！経験者は、セーラー服だけの姿になれ！！下着は全て脱ぐんだ、一分待ってやる」

羽山は処女の女の子を無理やり強姦したくなり、一番脱ぐのが遅い娘を見つめて！

「はい、時間だ君は俺様の言う事が聞けなかった罰を与えよう♪」

「イャーです…お願いいたします止めて下さい・・・」

出席番号１８番の沼尾まりだな！

「はい！」

まだ下着を脱げないでいたこの娘は、ネットオークションに掛けようと決めた！

「皆注目！この娘は、俺様の言う事が聞けなかったから、此から全てを剥いで、それをインターネット上でオークションに掛ける！！着ている物や娘の大事な物を売りに出すからな、勿論生ライブ画像でオークションに掛ける！！」

マキトは、娘の手足を大の字に天井と床に縛り挙げた。

紐で口に猿ぐつわをして、前方から、携帯電話で動画発信をした！

此からこの女子高生を剥いで解体する、欲しい部位はオークションするから、一番高い金額を提示した者に渡す！！

とメッセージを付けた！

女子高生の生の剥がしオークションが始まった！

全裸にされる女子高生見たさに、オークションには大勢の男達が戯れるはずた♪

女子高生オークション

羽山はオークションの開始をネット上に告げた！処女の確認のために、まりちゃんの右足を上に上げて拘束することにした♪

両手は、万歳をする様に天井からロープで縛り、足も床に縛ってある、更に右足を上に上げて仕舞えば、スカートは、捲れて白いパンティが露に成って行った！

「イイカ！俺様に反抗したら、どうなるか教えてやるからな、良く見ておけ！！」

回りのクラスメイト達は、此れからオークションが始まるのを見つめている、一体どんな物なのか？と想像しながら…

羽山はまりちゃんのパンティを少しずらして、膣唇を開いた、確かに処女膜は有った！

ハサミを持って、白いセーラー服の右手の裾にあてがい、首に向かって切り始めた！肩まで切って行くと、スクールキャミソールの肩紐が現れたのでそれも切った！さらにブラジャーの肩紐を切り右側は終了した。

今度は左側の腕からセーラー服を切り初めて同じように首元まで切りさいた♪こちらは、キャミソールやブラジャーの紐は切らない！残しておく、後のお楽しみにする為だ。

次にハサミはセーラー服のお腹から、乳房の中央の谷間に向かって切り始めた！

まりちゃんの頬から涙が伝って流れ落ちている、猿ぐつわをされて声が出せないでいる、全身を振るわせて、恥ずかしさと、怖さで泣いていた。

ハサミは、セーラー服の赤いリボンの処まで切り裂いて、遂に胸当てを切り裂いてしまい、セーラー服はヒラリと床に落ちてしまった…

羽山はネット上にセーラー服のオークションを始めた！直ぐに最高値を付けた購買者に売った！

「この売上は全て、君の両親に渡すから安心しろ」

次は、スカートにハサミを入れた、腰のホックを外してから、センターの裾から、お腹に掛けて切り裂いた！

スカートも床に落ちた、まりちゃんは、上半身は白いスクールキャミソールに下半身は白いパンティ姿になり、ネット上にその姿を曝しながらオークションに掛けられている。

直ぐにスカートも最高値の購買者に売った！

次はキャミソールの裾から、ハサミを入れて乳房の谷間から、首元までをゆっくりと切り裂いて行くと、おへそが、現れてくる更に切り裂くと、白いブラジャーに包まれた2つの膨らみが次第に見えてきた、ここで残して置いた片方の肩紐を切った！

紐を無くしたキャミソールは、乳房の中程まで捲れて、白いブラジャーの上半分が覗いた！

羽山はハサミを離して、両手でキャミソールを引きちぎった！

それもオークションで売る！

遂にまりちゃんの下着姿がネット上に流れた！

女子高生オークション3

羽山は更にオークションを続けた！

「此からが一番多額で売れる部位が有るんだから、楽しみだな♪」

まりのパンティに指を添えて、クリトリスの辺りや膣唇の辺りを指で触り、パンティに染みを付けた！

この染みを付けた事により、更に値が上がる！！

ブラジャーの背中のホックを外した！

「うっっ・・・」

うめき声をあげるしかないまりちゃんの声…

ブラジャーがゆるんで、白い素肌の乳房が、ゆっくりと上から見えてきた…

「止めてあげて～まりちゃんが可哀想だよ！」

クラスメイトから、叫び声が聞こえた！

「うるさい！！なら代わりに君がオークションに掛けられても良いのか？」

この一言で誰もが、声を掛けられなくなり、静かに見守っているだけに成った。

誰もが自分の裸をネット上に晒したくはない！

羽山はブラジャーを右手で剥ぎ取った！

まりちゃんの白い乳房と薄いピンク色をした乳首が露になり、クラスメイトやネット上に晒されてしまった…形はまだCカップの発達途上の乳房だ！

ブラジャーもオークションに掛けられて落札された。

パンティだけに成り、片足だけで立って拘束されたまりちゃんのネット上のアクセス数はミリオンを超えた！

クチコミがクチコミを呼んでマニアが別のネットに書き込みを続けて行き、あっという間に羽山の開いたオークションに参加した人数も膨大な数に膨れ上がった！

生で女子高生の解体ライブ中継を見る為のアクセス数もあっという間数百万件を超えた！

まりちゃんのパンティに右手の中指で触れながら

「だいぶ濡れてきたじゃあないか？まりちゃんのオマンコは感じて要るのかな？パンティのオークションを始めるからな♪」

「うっっ～うぐっ…」

涙が止まることなく流れ落ちている…

羽山の右手がパンティから離れて、ハサミを握った！

まりちゃんの最後の砦と成っている、パンティの両側の一番幅の短い場所にハサミを入れた！

チョキン！

先ずは右側の端が切り取られた！

上に上がっている足の付け根の部分がヒラリと、開いた…

形の整った茂みが見えてきた…まだ大事な部分は白い生地に覆われている…

更に左側の端にハサミを入れた♪

チョキン！

白い布切れは、ヒラリとゆっくりと床に落ちて行った！

まりちゃんの生オマンコが、クラスメイトやネット上に露に曝された瞬間だった！

右足を大きく開かれて上に上げられて要るために！！まりちゃんのオマンコは大陰唇は開かれて、小陰唇のビラビラや皮の被ったピンク色のクリトリスが丸見えに成った。

膣唇はまだ閉じていて、中は見えていなかった。

女子高生オークション４（後書き）

つづきは２０時頃に成ります。お楽しみに♪

まりちゃんのオマンコが生でネット上に公開されてしまった。

羽山はまりちゃんのオマンコを指で開き始めた！まだ処女の膣唇に中指を差し込んで膣壁やヒダに刺激を与えて、中から愛液が出てくるまで指をクネクネさせながら膣唇を拡げて、産婦人科で使われている、クスコを膣唇から差し込んで、ダイヤルを回してクスコを拡げてゆくと、ピンク色をした、ヒダが膣壁に張り付いた形で見えてきた、まりちゃんの処女膜がカメラを通して、ネット上に公開された瞬間だ！！

「どうだ！君の処女膜が生でネット上に曝されたんだぞ、これまでの最高額で、競り落とされるんだからな、君の処女膜が！」

羽山はまりちゃんの処女膜を切り取って、オークションに掛けると宣言した！

「今までのセーラー服やブラジャーにパンティ処の値段では無い、破格の価格で競り落とされるだろう、君の処女膜は後少しで切り取られてしまうぞ」

羽山はまりちゃんの口の猿ぐつわを外してあげた！

「君の生の声をネット上に聞かせて挙げたいからな！」

「イャ～ッッッ！もう止めて下さい…お願いいたします…何でも言うことを聞きますから、もう許して下さい」

「何でも言うことを聞くなら、続きをしょう」

「もう止めて～ッッッ！！酷いよ！」

羽山はクスコを覗き込んでまりちゃんの処女膜を見詰めながら囁いた！

羽山はまりちゃんの膣唇にクスコを差し込んで拡げながら、医療用のメスてピンセットを取り出した！

イャ～ッッッ！！！！

止めて～ッッッ！

酷いよ…！！

クスコの中にメスとピンセットを挿入した、ピンクの処女膜が膣壁に張り付いてグルリと膣壁からはみ出す用に見える。

膣に傷を付けない用に慎重に処女膜だけを膣壁から、取り除かなければ成らない。

「騒ぐな！オトナシクしないと、膣壁に傷がついてしまうぞ、二度とセックスの出来ない身体に成っても良いのか？」

「あっ…イヤです、止めて～ッッッ！お願いいたします…」

「ならオトナシク俺様の言うこと聞くんだ！」

痛い！！イタイよ～ッッッ！！

羽山はまりちゃんの処女膜にメスを入れて、膣壁から剥がし始めた、ゆっくりと膣壁から、切り取られてゆくまりちゃんの処女膜は、ネット上で生ライブされていた。

女子高生解体ライブ

まりちゃんの処女膜切除の生ライブがネット上で流されてアクセス数も数百万件を超えた！

「痛い！！イタイよ～ッッッ！止めてーっっ！」

膣唇からは鮮血が流れ始めた…

痛い！！痛い！！イャーッ！

まりちゃんの泣き叫ぶ姿もネット上に流された！

羽山はクスコの中に医療メスを差し込んで、少しづつ膣壁を傷付けないように切り取って、ピンセットで切り取られた血の付いたビラビラの処女膜を取り出しては、シャレーに入れた！

膣唇からは処女膜切除の鮮血が流れ出ている、太ももを伝い足首まで赤い鮮血が滴り落ちていた。

処女膜を切り取られた生の女子高生の姿が生々しいネット上で見ていた人々はどんな気持ちで見て要るのだろうかと、羽山は気分が高鳴っていた。

まだ続きをしなければ成らない！

まりちゃんの膣唇に入れてあるクスコを処女膜の位置で止めて有るのを更に膣内の奥に差し込んだ！

「止めてーっっ！もう許してください…お嫁に行けないよ…」

「このネットを観覧している人々は沢山いるから安心しろ、君の子宮を見て欲しいなと言ってくれる人々は沢山出てくる筈だから！！」

鮮血は処女膜の有った部位から流れ出しているため、更に奥の子宮唇はピンク色をした綺麗な入り口が見えてきた。

クスコの中に内視鏡を挿入して、まりちゃんの処女の子宮唇を押し開いて、子宮の中に内視鏡を挿入した、先にはライトが付いていて、綺麗な子宮内がカメラにより、ネット上に公開された、女子高生の子宮膜切り取りから、更に膣内の奥深い子宮内が見られる事から、更にアクセス数は増加した。

羽山は切り取ったまりちゃんの処女膜をネットオークションに出した！

あっさりと高値で落札された♪次の商品は彼女の子宮がオークションに出された！

男性限定で授精をして孕ませる、更に彼女が卒業するまでに、出産させる事の出来る権利をオークションにだした。

「君には卒業まで、何回か出産してもらうからな、今から君の処女の子宮がオークションに掛けられるんだ嬉しいだろう」

羽山はまりちゃんに酷い一言を告げた！

「もう助けて！お願いいたします！！これ以上酷い事はしないで…」

まりちゃんは全裸で子宮内をネット上に曝しながら子宮をオークションに掛けられた。

泣き叫ぶ姿もネット上では、興奮のためのエキスや刺激に成ってしまっていた。

遂には、まりちゃんの子宮も高額で落札されてしまった。

「君は此れから卒業するまでに、落札した男だけに膣や子宮を使うんだからな！」

「イャーっっ！いやだよ！自由にして下さい！」

「まだ君は良く解っていないみたいだな！落札した男は君のご主人様になるんだぞ、そうだ良いことを教えて上げよう♪」

「・・・・・」

まりちゃんは涙を流しながら羽山を見つめた。

ご主人様からの要望で君のピンク色をしたクリトリスが欲しいそうだ！

「今から君の皮の被った可愛クリトリスを皮ごと切り取ってご主人様に送る事にしょう。乳首も欲しいと言っていたのだか、其では妊娠して、赤ちゃんを産んだらおっぱいを飲ませられなく成るからな…」

「イャーッッ！そんな酷い…ヤメテ…下さい！お願いいたしますから！」

「ダメだよ、ご主人様に逆らったら♪」

羽山はまりちゃんのクリトリスを人差し指と中指で摘まんだ！

「もうじきに、女の子の一番感じるクリトリスが切り取られたれるのだぞ」

女子高生の生殖器を売り飛ばす

羽山はまりちゃんのクリトリスを左手の中指と人差し指で摘まんで、右手には手術用のメスを手にした！

この娘のクリトリスを此からが切除するから、処女の女の子は、体育座りをして、足を開くんだ！

「自分の膣唇を両手で開いて処女膜を見せなさい！セーラー服は乳房の上まで捲り上げて、自慢の乳首も露出するんだ♪」

「イヤです！！」

「許し…其だけは！」

「そんなこと…出来ません！」

「嫌ならこの娘の様にネット上で生殖器のオークションに出すぞ！」

羽山の脅しに！！処女の女子高生達は、嫌々体育座りをして、セーラー服を捲り乳首を曝し始めた！

まだ恥じらいがあるために手を乳房に添えて隠しながらセーラー服を捲り上げる姿が初々しい！！

仕方なく足を開いて、大陰唇を左右に開く姿も恥じらいを感じる！！

勿論この姿もネット上で公開していた。

女子高生達の処女膜公開ライブと銘打って！

女子高生達の処女膜を1人づつ撮影して、形や色の違いをマキトはネット上で紹介した。

いよいよまりちゃんのクリトリス切除の時間が迫る！！

羽山はメスをクリトリスの根元に添えて！カウントダウンをした。

後五秒で女の子の一番感じるクリトリスが切り取られるからな、もう二度と快感を味わえ無くなるんだぞ♪

「ヤメテ～ッッ！嫌だよ！！」

さあ！皆もカウントダウンを数えるんだ！

羽山は処女膜を見せている女の子達にもカウントダウンをさせた！

5

4

3

2

1

ゼロ

「ぎゃーあああああ！！」

羽山は右手のメスでクリトリスの皮の被った根元ごと切り取った！

クリトリスの有った場所からは、鮮血が流れでて、大腿部から膝にかけて滴り落ちてゆく…

この処女膜切除やクリトリス切除と女子高生達の生処女膜をネット上で観覧した人々は、日本だけに留まらず海外でも数千万人の人々が観覧することに成った！
ライブ中継を録画した動画は更に全世界で数億人が観覧する。

羽山は切り取ったクリトリスをシャレーに入れて、クラーボックスに入れた！

落札した人にまりちゃんのクリトリスをクール便で送る為に…

まりちゃんは、拘束された手足の紐をほどいてやっと自由にされた！
ぐったりと床に倒れ込んだ！しかし、全裸のまま催眠ガスを嗅がされて意識を喪った！

そのままトランクの中に入れられて、子宮の落札をした男の所に届けられて、卒業するまでご主人様の精子を子宮内に受け入れて、赤ちゃんを産み続けなければ成らなくなった！

羽山は処女膜を見せている女子高生を一人づつ強姦を始める為に、両手を後ろ手に縛り挙げた！

処女の女の子達の強姦シーンが此れからネット上で公開される。

経験者の女の子達にも、２人一組に成って、ラブドールを使った、

潮吹き、レズショーをするように命令した！

従わなければ、まりちゃんの様な解体ショーを行いネットオークションに掛けると、羽山は女子高生達を脅した！

「ヤメテ～ッッ！」

「言うことを聞くから許して下さい…」

「イャ～ッッお母さん！！助けて～」

「助けて～っっ」

鳴き声を上げる女子高生達を睨み付けながら羽山は次のショーの為の準備をしていた…

処女の女子高生達を一人づつ強姦するための…

吊るして食事

反抗的な少女二名を全裸にして吊るした。

見せしめとネットの視聴率を上げるために…

一人目の少女は両方の乳房を切り取られて胸から鮮血を流して全身をピクピクと痙攣させていた…

もう一人は下腹部を切り裂かれて、処女膜のままの膣と子宮から卵巣までを切り取られて、股間からは激しい鮮血が滴り落ちていた。こちらの少女はぐったりとして虫の息だ！

男達はレイプを繰り返しながら、お腹を空かせていた！

そこでこの反抗的な少女二名を餌に選んだ！

完全に狂った狂気の世界に成ってしまった。

男達は吊るした少女の生殖器や乳房をむしゃぶり焼いたり、煮たりして、大腿部や手足の一部を切り取っては食べ始めた。

それから

沢山の皆様に楽しんで頂き感謝感激しています。

引き続き続編を執筆しますので、宜しくお願いいたします。

皆様に楽しんで頂ける作品を創作しますね、更にエロ全開な内容に仕上げます。

続きををお楽しみにしてお待ち下さいね。続きは2ヶ月後からのストーリーに成ります。

只今構想中につき内容は秘密です。

パワーアップしたストーリーを期待して下さいね。今年は異常気象で突然の集中豪雨や寒暖の差に気をつけてお過ごし下さい。

風邪も流行っていますので早めの対策をされます様に。

女子高生のフルコース（前書き）

男達は目の前の女の子の身体を切り取っては、焼いて垂れに浸して食した。

処女の女性性器をしゃぶしゃぶの用にお湯に浸してから、ゴマだれに入れて食べていた…

周りの女の子達は、震えながら、又は涙を流しながら男達の残酷な振る舞いを見守っていた…

抵抗したら、自分も男達の餌食にされてしまうから、声を出す事も、騒ぐ事も出来ないでいた…

静かに事が終わる事だけを待っているしか無かった。

男達の宴会は明け方まで続いた…

残ったのは2人の女の子の骨だけに成っていた…

無惨…

無惨…

周りにいた女の子達も眠ることなく朝を迎えた。

女子高生のフルコース

男達は女子高生におとなしくするんだ！と告げた。

女子高生達が

「貴方達は誰何ですか？目的は・・・！？」

君達は、おとなしく我々の言う通りにすれば其れで良いんだ！質問は許さないからな、逃げたら俺達は容赦しないで犯して孕ませるから覚悟しろ！

俺達は女子高生達を体育館の真ん中に集まる様に命令した。

体操着の女子高生達は、ゆっくりと体育館の中央に集まると、俺達に犯されてしまうのか？または恥ずかしい想いをさせられるのかと、ひそひそ話をしていた…

「五月蝿い！！喋るんじゃあ無い！！静かにしろ！」

「犯されたいのか？」

男達はキャスパーに決して女子高生達を犯してはいけないと忠告されていたが…

目の前に恥らしい格好をした、初々しい女子高生を見詰めて、早く犯したい！！子宮内に精子をぶちまけたい…と内心思っていた。

男達は
「君達の他に仲間は居ないのか？」
と彼女達に聞いた！

「はい！先輩達は、私達一年生に後片付けと掃除をしろと告げて、帰宅しました、ここにいる８人の一年生だけです。」

男達は「解った！」
と一言告げた。

其処に校内放送が入った

キャスパーが遠隔操作で、放送室経由で、話し出した！

定期連絡！定期連絡！
各班に告ぐ、只今よりすぐに、捕獲した女子高生達を一年Ａ組の教

室に案内しろ！体操部や私服の女子高生達にセーラー服姿に着替えさせてから、連れて来るんだ！

定期連絡を終了する♪

体育館の男達は、目の前の体操着すがたの女子高生達に直ぐにセーラー服に着替える様に命令した。

「私達の制服は、更衣室のロッカーに有るから…更衣室に行かないと着替えられません…」

すると男の一人が、目の前に居る女の子に命令した。

「君の名前とスリーサイズを教えろ！」

「名前はめだかです！スリーサイズは解りません！」

俺が調べてやるから、後ろを向くんだ！

めだかはゆっくりと後ろを向いた…

男はめだかの後ろから、胸を触りだして、体操着の上から乳房をゆ

っくりと揉みはじめて、「８５のCカップだな、」腰に手を廻して「５６ぐらいかな?」
お尻や太ももをゆっくりと触ったりして、「８８位かな?良く覚えて措くんだ!」

「俺と更衣室に行くぞ、皆のセーラー服をここまで持って来るんだ!」

俺は、めだかの右手を自分の目の前まで引っ張ってめだかの唇にキスをした!

挨拶代わりだ!更衣室まで一緒に行くぞ!

めだかはいきなり俺とキスをして、あたふたした!

新たなる獲物（前書き）

獲物を探し、獣達は新たな学園を探しだした

狙われる学園の女の子達に待ち受ける運命は…

又しても獣の餌食にされる女子高生達

お楽しみ

新たなる獲物

獲物を求めてさ迷う獣達はある学園を見つけた。
清純そうなお嬢様が通う学園だよな
男は呟いた
「よし次はこの学園に決めたぞ、リーダーに報告するんだ、俺は一足先に潜入する。」
エノンさんは潜入が得意てすものね、今回は何をするんですか★？
「無論、女子高生達を感触するのよ、通信妨害しながら楽しむぜ♪ウハハハは
」
つまみ食いするとリーダーに制裁受けますよ、女の子には手を出さないで下さいね、私も怒られますから、先生には何をしても構いませんがね。
エノンは一人学園に潜入する、いつもの様に事務員を見つけて確保して、身ぐるみ剥がした、自分の服を脱いで着替えてから学園長の部屋を目指す。
ドアをノックして、お茶をお持ちしました。と嘘をついて中に入る、睡眠スプレーを取り出して学園長に向かい発射した。

直ぐに効果が現れて倒れた。

新たなる獲物（後書き）

続きをお楽しみに

只今構想中近日中に更新します。

潜入1（前書き）

エノンは学園に潜入し、学園長室を占拠した。

後から来る改装部隊をまってる間に

リーダーに連絡、任務完了の褒美を要求した

潜入1

学園長を捕らえたエノンは通信妨害装置を作動させた。
此れで外部と隔離できた。

作戦の第一段階完了の通知をリーダーにすることにしょう。

成功報酬に3人ぐらいは食べさせて貰える筈だ♪

早速学園長室から固定電話を使いリーダーに完了報告を入れた
「学園長室の占拠と確保に通知妨害装置を作動させた。ご褒美に3人食べさせて貰えるますよね

「ご苦労、褒美は取らすが一人にしろ、今から改装部隊を送るからお前は学園長に成り済まして、平静を装うんだ、俺達は明日の朝学園に向かう、全校生徒を必ず登校されるんだ！」

残念だ、一人だけかよ詰まらん！

さと帰る前に可愛娘を物色しるかな♪

エノンは学園長に成り済まして、下校前の女子高生を物色した。

すれ違う生徒達はお辞儀をしてサヨウナラと言ってくれる。

学園長は心地良い

可愛娘が沢山居るんだな♪だかまだまだ、たった一人しか食べさせて貰えないんだ、改装部隊が到着するまでには時間がある。

おれごのみの可愛娘を見付けよう♪

「先生サヨウナラ」

おっこの娘は　俺好みだ

「君、名前と学年は？」

お辞儀をした生徒は学園長に呼び止められた

「一年Ａ組の百瀬ゆりです」

そうか百瀬君か、君に聞きたい事が有るんだ、時間は取らせないから学園長室まで来なさい。

百瀬ゆりは一体何だろう？と気になった、学園長だから仕方ないか…

後について学園長室に入った。

潜入1（後書き）

続きをお楽しみに

百瀬ゆりの運命は

このあと改装部隊が到着して、深夜の学園を改装した。

明日の朝、リーダーが学園を占拠しに来る！

つづき

エノンは百瀬ゆりを学園長室に招き入れた。エノンは学園長に変装して居るために百瀬は気付いてはいない♪

「私は学園長であるが医師でも在るのだよ、君達の身体の事を何時も心配している、君に聞きたいのは、女の子の病についてなんだ、最近の女子高生達は何も性知識や病気に感心がないので困っている、中には梅毒やＡＩＤＳ、に侵されている娘が我が学園にも居ると知った、其処で女性生徒全員に健康診断をしたいと考えて要るのだが君の意見を聞きたくて声を掛けたんだ」

百瀬は学園長の話を聞いて、自分は男子と付き合った事が無いから心配してないけどもクラスメイトには彼氏と付き合っている娘が居るから、健康診断が有ったら良いですねと答えた。

するとエノンは
君には彼氏がいないのか?そうか、清純そうな雰囲気からまだ処女なんだと確信出来た。

早く食べたい♪

焦るな時間はたっぷりと有るからな、先ずはこのあと娘の処女膜を見てみたい♪

突入前夜

高校を占拠するために別動部隊が校庭に侵入した。
明日の朝迄に全ての教室に有るものを設置する。

冷蔵庫や、手術用具に、拘束するためのロープやビスガムテープ等を詰め込んだ箱を全ての教室に用意した。

更に校門の扉や、玄関のドアや各教室の窓や入り口のドアにも細工を施す。

体育館には、特別な催し物を執り行う準備を整えた。
夜の学校では、校長室に女の子の悲鳴が鳴り響いていた。

どんな悲惨な事態に成って要るのか!?準備を進めている別動部隊の人々は、早く朝に成らないかと待ち望んでいる。

俺はあれを試したい、食べたい。

ヨダレを滴ながら、妄想に更けながら準備を進めている。

見せしめ

見せしめの為に、準備を進めた。

眠らせた生徒会長の制服を脱がして全裸にした。

更にこの娘は見せしめの為に生け贄となるべく…

二つの乳房を切り取られ、チーズをまぶして焼かれた。

二つのこんがり焼かれた乳房が大きな皿に盛られる。

次に足を開いて、女性器を全て摘出した。

クリトリスは皮を剥いて切除され、乳房に添えられた。

処女膜付の膣と子宮に卵巣と卵管は綺麗に取り出されて、生々しくアルコール浸けにした。

生徒会長は乳房を失ったまま、セーラー服を着せられ椅子に座らされた。

下半身は何も身に付けていない、膣を取り出された穴からは鮮血が腿を伝い流れ出している。

朝を迎えた

いよいよ決行の朝を迎えた。

実行部隊は体育館に召集されて、生徒達が登校する様子を大きなモニター画面で見ていた。

俺はあの娘が気に入った！

俺は彼奴が良い、早く食べたい…我慢出来ない♪

男たちは、股関を抑えながらヨダレを流して登校中の女の子達を鑑賞していた。

一方

幹部達は学園長しつにて、生徒会長の黄金焼きした二つの乳房を味わっていた。

二皿に分けた乳房をナイフで切り取りフォークで刺して口に運んで食べていた。

既に意識の無い生徒会長は椅子に拘束されて、女性器の有った処から、鮮血をおしっこみたいに垂れ流していたが、まだ生きていた。

幹部達は生徒会長の前で彼女の二つの乳房を美味しそうに味わっている。

新任教師

生徒達が全員教室に入った事を確認して、いよいよ行動に移った。

各クラスの入り口のドアがロックされた、外から中に入れるが、中からは出れなくなる。

そんな事とは知らずに生徒達は先生が来るのを待っている。

体育館にスタンバイしていた、実行部隊は各クラスに別れて教室に向かい走り出した。

午前８時３０分に学園長室から校内放送が流れた。

「おはよう、私は今日学園長に就任した安倍晋三だ、只今からこの学園は私の支配下に置かれる、各クラスには新しい担任が赴任する、皆さんは担任の指示に従う事を勧める。」

校内放送が終了すると各クラスでは、ザワツキ始めた。

突然新しい学園長が就任したの？

担任の先生も代わるの？

授業はどうなるのよ！？

そこへ各クラスに新しい担任がドアを開けて現れた！

「キャー！なに！？」

各クラスに入った担任は、下半身パンツ姿だった。

二人エッチ（前書き）

恵美は不思議な夢を見ている！

二人エッチ

信人はメガネっ娘のブラジャー越しに乳房を揉んで興奮が段々と込み上げてきて、チンチンの先に我慢汁がにじみ出てきて、光だした…

それを見ていた男達は

信人の姉に

「弟のチンチンが、メガネっ娘の身体を見て、弾けるばかりに勃起しているのが見えるだろう、弟のチンチンをしゃぶって、お姉さんの口の中でイカせるんだ！」

姉は信人のチンチンが大きく勃起して、先から我慢汁を出して射るのをみた、何て大きく反りだしているんだろうと、こんなのが女の子の胎内に入るのだろかと!?

弟のチンチンを見て少しずつ興奮を覚え初めていた…

弟のチンチンに近づいて、大きく反りだした物を目の前で眺めていた。

男達は姉に

「両手を使って、チンチンの先にあるガリを握ってゆっくりとしごいてから、口の中に入れて、奥までチンチンを加えて、舌で先を舐めながら、入れたり出したりして、イカせるんだ！」

信人はメガネっ娘の乳房や白いパンティに夢中で姉が近づいてきて、自分のチンチンに今にもしゃぶり付こうとしているのに気が付いていない…

姉は、勃起した弟のチンチンに右手を添えた…

熱く、ピクピクと波打っていた♪

信人は姉にチンチンを触られて、ビクンとして何が起きたのかと？

メガネっ娘の唇を愛撫するのを止めて！？自分の下半身に眼を向けると…姉がチンチンを触っているのを…

自分の姉がチンチンをしごいていた♪

男達は信人に

「お姉さんに口でイカせて貰いながら！君はメガネっ娘を全裸にしなさい！」

信人は姉にチンチンをしごかれて、全身が興奮に包まれてきた。

早くメガネっ娘を脱がして、全裸の素肌を見たい…

ゆっくりとブラジャーの背中に手を廻して、ホックを外した…肩からブラジャーの紐をさげたら、白い肌から、二つの膨らみが現れた、先っぽにピンクのさくらんぼが見えてきた…綺麗だ！

ピンクの乳首をしゃぶってみたくなり、口に含んだ！

メガネっ娘は眼を閉じながら、息づきかいが荒くなって、乳首が固く勃起しはじめた♪

二人エッチ（後書き）

信人は白いスクールキャミソールの肩紐に手を添えて引きちぎり、キャミソールの生地を掴んでゆっくりと肩から下に…引き下げ始めた…

白いブラジャーが見えてきた…二つの膨らみを包んだ柔らかい乳房の山が信人の興奮を一層に刺激した。

更にキャミソール引き下げて、お腹から腰に…

可愛い千秋のお腹の真ん中におへそが見えてきた…

ゆっくりと引き下げると、初めて見ることになる、千秋の白いパンティが少しずつ見えてきた…

お尻がプリンと露になり、キャミソールは太ももから膝に下げられて、遂に地面に落ちて、千秋はブラジャーとパンティだけの下着を男達の視線に曝した！

信人は、ブラジャーの上に両手を被せる用に添えてゆっくりと乳房を触り、もみくちゃに揉んだり、パンティの上から、千秋の秘密の花園を触り始めた…

千秋は、下着姿を男達や信人にさらして、恥ずかしさの余り、眼を閉じてしまって、口をパクパク動かして我慢していた。

二人エッチ2（前書き）

二人エッチ2

二人エッチ2

信人は白いスクールキャミソールの肩紐に手を添えて引きちぎり、キャミソールの生地を掴んでゆっくりと肩から下に…引き下げ始めた…

白いブラジャーが見えてきた…二つの膨らみを包んだ柔らかい乳房の山が信人の興奮を一層に刺激した。

更にキャミソール引き下げて、お腹から腰に…

可愛い千秋のお腹の真ん中におへそが見えてきた…

ゆっくりと引き下げると、初めて見ることになる、千秋の白いパンティが少しずつ見えてきた…

お尻がプリンと露になり、キャミソールは太ももから膝に下げられて、遂に地面に落ちて、千秋はブラジャーとパンティだけの下着を男達の視線に曝した！

信人は、ブラジャーの上に両手を被せる用に添えてゆっくりと乳房を触り、もみくちゃに揉んだり、パンティの上から、千秋の秘密の花園を触り始めた…

千秋は、下着姿を男達や信人にさらして、恥ずかしさの余り、眼を閉じてしまって、口をパクパク動かして我慢していた。

二人エッチ（前書き）

二人エッチの本編が始まります。

二人エッチ

朝目覚めると違和感を感じた？
私の名前は石原みなみ

ベッドの下から覗き込むような視線を感じたから！
下に視線を向けると知らない女の子が床に横たわりながら私の顔を見ている。

不思議な夢でも見ているような錯覚に見舞われたのかな、最近疲れが貯まっていたので改めて目頭を軽く擦りながら床に目を向ける。

やはり間違いなくそこには女の子が床に横たわりながら私の顔を見ている。
「貴女は誰なの？どうやって私の部屋の中に入って来たの？」
確かにドアの鍵はかけたはずだから、普通に考えたら絶対に入れないけど確かに目の前には女の子が居る。

私の問いかけに目を丸くして、口を動かしているが全く声に成っていないので何を言いたいのか解らない。

夢でも見ているのかと思ったが、違うみたいだ・・・・・

「君は何が言いたいのか解らないけど、名前は？」
目の前に居る女の子に再度訪ねた。

二人エッチ（前書き）

本編続きに成ります。

二人エッチ

名前を聞いるのに、私の顔を見て笑っている！
容姿をみるとまだ幼さが残る１５歳くらいな感じがする。
女の子の目頭がうるうるしている。

私を見詰める態度がなんだかいやらしさに変わってきた様に感じて背筋がゾクッとする。

「君は一体何者なの？名前くらい教えなさいよ！」

すると女の子は床に横たわりながら、着ている衣服を脱ぎ始めた？
部屋の温度は快適に設定してあるから暑くは無いと思っていたので驚きながら女の子の仕草を見ていると！

ついにブラウスとスカートを脱いで、上下とも白い下着姿に成ったと思ったら、いきなり立ち上がり私のベッドに上がり込み、私に抱きついた。

二人エッチ（前書き）

続きです。

二人エッチ

いきなりベッドに上がり込み私の隣に横たわる女の子？

すると私の胸にしがみついた。

「何をするのよ！離れなさい」

女の子は怯えだした。

全身を小刻みに震えながら私に更に力強い抱きついてきた。

寂しそうに震えている女の子を不審に思ったが、考えて見れば私も一人ぼっちの身、この子の気持ちは解らないでも無かった。

名前も知らない、況してやどうやって私の部屋の中に忍び込んだのか解らないけども・・・・

私は女の子の頭を撫でながら呟いた。

「怖かったの？もう大丈夫だからね。」

すると女の子の震えは和らいた。

私は女の子をそっと抱きしめてあげた。

すると女の子は私の顔を見て笑った。

すると私の胸に手を添えてゆっくりと触り始めた。

乳首を探して要るように指先の動きがおっぱいに伝わり、

ウッ！アッ！

私は小さな声を出してしまった。

二人エッチ（前書き）

続きです

二人エッチ

女の子は私の胸に自分の唇を押し当てる！
その行動はまるで赤ちゃんがお母さんに甘えて要るように感じた。

私のパジャマをまくり上げるようにしながら敏感な乳首を探している手付きと、甘えるような仕草を意外にもいとおしく思えた私の気持ちは異常なのかと思いながら抵抗することも無く女の子を抱きしめている。

女の子の唇からピチャッピチャッと音が聞き取れる！

まさか？私のおっぱいを欲しがって居るのだろうか？

私はまだ男性との経験が全くないから、母乳は絶対に出ないのに・・・

どうしたものかと考える時間は無かった。

女の子は私のパジャマを捲り上げてついに右の乳首にしゃぶりついた！

アッ！ヒュ・・
思わず声をあげてしまった。

二人エッチ（前書き）

続きです。

二人エッチ

いきなり乳首を噛まれた！
アッ！
しゃぶりついたのにも驚きを感じたばかりなのに噛まれた刺激に身体が直ぐに反応した。
「噛んじゃ駄目でしょう。」
少し力強い言葉で叱る。
女の子は怒られてまた身体を萎縮する。
目を潤ませて涙が零れ落ちそうに成ったのを見て、この子のはまるでまだ赤ちゃんみたいだと改めて思った。
仕方無く頭を撫でながら
「君の名前は？いくつなの？」
名前と歳を訪ねた。
まだうじうじとしながら口を開こうとしない。
困ったなぁ・・・・・
このままの状態ではいけない、この女の子は何処の誰なのか？家出をして来たのか？
それとも何か事件に巻き込まれたのか？
何か事故にでも逢って一時的に記憶を無くしたのか？
それとも何かのショックで言葉を話せなく成ってしまったのか？そ

れなら警察や児童相談所に連絡しなければ成らない、と思いを巡らせた。

この作品の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
https://novel18.syosetu.com/n0940bl/

狙われた学園（制服女子高生レイプ）

2024年7月28日14時54分発行